

濤沸湖環境保全活用ビジョン

～ 広げよう！私たちがつなげる命の輪、濤沸湖 ～



平成23年3月

網走市・小清水町

澗沸湖環境保全活用ビジョン 目次

はじめに

1章 現況（特性）と課題

I 澗沸湖および周辺区域の現況（特性）

1 自然分野の特性

(1) 地形・地質	1
(2) 気象	6
(3) 水象	7
(4) 水質	9
(5) 自然景観	17

2 生物分野の特性

(1) 鳥類	18
(2) 植物	21
(3) 魚類	27
(4) 底生動物	28
(5) 陸上昆虫類	30

3 社会分野の特性

(1) 交通	33
(2) 環境関連	35
(3) 産業	40

4 行動分野の特性

(1) 観光、イベント、環境教育	42
------------------	----

II 澗沸湖および周辺区域の課題

1 自然分野の課題	45
2 生物分野の課題	46
3 社会分野の課題	47
4 行動分野の課題	48

2章 計画の理念と未来像

I 計画の背景と理念

1 計画の基本背景	50
2 計画の基本理念	51

II 計画の目標と位置づけ

1 計画の未来像（全体目標）	52
2 分野別の未来像（目標・展開方向）	52
3 計画の基本的事項	53

III 計画の理念と未来像の体系	54
------------------	----

3章 計画の分野ごとの施策と手法

I	自然分野	55
II	生物分野	58
III	社会分野	61
IV	行動分野	66
V	重点的に取り組む施策	
1	自然分野の重点施策	69
2	生物分野の重点施策	69
3	社会分野の重点施策	69
4	行動分野の重点施策	70
VI	計画の進め方	70

4章 計画の施策体系と取り組み

I	取り組み方針の全体体系	71
II	未来像・取り組み・手法の全体図	72
III	施策体系、重点施策	73

5章 参考資料

I	計画の策定経緯	74
II	計画の策定体制	78
III	計画における住民会議と委員会の反映（スケジュール）	80
IV	策定委員会	81
V	住民会議の概要報告	82
VI	参考資料・文献	118
VII	用語集	137

はじめに

わたしたちのまち、網走市と小清水町は、オホーツク海に面し、5つの湖（濤沸湖、網走湖、能取湖、藻琴湖、リヤウシ湖）と多くの河川、広大な森林、農地に囲まれており、その美しく豊かな自然の恵みとともに、発展を遂げてまいりました。

なかでも、平成17年11月にラムサール条約に登録された汽水湖である濤沸湖は、野鳥や昆虫、植物、魚など、多くの生物にとって貴重な生息地であるほか、昔からスジエビやワカサギ、カキなどが獲れる内水面漁業の漁場としても利用されており、後背地の河川周辺域では、農業や酪農が盛んです。

また、湖の近くには、野鳥が近くで観察できる“白鳥公園”のほか、約40種類の野生の花々が咲く“小清水原生花園”などもあり、知床半島や斜里岳などを背景にした濤沸湖の美しい景観を眺めに多くの人々が訪れています。

一方、近年では、廃棄物の増大、水質汚染、地球温暖化など、生活の身近なところから地球規模にいたるまで、自然環境をめぐる課題がクローズアップされています。

濤沸湖と周辺地域においても、景観を阻害する状況、自然現象や外的要因と考えられる地勢や水環境、植生の変化、生物の生息域の減少懸念などが各方面から指摘されています。

美しい自然景観を残し、貴重な自然資源を保全し、生物を慈しみ、自然と調和した持続可能な社会を築き、次世代に引き継ぐことは私たちの大きな使命です。

このような背景のもと、網走市と小清水町は、長期的総合的視点で、濤沸湖と周辺地域において、自然資源の保全と再生、賢明な利用を図り、次世代に継承するため、『濤沸湖環境保全活用ビジョン（以下、「計画」という）』を策定しました。

この計画は、3つの基本理念（保全と再生、交流と学習、賢明な利用）をもとに、『自然の保全と再生、うるおう空間づくりと賢明な利用を進めて、次世代に継承すること』を未来像（全体目標）とし、自然、生物、社会、行動の各分野で、目標（展開方向）や取り組みを掲げて、住民、団体、事業所、行政・研究機関が一体となって推進していくための指針を整理しました。

今後は、この計画に基づき、様々取り組みを進めてまいりますので、皆様のご理解と取り組みへの積極的な参加をお願いいたします。

最後に、この計画の策定にあたり、熱心にご審議をいただいた『濤沸湖環境保全活用計画策定委員会』の委員、貴重なご意見やご提言をいただいた『濤沸湖環境保全活用計画住民会議』にご参加の皆さん、ご協力いただいた多くの皆さんに感謝申し上げます。

平成23年3月

網走市長 水谷 洋一
小清水町長 林 直樹

1章 現況（特性）と課題

I 濤沸湖と周辺地域の現況

1 自然分野の特性

(1) 地形・地質

① 流域の諸元—濤沸湖の流域図（P.2）

オホーツク海の南部沿岸には北からサロマ湖、能取湖、藻琴湖、濤沸湖の四湖沼の存在がある。これらの湖沼はすべて海跡湖であり、オホーツク海に湖口をもつ汽水湖である。

湖沼の諸元¹⁾

	濤沸湖	藻琴湖	能取湖	サロマ湖
成因	海跡湖	海跡湖	海跡湖	海跡湖
高度	1.0m	1.0m	1.0m	3.0m
湖面積	9.01 km ²	1.1 km ²	58.51 km ²	150.0 km ²
湖体積	9,960千m ³	1,930千m ³	500,000千m ³	1,300,000千m ³
最大水深	2.5m	5.8m	21.2m	19.5m
平均水深	1.1m	1.7m	8.5m	8.7m
周囲長	30km	5.5km	32km	72km

1) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（1-16）

湖沼流域の諸元²⁾

	濤沸湖	能取湖	藻琴湖	サロマ湖
集水面積	187.6 km ²	199.4 km ²	187.3 km ²	881.0 km ²
流域関連市町村	網走市 大空町東藻琴 小清水町	網走市	網走市 大空町東藻琴 大空町女満別	留辺蘂町 湧別町 佐呂間町 常呂町

2) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（1-4）

濤沸湖はこのうち最も東に位置する湖で東西に長く南北に短い形をしており、北西端の湖口によってオホーツク海と接続している。水深は四湖沼のうちで最も浅い。

濤沸湖の流域は藻琴山山頂を最高点とし、丸万川、オンネナイ川、浦土別川などの河川が南岸より流入する。

濤沸湖の流域図³⁾



3) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（1-5）

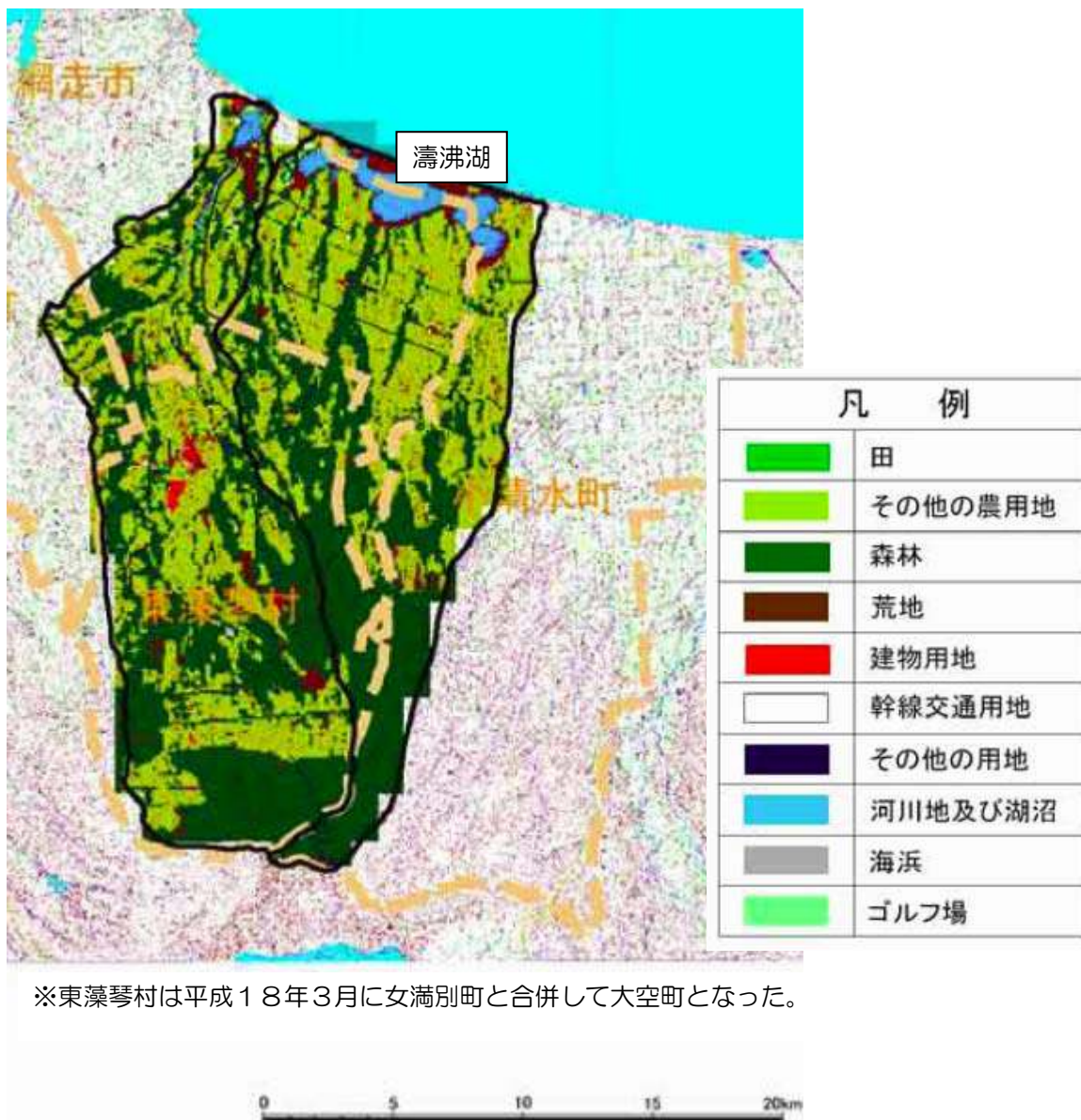
② 地形・地質

周辺地形と土地利用 一周辺土地利用図 (P.3)

濤沸湖は、網走市と小清水町との境界のオホーツク海岸に位置し、西北西側に海に通じる水路がある。濤沸湖のオホーツク海側の北北東側は、幅 300m 高さ 15m の砂州によってせき止められ、原生花園となっている。

集水域の土地利用は、山林や湿地などの自然地がある一方で、酪農や畑作などの農業活動も盛んである。

濤沸湖周辺土地利用図¹⁾



1) 財団法人河川環境財団(2005)平成17年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書(1-6)

周辺地質 一周辺地質概略図 (P.4)

澇湖周辺の地質には堆積物による沖積地(完新統)が多く見られるが、後背地では火砕流堆積物からなる丘陵性山地(更新統)が広がる。ともに新生代第四紀で1万年くらい前までの新しい地質が完新統、180万年前までのやや古い地質が更新統である。

周辺地における地質概略図²⁾



2) 財団法人河川環境財団(2005)平成17年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書(1-15)

湖沼地形

濤沸湖は、東西に長く南北に短い形をしており、オホーツク海とは北西端の短い水路で結ばれている。全域にわたり水深は 1m前後と浅く、開口部と湖心を繋ぐ位置に滞筋状の深場（最大水深 2.5m）が見られる。平成 4 年から 8 年にわたり滞筋等の浚渫が行われた。

地形図上で確認できる昭和 40(1965)年以降の湖岸の経年変化としては、南西側の実豊付近における湾入部(ポント)の閉塞・分離と、南東端(浦土別川・スッポチ川流入部)における低湿地の拡大が顕著である。—湖沼地形の経年変化 (P.5)

湖沼地形の経年変化³⁾



平成 1～11 年




昭和 52～平成 1 年



昭和 40～52 年



昭和 40 年

 は、変化の顕著な部分

3) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（1-13）

(2) 気象

湖沼周辺での気象は周りの山により雨雲がさえぎられるため、降水量は少なく、日照時間が長いといった特徴がある。

年平均気温は約6~7℃となっており、8月に最も高く、1~2月が最も低くなる傾向が見られる。降水量は年間約800mmで7~9月に多くなる傾向が見られる。

風は冬季から春季にかけて風速が強くなる傾向が見られ、風向は南西から南南西の風が卓越している。濤沸湖では冬季に北寄りの風が強くと吹き、漂砂が湖口に堆積して水路の閉塞が見られる。

日照時間は、120~180時間/月と高い値を示しており、5月から6月にかけて最高値を示す。

月別気象観測結果 ※アメダス観測データ（平成7年~平成16年の平均値）¹⁾

観測地点	項目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均(計)
佐呂間	降水量 (mm)	44.8	29.4	28.9	31.1	52.8	45.7	112.4	94.8	116.9	60.9	53.5	44.9	716.1
	降雨日数 (日)	14.4	11.1	12.1	10.2	10.0	11.1	14.8	13.6	13.1	11.6	11.7	12.0	12.1
	気温 平均(℃)	-8.8	-9.3	-3.7	4.6	10.4	14.2	17.9	18.8	15.2	8.9	1.9	-6.4	5.3
	日照時間 月計(時間)	100.8	127.1	159.3	160.7	160.3	143.8	118.0	139.7	147.1	140.6	113.2	103.7	134.5
	風速 平均(m/s)	2.3	2.2	2.7	2.8	2.8	2.1	1.8	1.8	2.1	2.4	2.5	2.2	2.3
常呂	降水量 (mm)	46.9	24.0	30.7	36.9	55.3	54.6	107.2	97.4	122.5	68.7	55.3	45.9	745.4
	降雨日数 (日)	13.8	9.2	10.0	8.8	10.4	10.7	13.8	12.4	12.8	11.7	12.1	12.3	11.5
	気温 平均(℃)	-6.6	-7.8	-2.8	4.6	10.0	13.6	17.2	18.9	15.9	10.1	3.3	-4.1	6.0
	日照時間 月計(時間)	108.8	147.3	176.5	168.9	169.7	161.4	128.0	155.7	158.5	145.0	110.2	108.6	144.9
	風速 平均(m/s)	3.4	2.6	3.1	3.2	3.0	2.3	1.8	2.1	2.3	2.8	3.3	3.5	2.8
網走	降水量 (mm)	58.8	37.0	40.7	50.1	58.3	51.3	102.3	99.0	125.9	67.1	64.8	58.8	813.9
	降雨日数 (日)	15.1	8.5	10.8	9.1	9.5	9.1	12.0	10.3	11.0	10.5	11.2	12.7	10.8
	気温 平均(℃)	-5.3	-6.1	-2.0	4.7	9.9	13.5	17.2	18.9	16.4	10.9	3.9	-3.0	6.6
	日照時間 月計(時間)	113.8	147.5	168.1	176.0	188.6	181.0	150.1	164.3	161.2	148.3	120.0	122.2	153.4
	風速 平均(m/s)	4.0	3.3	3.7	3.5	3.0	2.7	2.4	2.7	3.1	3.5	3.8	3.9	3.3
小清水	降水量 (mm)	55.2	27.5	46.0	54.5	63.5	60.9	108.7	111.1	138.0	63.9	65.8	52.8	847.9
	降雨日数 (日)	14.8	9.6	14.0	11.2	11.0	11.9	14.9	13.3	12.8	11.2	12.1	12.6	12.4
	気温 平均(℃)	-7.0	-7.8	-2.7	4.7	10.2	13.8	18.0	18.9	15.7	9.9	2.8	-4.9	6.0
	日照時間 月計(時間)	98.9	130.7	151.1	151.7	153.2	148.9	125.2	136.5	135.5	134.8	103.7	105.0	131.3
	風速 平均(m/s)	1.8	1.6	1.8	1.9	1.8	1.5	1.3	1.3	1.3	1.5	1.6	1.6	1.6

1) 財団法人河川環境財団（2005）平成17年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（1-2）

(3) 水象—流入河川図 (P.8)

濤沸湖の主な流入河川は南岸からのものに限られており、主な河川は西から東に①丸万川、②オンネナイ川、③ウカルシュベツ川、④浦士別川、⑤スッポチ川の5本がある。河川流量は①丸万川、④浦士別川で多く、他は少ない。

河川の水質は網走市環境白書(平成 18 年度)によると丸万川(湖畔橋)、オンネナイ川(音根内橋)、浦士別川(境橋)、湖口(濤沸橋)において平成 8 年から毎年のデータが集積されている。項目は pH、DO、BOD、COD、SS、大腸菌群数、T-N、T-P である。

流入河川および湖口部の水質経年変化^{1), 2)}

丸万川	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
pH	8.5	8.7	8.3	7.8	7.2	7.6	7.6	7.5	7.5	7.5	7.3	7.6	7.6	7.4
DO	10.1	10.4	11.0	10.6	10.9	10.7	10.4	11.5	10.6	10.0	10.9	10.9	11.0	10.2
BOD	0.9	0.6	1.0	0.4	1.1	0.7	1.5	1.0	0.9	1.6	0.7	0.6	0.6	0.8
COD	7.0	6.1	6.5	6.1	5.2	—	5.9	4.9	6.1	6.2	5.5	5.9	6.3	6.6
SS	2	2	3	3	2	5	6	3	6	6	3	4	5	4
大腸菌群数	27	77	58	28	12	970	510	780	130	78	1300	1100	12000	700
T-N	0.76	0.86	1.00	1.10	1.30	1.30	1.40	1.10	1.10	1.10	1.30	1.20	1.30	1.40
T-P	0.052	0.053	0.046	0.052	0.046	0.052	0.070	0.044	0.054	0.057	0.054	0.050	0.058	0.054
オンネナイ川	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
pH	8.7	8.6	8.4	7.8	7.1	7.5	7.4	7.4	7.3	7.4	7.3	7.5	7.5	7.3
DO	10.6	9.3	10.4	11.3	10.4	9.9	10.2	11.0	9.8	9.5	10.3	10.1	10.2	10.0
BOD	0.8	0.7	0.9	1.1	1.1	0.9	1.5	0.9	0.8	1.0	0.9	0.5	0.8	0.8
COD	8.3	9.1	7.9	8.3	9.7	—	7.5	6.7	7.6	7.6	7.5	7.0	9.3	8.2
SS	3	8	4	2	3	6	8	5	5	7	5	4	9.5	7
大腸菌群数	90	95	44	13	71	420	230	250	99	190	890	1800	18000	750
T-N	0.50	0.70	0.87	0.81	1.00	0.88	1.10	0.75	0.80	0.71	0.84	0.81	0.88	0.96
T-P	0.055	0.069	0.054	0.045	0.055	0.056	0.074	0.044	0.057	0.061	0.060	0.053	0.064	0.056
浦士別川	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
pH	9.1	9.5	8.7	8.6	7.3	7.7	7.6	7.5	7.5	7.6	7.4	7.6	7.6	7.4
DO	11.4	10.1	10.9	8.6	10.5	10.8	11.0	11.7	10.5	10.1	10.9	10.7	10.8	10.9
BOD	0.6	0.6	0.9	0.2	0.9	1.2	1.2	0.8	0.9	1.1	0.7	0.6	0.7	1.0
COD	4.8	5.1	5.5	4.6	4.6	—	4.8	4.0	4.8	4.6	4.4	4.7	5.6	5.7
SS	2	4	4	2	3	5	5	5	7	6	5	9	7	8
大腸菌群数	26	50	100	190	70	980	1000	480	850	1000	990	3800	27000	2300
T-N	0.51	0.62	0.85	0.81	1.00	0.80	0.82	0.68	0.66	0.62	0.72	0.74	0.74	0.98
T-P	0.045	0.054	0.045	0.047	0.050	0.057	0.064	0.045	0.053	0.055	0.055	0.052	0.060	0.057
湖口	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
pH	8.2	8.2	7.7	8.0	8.0	8.1	8.3	7.5	7.6	8.0	7.8	8.0	8.1	8.0
DO	10.4	8.3	10.1	8.5	9.7	9.4	9.8	9.7	8.9	8.2	9.2	9.1	8.1	8.5
BOD	0.9	1.4	3.2	1.6	3.8	1.2	2.4	2.5	1.4	1.5	1.9	1.6	1.0	2.9
COD	3.7	4.3	4.5	4.4	6.7	—	5.6	4.4	3.9	4.3	5.5	5.5	4.3	5.0
SS	9	10	12	4	12	11	7	7	34	9	12	18	11	12
大腸菌群数	2	8	400	13	17	150	1.3	3	3.9	2.2	59	210	250	150
T-N	0.61	1.10	1.00	0.80	0.98	0.21	0.30	0.75	0.24	0.35	0.59	0.49	0.50	0.58
T-P	0.056	0.051	0.053	0.041	0.047	0.046	0.042	0.044	0.057	0.052	0.054	0.059	0.046	0.053

※ pH、大腸菌群数 (MPN/100ml) を除き、単位は mg/l である。

1) 網走市市民部生活環境課 (2006) 網走市環境白書第 2 編調査・測定平成 18 年度

2) 網走市市民部生活環境課 (2011) 網走市環境白書第 2 編調査・測定平成 22 年度



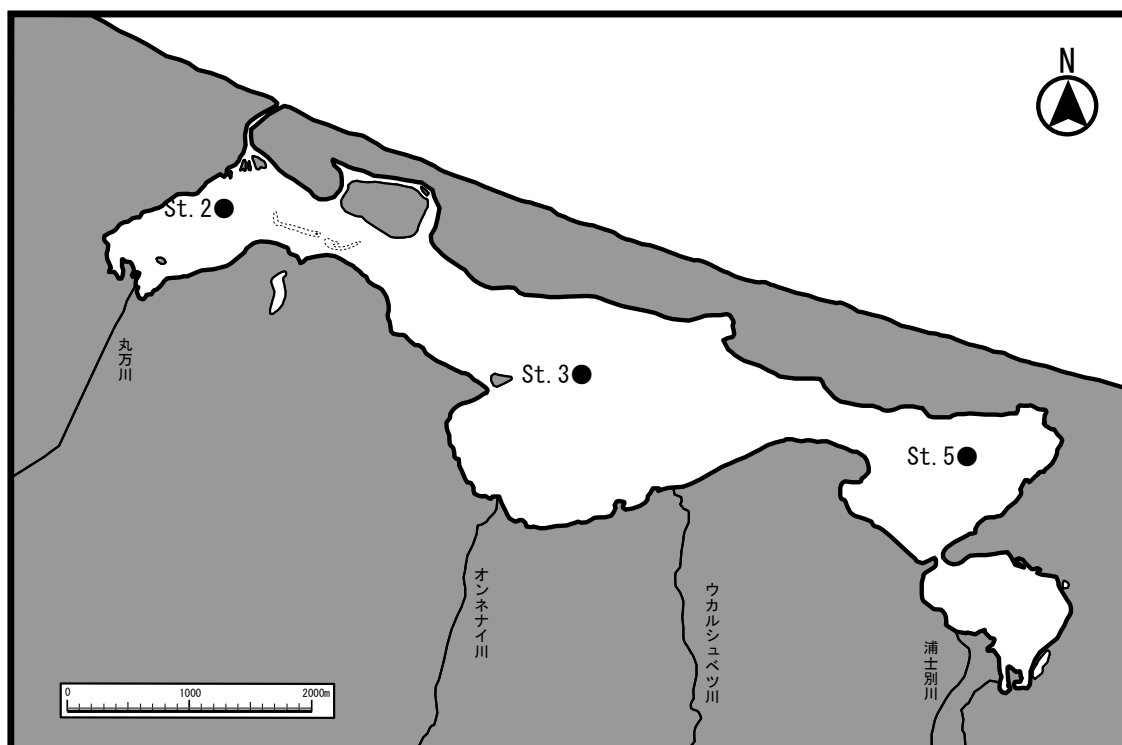
(4) 水質

① 水質分布特性

濤沸湖では汽水湖であるため、海水の流入が見られ、湖内での塩分濃度差が生じている。塩分供給源である湖口からの距離、流入河川の流量の差による希釈率の違いなどがその原因と考えられる。

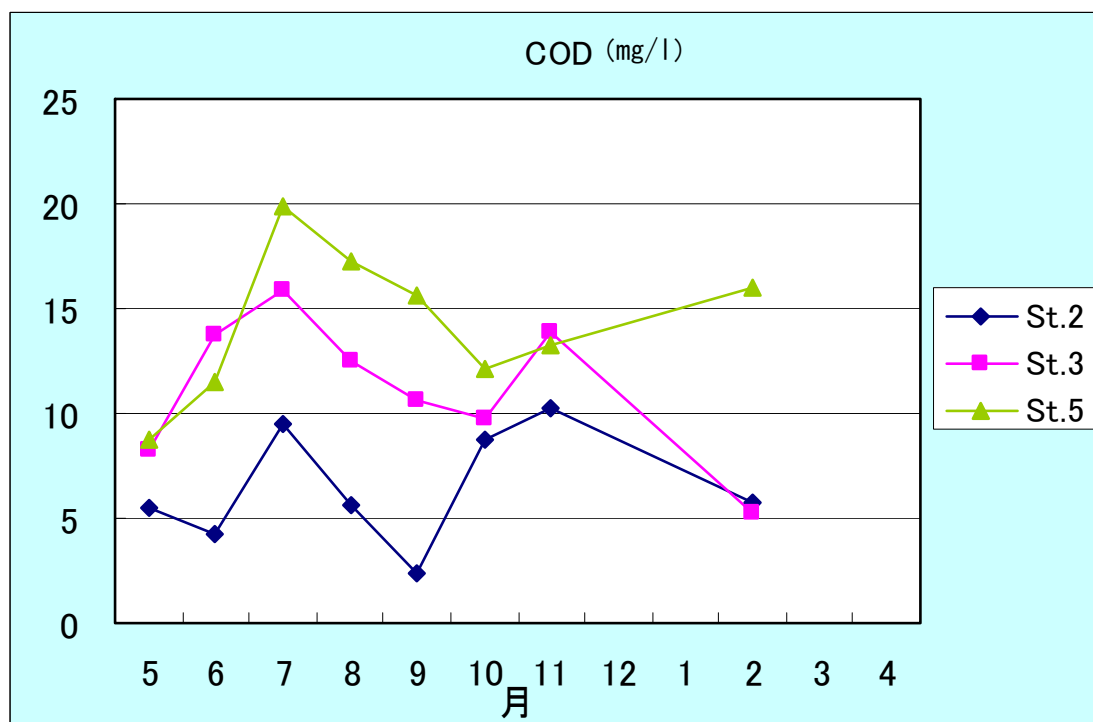
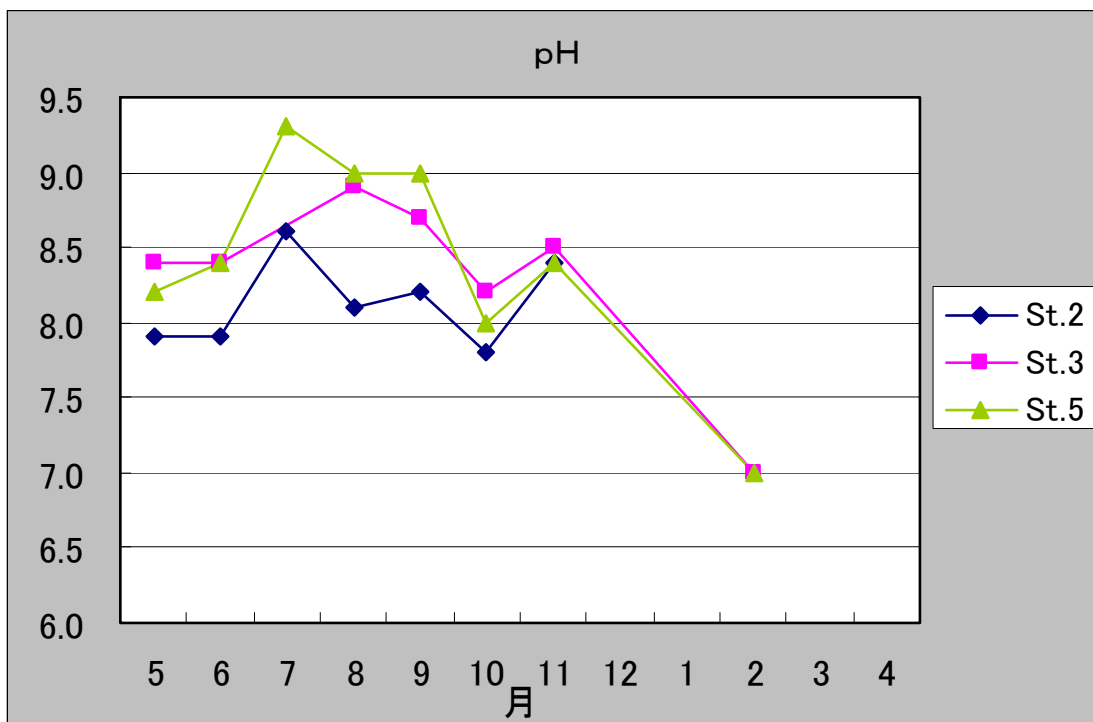
濤沸湖は浅く、海水の進入状況が大きく変化するため、湖口(St-2)、湖央(St-3)、湖奥(St-5)の3地点での水質調査結果によると pH、COD は湖奥に行くほど上昇する傾向がうかがえる。

水質調査地点位置図¹⁾



1) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（6-13）

濤沸湖における水質変化（平成3年5月～平成4年4月）²⁾



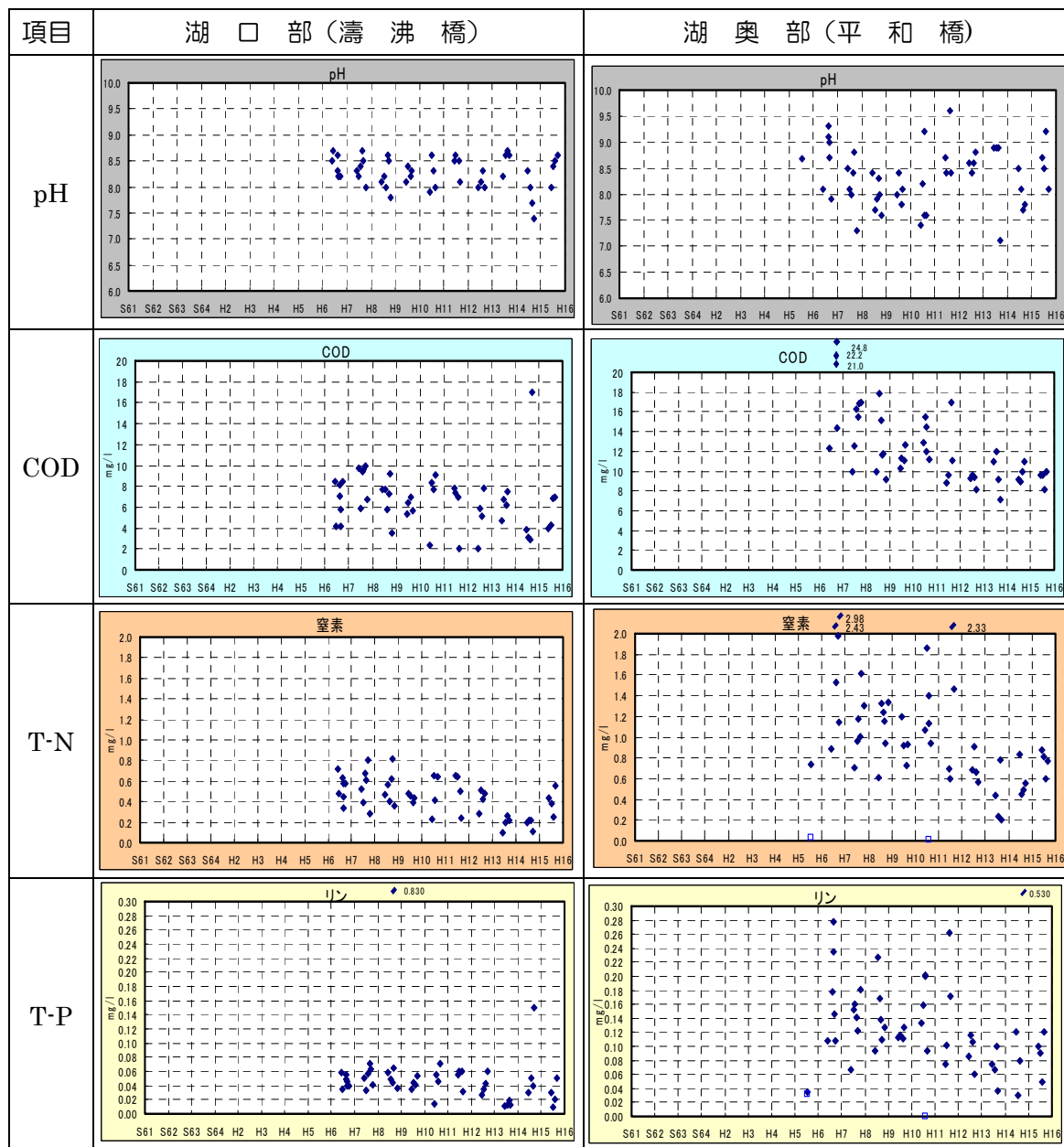
2) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（6-14）

② 水質経年変化

北海道環境科学研究センター(2005)「北海道の湖沼」(改訂版)によると濤沸湖では昭和61年から平成9年にかけてはCOD、T-N、T-Pともに湖奥部で増加する傾向が見られ、湖中央部では横ばい、湖口付近では減少傾向が見られた。濤筋の浚渫による水質改善効果がうかがわれた。

平成10年以降は社団法人北海道栽培漁業振興公社(1999~2004)斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書に記載のデータにより湖奥部、湖口付近では、COD、T-N、T-Pともに減少傾向が見られている。

湖口部および湖奥部における水質の変化¹⁾



1) 財団法人河川環境財団(2005)平成17年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書(6-36~6-39)

③ 流域汚濁負荷

流域で発生する汚濁物質について、以下の発生負荷源からの発生負荷量を原単位法により算出した結果を以下に示す（平成 17 年度網走管内における湖沼環境保全推進業務報告書より抜粋）。

汚濁負荷発生源	}	・生活系排水
		・畜産系排水
		・工場・事業場系排水（工場排水、その他の事業所排水）
		・水田・畑地負荷
		・山林負荷
		・市街地、原野、牧場、種雑地、その他用地負荷

発生負荷量算出結果¹⁾

澗沸湖（COD） （単位：kg/日）

流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	4.5	175.7	18.0	333.4	915.9	1,447.5
合計	4.5	175.7	18.0	333.4	915.9	1,447.5
比率 (%)	0.3	12.1	1.2	23.0	63.3	100.0

澗沸湖（T-N） （単位：kg/日）

流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	2.0	92.6	2.8	658.7	142.3	898.4
合計	2.0	92.6	2.8	658.7	142.3	898.4
比率 (%)	0.2	10.3	0.3	73.3	15.8	100.0

澗沸湖（T-P） （単位：kg/日）

流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	0.3	18.0	0.5	6.9	9.5	35.2
合計	0.3	18.0	0.5	6.9	9.5	35.2
比率 (%)	0.9	51.1	1.4	19.6	27.0	100.0

澗沸湖（BOD） （単位：kg/日）

流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	6.8	217.2	26.5	75.4	269.7	595.6
合計	6.8	217.2	26.5	75.4	269.7	595.6
比率 (%)	1.1	36.5	4.4	12.7	45.3	100.0

各発生量でCOD,BODとも山林、市街地等、窒素は田・畑地、リンは畜産系からの負荷の割合が高いことがわかる。

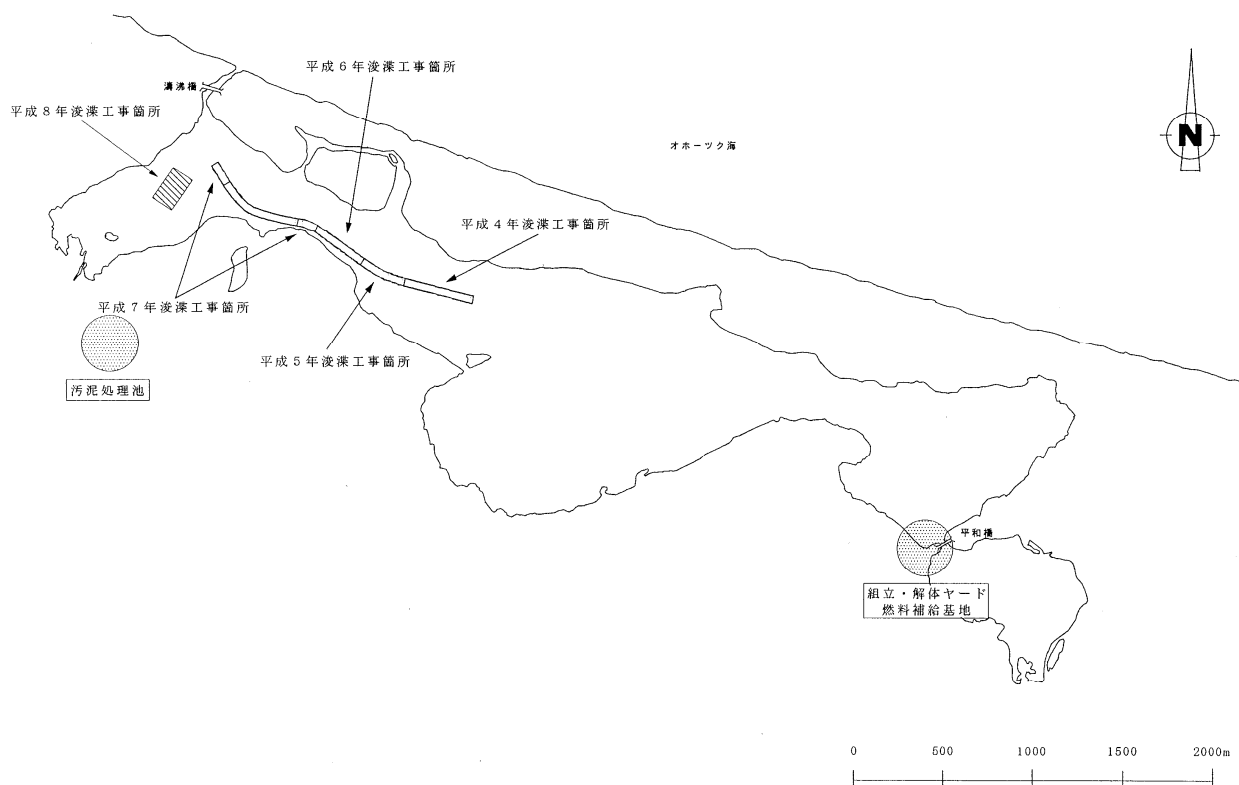
1) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（3-16）

④ 海水交換特性

浚渫工事前の海水交流・塩分分布の特徴については次のように述べられている（網走市（1994）濤沸湖漁業振興対策基礎調査報告書）。

- 外海潮差に比較し、感潮水系（潮の満ち引きの影響を受ける河川）の水深が浅すぎるため、外海の潮汐振幅が増大する時期だけ湖内流入量が流出量を上回り、湖内の平均水位が上昇する。
- 湖内の塩分分布は周年を通じて、湖西部では外海水の影響を受けて高く、湖東部に行くに従い漸減する傾向にあり、平和橋付近では塩素量は1‰以下となり浦士別湾では海水の進入がほとんどみられない。
- 丸万川方面は潮汐残差流、もしくは湖口に向かう帯状の流れにより誘発される循環流がみられ、相対的に高い塩分を示している。
- 湖口水路底レベルは、外海の平均水位レベルより高いため、湖口から濤沸橋間の湖面レベルは、その位置の湖底が湖口水路レベルよりも高く、かつ広い面積を有する濤沸湖に属するため、外海潮汐の約20%しか感じていない。
- 湖奥平和橋の水位変動は、河川流量が大きくかつ外海潮差が大きい場合にのみ起こる。
- 湖底レベルは湖奥に向かうに従って高くなっているため、潮流が湖奥ほど弱まり、湖内の密度構造は二成層に近い緩混合形式となっている。
- 塩水くさびの到達距離は、流入河川の出水時期を除き、外海潮位振幅の増減により、湖口から3～5 kmほどの範囲にある。

濤沸湖の浚渫箇所¹⁾

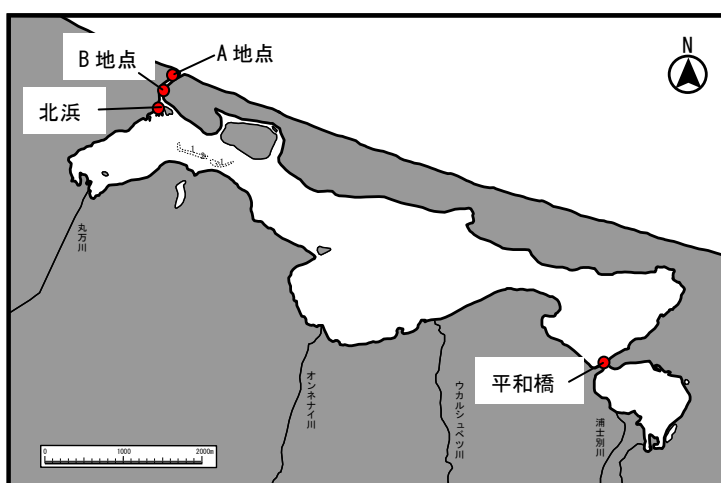
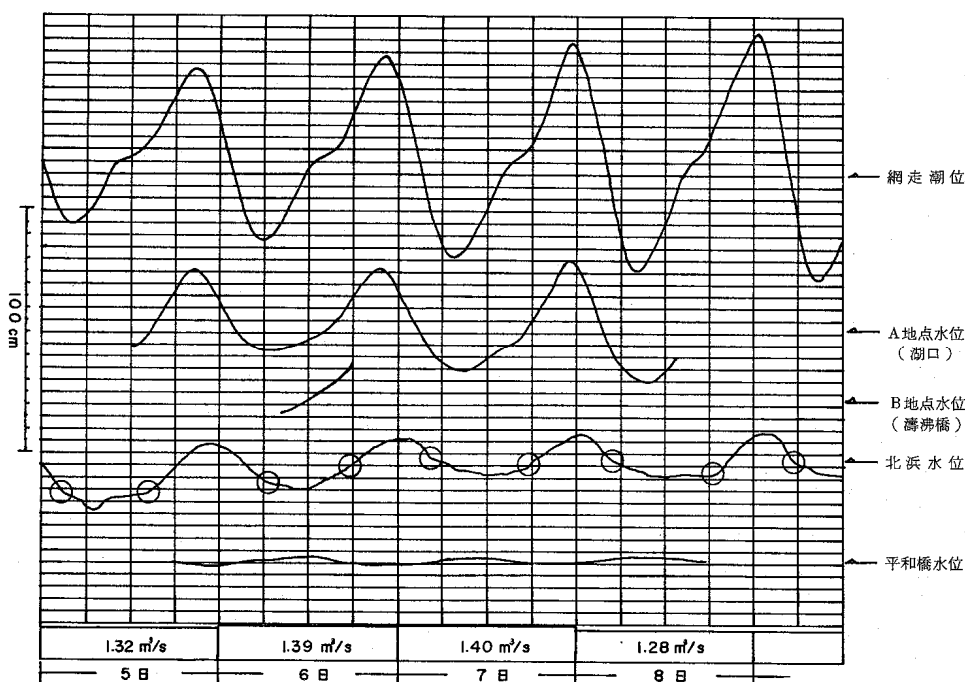


1) 財団法人河川環境財団（2005）平成17年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（4-13）

湖口を通じての海水交流量については、昭和 55(1980)年 8 月 5 日から 6 日にかけて算定した結果が示されている(社団法人北海道栽培漁業振興公社(1982)斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書)。海水交流量を算定した期間を含む昭和 55(1980)年 5 日から 8 日にかけての水位変動状況は下記グラフに示すとおりである。

この湖口流路の水位変動に伴う断面積の変化を考慮し、流量を求めた結果を下図に示す。5 日 18 時から 6 日 19 時まで湖内に流入した量は $5.28 \times 10^5 \text{m}^3$ 、流出した量は $2.16 \times 10^5 \text{m}^3$ と計算された。その差 $2.12 \times 10^5 \text{m}^3$ が湖内に残留し、流入河川水と合わせた流量は $4.33 \times 10^5 \text{m}^3$ となり、これが湖内に一様に広がるとすると 4.4 cm の湖面水位の上昇に相当する。実際にはこれほどの平均水位はみられていないが、潮汐振幅が増大する時期には確かに湖内流入量が流出量を上回り、時間平均の湖面水位上昇の原因となっていることが認められた。

湖内水位変動状況



(湖水位変動状況および調査位置図) 2)

2) 財団法人河川環境財団(2005)平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書(4-14)

⑤ 流入汚濁負荷

流入汚濁負荷量は既述の③発生汚濁負荷量に流達率を乗じて算出した。以下にその結果を示す。

流入汚水汚濁負荷の内訳¹⁾ (単位: kg/日)

流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	1.7	67.1	6.9	127.4	349.9	552.9
合計	1.7	67.1	6.9	127.4	349.9	552.9
比率 (%)	0.3	12.1	1.2	23.0	63.3	100.0

澇沸湖 (T-N) (単位: kg/日)

流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	0.7	32.3	1.0	229.9	49.7	313.5
合計	0.7	32.3	1.0	229.9	49.7	313.5
比率 (%)	0.2	10.3	0.3	73.3	15.8	100.0

澇沸湖 (T-P) (単位: kg/日)

流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	0.1	4.6	0.1	1.7	2.4	8.9
合計	0.1	4.6	0.1	1.7	2.4	8.9
比率 (%)	0.9	51.1	1.4	19.6	27.0	100.0

澇沸湖 (BOD) (単位: kg/日)

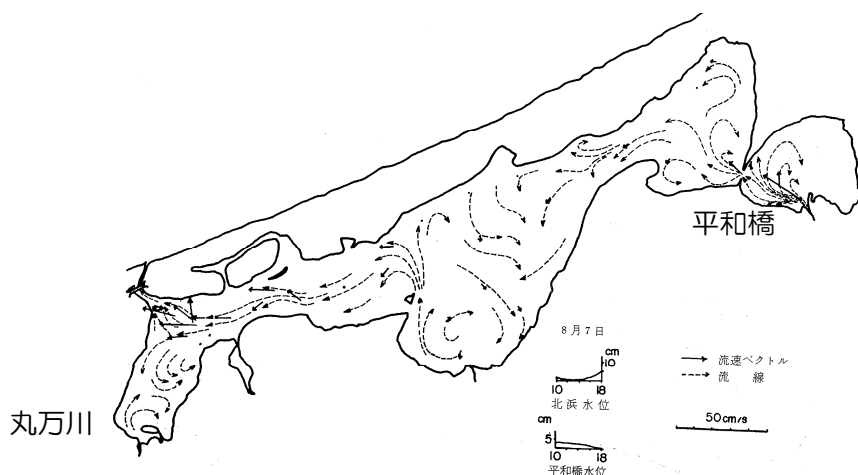
流域名	生活系	畜産系	工場・事業場系	田・畑地	山林、市街地等	合計
1湖周辺	1.1	35.4	4.3	12.3	44.0	97.1
合計	1.1	35.4	4.3	12.3	44.0	97.1
比率 (%)	1.1	36.5	4.4	12.7	45.3	100.0

特に T-N は田・畑地で、T-P は畜産系からの負荷が高い傾向にある。

1) 財団法人河川環境財団 (2005) 平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書 (4-27)

⑥ 湖内流動特性

北海道栽培漁業振興公社にて、昭和 53 年 8 月 5 日から 8 月 8 日にかけて調査が実施されており、湖内流況について、以下の図が示されている。湖内流況の特徴の一つは、流速の大きな地点が湖口のごく近傍を除くとかなり幅が狭く、帯状に平和橋方向に続いていることである。これは湖底が平坦では生じない流れであり、帯状に続く湖底の深みに起因する流れと考えられる。もう一つの特徴は、丸万川から湖口に至る開けたところでは、湖内の流れが湖口に向かわず逆に丸万川に向かっていている点である。これは潮汐残差流もしくは湖口に向かう帯状流れにより引き起こされた循環流と思われる。

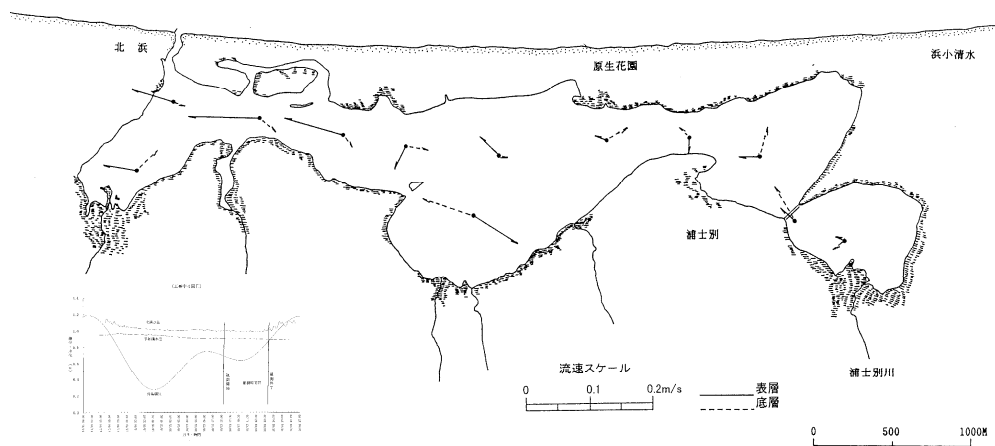


流況調査結果 (昭和 53(1978)年 8 月 5 日から 8 月 8 日)¹⁾

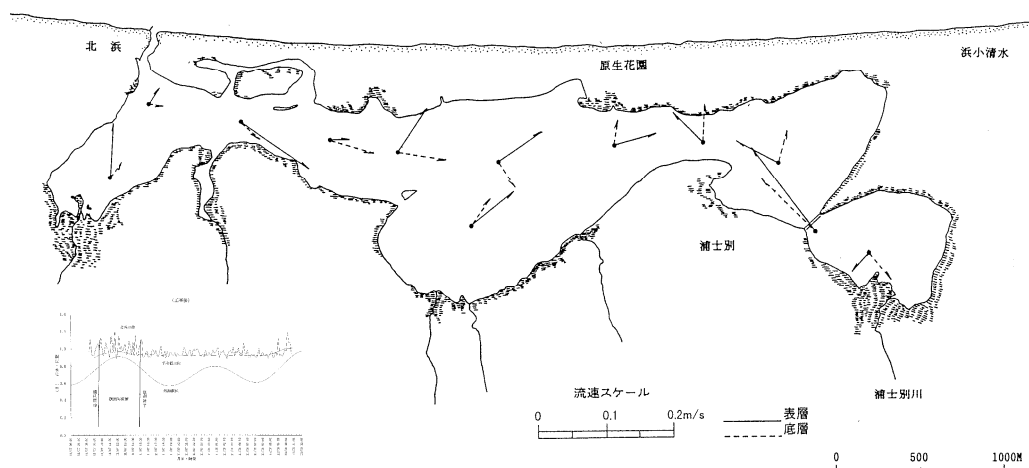
また、北海道栽培漁業振興公社によって、平成 8(1996)年にも流況調査が実施されている。調査は平成 8(1996)年 6 月から 11 月にかけて毎月 1 回行われ、観測時間は外海潮位の上
 げ潮時ないし高高潮時に行われた。調査結果は、下の 2 図に示すとおりである。

10 月の上げ潮時の調査では、湖口近傍の表層で 0.1m/s 程度の比較的明瞭な流出する流
 れが観測された。湖中央から湖奥にかけては流速が小さく明瞭な傾向はみられなかった。11
 月の調査は外海潮位が高高潮に当たっており、湖内表層の流れは湖口から湖奥にかけては
 0.1m/s 程度の流入で、湖中央から平和橋にかけては 0.06~1.6m/s 程度の流出方向の流れで
 あった。

濤沸湖の湖口から湖中央に向かう澇筋や St.7、St.8 および St.10 などの狭窄部では潮汐に
 応答する流れがみられ、外海潮位との水位差が大きいほど流速が大きな流れであった。ただ
 し、流入の転流は潮汐とはすぐに同期せず、湖口の狭窄や 2 回潮で高高潮時に外海潮位が湖
 内水位を上回るような条件下では流入から流出への転流がかなり遅れるかまたは転流するこ
 となく次の流入状態となっていた。



流況調査結果（平成 8(1996)年 10 月 2 日：上げ潮時）²⁾



流況調査結果（平成 8(1996)年 11 月 7 日：高高潮時）³⁾

1) 2) 3) 財団法人河川環境財団(2005)平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書(4-14
 ~4-16)

(5) 自然景観

湖沼および周辺地域は、国定公園に指定されており、湿原には、ミズバショウやアケシソウなどの植物群が広がり、知床半島や斜里岳などを背景にした美しい景観を楽しめる。

湖の北北東側には、国道を挟んで小清水原生花園があり、その高台からは、オホーツク海と濤沸湖の双方を展望できる。その他フレトイ展望台や、白鳥展望公園からなど雄大な景観を楽しめる眺望点も存在する。

また、湖の西北西側の湖口付近には白鳥公園があり、白鳥が飛来する時期には多くの人々が訪れるなど、季節の移ろいや風景の美しさからも景観面で見ると見るべきものも多い。

自然景観の例

自然景観	対象	眺望地点
濤沸湖、藻琴湖、網走湖、能取湖	湖沼	道路、近傍、展望所
斜里岳、知床連山の遠望	山岳	海岸、湖沼、展望所
オホーツク海	外海	海岸、湖沼、展望所
サンゴ草群落、原生花園	植物	近傍

フレトイ展望台より知床連山を望む



白鳥展望公園より濤沸湖と斜里岳を望む

2 生物分野の特性

(1) 鳥類

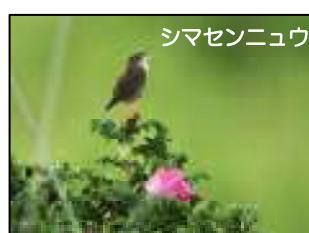
オホーツク海沿岸部の湖沼は、水鳥などの渡り鳥の飛来地として著名である。なかでも濤沸湖ではガン・カモ類は毎年6万羽以上の飛来が確認され、道内では最大級の渡り鳥の中継地・越冬地として知られており、オホーツク海沿岸部の湖沼のうちで水鳥の豊富なことでは一、二の湖となっている。

春季～秋季にかけてはシギ・チドリ類が飛来するほか、冬季に日本以南で越冬するガン・カモ・ハクチョウなどの水鳥が、春秋の渡りの時期に翼を休める場所として利用している。これとは別にマガモ・カルガモなどのカモ類が繁殖しており、数年前からはタンチョウのつがいが確認されている。冬季には濤沸湖北浜の白鳥公園でオオハクチョウの餌付けをしており、オジロワシやオオワシの越冬も確認されている。

小清水原生花園ではホオアカ、ノビタキ、センニュウ類などの草原や低木林に生息環境を依存する鳥類が繁殖を行っている。

このように鳥類の種類・個体数が豊富なのは、餌となる海草のアマモや小魚などが豊かに存在していること、湖を囲む形で発達しているヨシ原が、繁殖場所、隠れ場所として果たしている役割が大きいと考えられる。

川崎康弘(1997)「網走市・小清水町・斜里町におけるオホーツク海沿岸周辺の鳥類」によると、同範囲では約200種の鳥類が観察されており、濤沸湖周辺のみに限れば約150種が確認されている。そのうち水鳥は80種ほどで半数以上を占めている。



澗沸湖周辺で主に見られる鳥類¹⁾

科名	種名	科名	種名	科名	種名
カイツブリ	カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ	シギ	キョウジョシギ トウネン ヒバリシギ オジロトウネン ヒメウスラシギ アメリカウスラシギ ウスラシギ ハマシギ サルハマシギ コオハシギ オハシギ ミユビシギ ヘラシギ エリマキシギ キリアイ オオハシギ ツルシギ アカアシシギ コアアシシギ アオアシシギ カラフトアオアシシギ クサンシギ タカアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ コシャクシギ ヤマシギ タシギ オオジシギ	ヒヨドリ	ヒヨドリ
ウミツバメ	ハイイロウミツバメ		モズ	モズ アカモズ オオモズ	
ウ	カワウ ウミウ ヒメウ		レンジャク	キレンジャク ヒレンジャク	
サギ	サンカノゴイ ヨシゴイ アマサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ		カワガラス	カワガラス	
コウノトリ	コウノトリ		ミソサザイ	ミソサザイ	
トキ	ヘラサギ		ヒタキ	ノゴマ コルリ ルリヒタキ ジョウヒタキ ノヒタキ マミシロ トラツグミ クロツグミ アカハラ シロハラ マミチャジナイ ツグミ ヤブサメ ウグイス エゾセンニュウ シマセンニュウ マキノセンニュウ コヨシキリ オオヨシキリ メボソムシクイ エソムシクイ センダイムシクイ ククイタダキ キビタキ オオルリ エゾビタキ コサメビタキ	
カモ	シジュウカラガン マガン カリガネ ヒシクイ コブハクチョウ オオハクチョウ コハクチョウ オシドリ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ シマアジ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ クロガモ ピロードキンクロ シノリガモ コオリガモ ホオジロガモ ミコアイサ ウミアイサ カワアイサ		セイタカシギ	セイタカシギ ソリハシセイタカシギ	
			ヒレアシシギ	ハイイロヒレアシシギ アカエリヒレアシシギ	
			カモメ	ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウシカモメ シロカモメ カモメ ウミネコ ミツユビカモメ ハジロクロハラアジサシ アジサシ コアジサシ	
			ハト	キジバト アオバト	
			カッコウ	カッコウ ツツドリ	
			フクロウ	シロフクロウ トラフズク コミミズク フクロウ	
			アマツバメ	ハリオアマツバメ アマツバメ	
			カワセミ	カワセミ	
			ヤツガシラ	ヤツガシラ	
			キツツキ	アリスイ ヤマゲラ アカゲラ オオアカゲラ コアカゲラ コゲラ	
			ヒバリ	ヒバリ	
			ツバメ	ショウドウツバメ ツバメ イウツバメ	
			セキレイ	ツメナガセキレイ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ピンズイ タヒバリ	
ライチョウ	エゾライチョウ		アトリ	アトリ カワラヒワ マヒワ ベニヒワ ハギマシコ アカマシコ オオマシコ ギンザンマシコ ベニマシコ ウソ イカル シメ	
キジ	ウスラ キジ		ハタオリドリ	ニューナイスズメ スズメ	
ツル	クロツル タンチョウ ナベツル		ムクドリ	コムクドリ ホシムクドリ ムクドリ	
クイナ	クイナ ヒクイナ バン オオバン		カラス	カケス ホシガラス ミヤマガラス ハシボソガラス ハシフトガラス ワタリガラス	
ミヤコドリ	ミヤコドリ				
チドリ	ハジロコチドリ コチドリ イカルチドリ シロチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ ムナグロ ダイゼン タゲリ				

1) 齋藤喜一郎 (1978) 澗沸湖周辺 (除く海域) で観察された鳥類一覧-探鳥ガイド、網走の野鳥 277 他

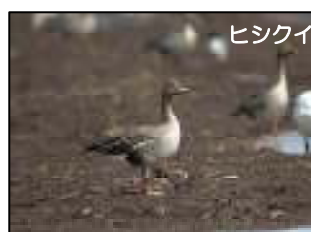
鳥類のなかには貴重種に選定されているものも多く、主なものは特別天然記念物のタンチョウ、天然記念物のオジロワシ、オオワシ、ヒシクイ、マガンなどである。

鳥類の貴重種^{1), 2)}

種名	文化財保護法	環境省 RL	北海道 RDB
ヒメウ	—	絶滅危惧 IB 類	—
サンカノゴイ	—	絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧種
ヨシゴイ	—	準絶滅危惧	—
チュウサギ	—	準絶滅危惧	希少種
コウノトリ	特別天然記念物	絶滅危惧 IA 類	絶滅危惧種
ハラサギ	—	情報不足	—
シジュウカラガン	—	絶滅危惧 IA 類	絶滅危急種
マガン	天然記念物	準絶滅危惧	希少種
カリガネ	—	準絶滅危惧	—
ヒシクイ	天然記念物	絶滅危惧 II 類	希少種
コハクチョウ	—	—	希少種
オシドリ	—	情報不足	希少種
トモエガモ	—	絶滅危惧 II 類	希少種
シノリガモ	—	地域個体群	希少種
ミコアイサ	—	—	絶滅危急種
ミサゴ	—	準絶滅危惧	絶滅危急種
オジロワシ	天然記念物	絶滅危惧 IB 類	絶滅危惧種
オオワシ	天然記念物	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧種
オオタカ	—	準絶滅危惧	絶滅危急種
ハイタカ	—	準絶滅危惧	絶滅危急種
ケアシノスリ	—	—	希少種
ハイロチュウヒ	—	—	希少種
チュウヒ	—	絶滅危惧 IB 類	絶滅危急種
シロハヤブサ	—	—	希少種
ハヤブサ	—	絶滅危惧 II 類	絶滅危急種
エゾライチョウ	—	情報不足	希少種
ウズラ	—	準絶滅危惧	希少種
クロツル	—	情報不足	—
タンチョウ	特別天然記念物	絶滅危惧 II 類	絶滅危惧種
ナベツル	—	絶滅危惧 II 類	—
クイナ	—	—	希少種
ヒクイナ	—	絶滅危惧 II 類	希少種
ハラシギ	—	絶滅危惧 IA 類	絶滅危急種
アカアシシギ	—	絶滅危惧 II 類	絶滅危急種
カラフトアオアシシギ	—	絶滅危惧 IA 類	絶滅危急種
ホウロクシギ	—	絶滅危惧 II 類	希少種
コシャクシギ	—	絶滅危惧 IB 類	絶滅危急種
オオジシギ	—	準絶滅危惧	希少種
セイタカシギ	—	絶滅危惧 II 類	希少種
コアシサシ	—	絶滅危惧 II 類	—

1) 齋藤喜一郎（1978）瀧沸湖周辺（除く海域）で観察された鳥類一覽—探鳥ガイド、網走の野鳥 277 他

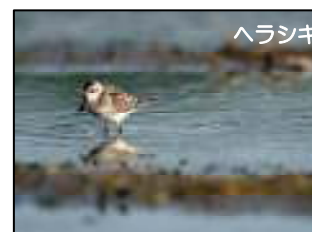
2) 文化財保護法・環境省 RL・北海道 RDB



ヒシクイ



オオワシ



ハラシギ

(2) 植物

オホーツク海沿岸部では、地形的特徴から河口近くに形成された、能取湖、藻琴湖、濤沸湖などの汽水湖が多く存在しており、これらの湖岸には塩性湿性植物群落、海岸草原、原生花園や自然林が広がり、多様な生態系が形成されている。

濤沸湖においても湖岸低地には塩性湿地帯が発達し、シバナやエゾツルキンバイ群落などが生育しており、淡水湿地帯にはヨシ群落、ヤラメスゲ群落、又マガヤ-ヤチヤナギ群落、ハンノキ群落などが分布している。なかでも湖畔に広がるアッケシソウは秋になると湖岸を赤く染め、多くの観光客が見学に訪れている。

また、濤沸湖西岸からオホーツク海に続く砂丘上には約 8km にわたって小清水原生花園が形成されており、2004 年には北海道が選定する「北海道遺産」にも選ばれている。原生花園では春季～秋季にかけて小清水町の町花であるエゾスカシユリやハマナス、エゾキスゲなどの約 40 種の野生の花畑があらわれる。これらの植生の維持・回復のために開花前の春先に毎年、火入れを行っているほか、濤沸湖畔においても植生維持のために馬の放牧が行われている。

濤沸湖畔に存在する主な植物群落¹⁾

群 落 名	群落に出現する主要な種
1 ハマナス-カハグサ群落	ハマナス、カハグサ、エゾ オヤマハコバ
2 カハグサ-カホノソウ群落	カハグサ、カホノソウ、コシガサ、エゾ オヤマハコバ
3 ヤラメスゲ 群落	ヤラメスゲ、エゾ オヤマハコバ、ヒオウギ アヤメ
4 アゼスゲ 群落	アゼスゲ、エゾ オヤマハコバ、アカネグサ
5 ヒメハライ群落	ヒメハライ
6 ヨシ群落	ヨシ、ドクゼリ
7 ヤラメスゲ、ヨシ-ミスジケ群落	ヤラメスゲ、ヨシ、ヤナギ類、ヤナギ トラノオ、オキ リウ科、(ミスジケ)

1) 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（8-22）



濤沸湖周辺で確認された主な植物²⁾

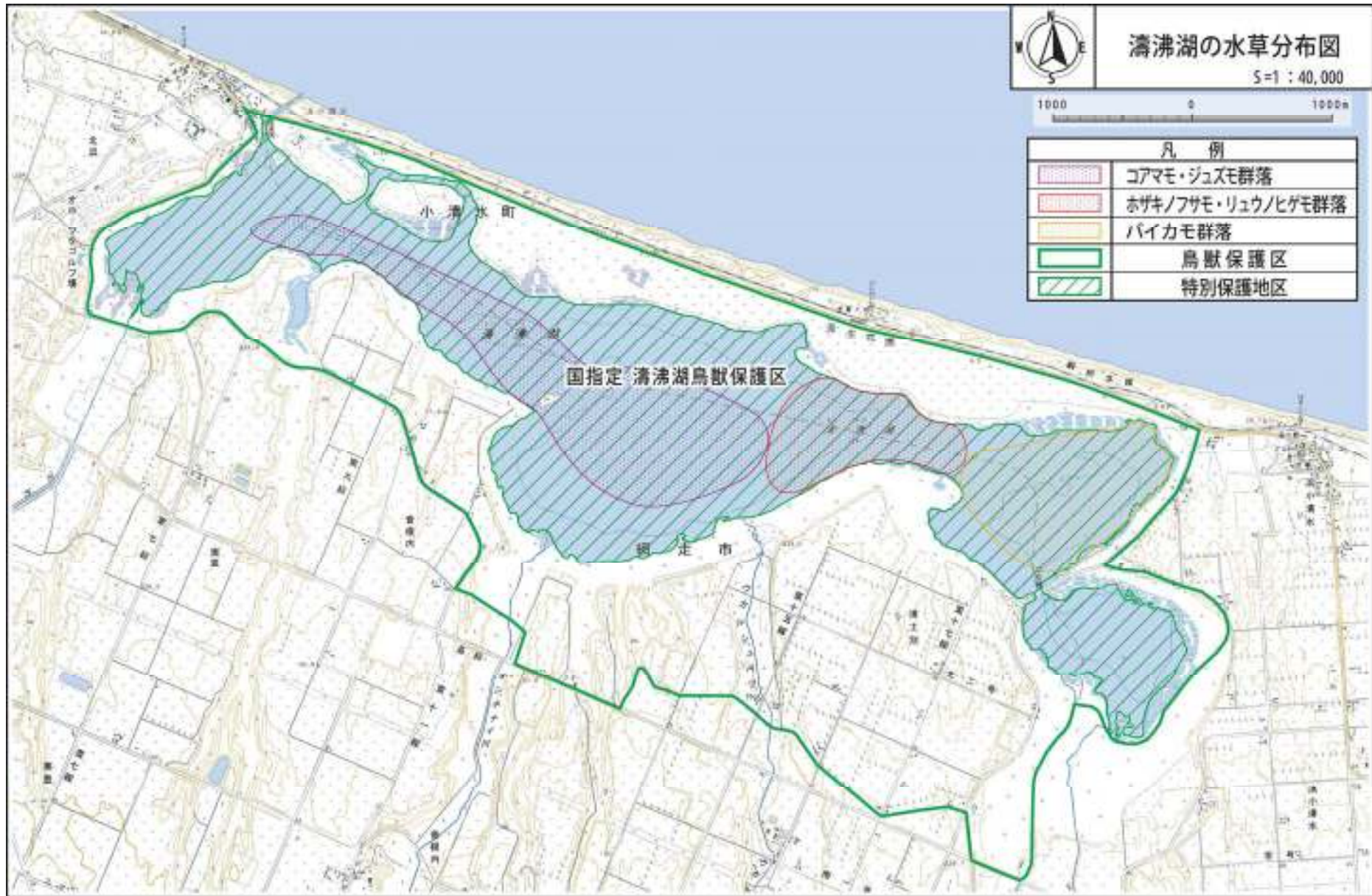
科名	種名	科名	種名	科名	種名
トクサ	スギナ	メギ	ルイヨウボタン	マメ	ヤブマメ
	トクサ	センリョウ	ヒトリシスカ		ヌスビトハギ
ハナヤスリ	エソフユノハナワラビ		フタリシスカ		ハマエンドウ
ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	ボタン	ベニバナヤマジャクヤク		シロバナハマエンドウ
コバノイシカグマ	ウラボ	マタタビ	サルナシ		ケハマエンドウ
ミスワラビ	クジャクシダ		ミヤママタタビ		エゾノレンリソウ
オシダ	オシダ	オトギリソウ	トモエソウ		エゾヤマハギ
ヒメシダ	ヒメシダ		オトギリソウ		イヌエンジュ
メシダ	クサツテツ		ミスオトギリ		シロバナシナガワハギ
	コウヤウラビ	ケシ	クサノオウ		ハリエンジュ
マツ	トドマツ		エソエンゴサク		センダイハギ
ヤマモモ	エゾヤマモモ		シロバナエソエンゴサク		クスタマツメクサ
クルミ	オニグルミ		クシハエソエンゴサク		ムラサキツメクサ
ヤナギ	ドロノキ		マルハエソエンゴサク		セッカツメクサ
	エソノバツコヤナギ	アブラナ	ハタザオ		シロツメクサ
	オノエヤナギ		ヤマハタザオ		クサフジ
カバノキ	ヤチハンノキ		ミヤマハタザオ		シロバナクサフジ
	シラカンバ		エソハタザオ		ヒロハクサフジ
ブナ	カシワ		ハマハタザオ		シロバナノヒロハクサフジ
	ミズナラ		セイヨウウサビ		ナンテンハギ
ニレ	ハルニレ		ハルザキヤマガラシ	カタバミ	エソタチカタバミ
クワ	ヤマグワ		ナスナ	フクロソウ	イチゲフウロ
イラクサ	ホソバイラクサ		コンロンソウ		ミツバフウロ
	エゾイラクサ		ハナタネツケバナ		ハマフウロ
ヤドリギ	ヤドリギ		オオバタネツケバナ	トウダイグサ	マツバトウダイ
タテ	ツルタテ		クジラグサ	ミカン	ヒロハノキハダ
	エソノミスタテ		ハマタイセイ	カエデ	エソイタテ
	オオイヌタテ		ウロコナスナ	ツリフネソウ	キツリフネ
	イヌタテ		マメグンバイナスナ		ツリフネソウ
	アキノウナギツカミ		オランダガラシ	ニシキギ	ツルウメモドキ
	ミソソバ		イヌガラシ		オニツルウメモドキ
	オオミソソバ		スカシタゴボウ		ニシキギ
	ハルタテ		キレハイヌガラシ		マユミ
	ハイミチヤナギ		ハタザオガラシ	ツゲ	フッキソウ
	ミチヤナギ	ベンケイソウ	ムラサキベンケイソウ	ブドウ	ヤマブドウ
	オオイトドリ		キリンソウ	アオイ	ゼニハアオイ
	ヒメスイバ		エソノキリンソウ	スミレ	エソノタチツボスミレ
	ナガバギシギシ		タイトゴメ		シロバナエソノタチツボスミレ
	エソノギシギシ		ツルマンネングサ		タチツボスミレ
スベリヒユ	スベリヒユ	ユキノシタ	エソネコノメソウ		オオバタチツボスミレ
ナデシコ	ミミナグサ		ツルネコノメソウ		スミレ
	ナンバンハコベ		ノリウツギ		アカネスミレ
	エソカワラナデシコ		ツルアジサイ		アイヌタチツボスミレ
	シロバナエソカワラナデシコ		ウメバチソウ		ツボスミレ
	ハマハコベ	バラ	キンミスヒキ	ウリ	ゴキツル
	オオヤマフスマ		ヤマフキショウマ	ミソハギ	エソミソハギ
	サボンソウ		オニシモツケ		ミススキナ
	ヒロハノマンテマ		エソノシモツケソウ	アカバナ	ヤナギラン
	ムシトリナデシコ		オオダイコンソウ		イワアカバナ
	ウシオツメクサ		カラフトダイコンソウ		シロバナイワアカバナ
	ウスベニツメクサ		エソノコリンゴ		カラフトアカバナ
	ウシハコベ		エソツルキンバイ		エソアカバナ
	シラオイハコベ		キジムシロ		ホソバアカバナ
	カラフトホソバハコベ		ミツバツチグリ		アレチマツヨイグサ
	エソハコベ		クロバナノウゲ		オオマツヨイグサ
	ハコベ		オオヘビイチゴ	アリノトウグサ	ホザキノフサモ
	エソオオヤマハコベ		ツルキジムシロ	スギナモ	スギナモ
アカザ	ホソバノハマアカザ		ミヤマザクラ	ウコギ	エソウコギ
	ハマアカザ		エソノウウミスザクラ		ウド
	シロザ		エソヤマザクラ		タラノキ
	アッケシソウ		ハマナス		ハリギリ
	オカヒジキ		ナワシロイチゴ		キレハハリギリ
ヒユ	イヌヒユ		キミノナワシロイチゴ	セリ	エソオオバセンキュウ
	アオヒユ		エビガライチゴ		コジャク
モクレン	キタコブシ		ナガボノシロワレモコウ		シヤク
マツフサ	チョウセンゴミシ		アズキナシ		ホタルサイコ
キンボウゲ	エソトリカブト		ナナカマド		ドクゼリ
	キタミフクジュソウ				エソノシシウド
	フクジュソウ				カラフトニンジン
	フタマタイチゲ				ハマボウフウ
	ニリンソウ				オオハナウド
	アズマイチゲ				マルバトウキ
	オダマキ				セリ
	エンコウソウ				オオカサモチ
	エソショウマ				ウマノミツバ
	シコタンキンボウゲ				ヤブジラミ
	ヤマキツネノボタン				
	アキカラマツ				

科名	種名	科名	種名	科名	種名
ツツジ	エゾイソツツジ エゾムラサキツツジ ツルコケモモ	キク	ノコギリソウ キタノコギリソウ セイヨウノコギリソウ ヤマハハコ ホソバノヤマハハコ イワヨモギ ハマオトコヨモギ ヒロハウラシロヨモギ オオヨモギ シロヨモギ エゾオオヨモギ コボウ エゾコマナ エソノタウコギ タウコギ エソノキツネアザミ ミミコウモリ ヨブスマソウ ミヤマアブタバコ トキンソウ キクニガナ エソノサウアザミ タカアザミ アメリカオニアザミ ヒメムカシヨモギ ヨツバヒヨドリ ヒメチチコグサ コウリントンボボ ヤナギタンボボ オグルマ カゼンソウ ハマニガナ アキノノゲシ エゾムラサキニガナ センボンヤリ コシカギク シカギク アキタブキ コウソリナ アラゲハンゴンソウ オオハンゴンソウ ハンゴンソウ ノボロギク オオアワダチソウ ミヤマアキノキリンソウ オニノゲシ ハチジョウナ ヒメジョオン エソタンボボ セイヨウタンボボ オオモミ	アヤメ	ノハナショウブ ヒオウギアヤメ シロバナヒオウギアヤメ
サクラソウ	ウミミドリ ヤナギトラノオ クサレダマ クリンソウ			イグサ	ヒメコウガイゼキショウ ヒメイ ドロイ ハマイ ホソイ スズメノヤリ
モクセイ	ヤチダモ			ツククサ	ツククサ
リンドウ	エゾリンドウ フデリンドウ シロバナフデリンドウ			イネ	ハネガヤ コヌカグサ コヌカボ エソヌカボ スズメノテッポウ カズノコグサ ヤマアワ イワノガリヤス カモガヤ アキメヒシバ イヌビエ ケイヌビエ タイヌビエ ハナムギ ハマニンニク オニウシノケグサ オオウシノケグサ コメガヤ ススキ オオネズミガヤ クサヨシ オオアワガエリ ヨシ ツルヨシ スズメノカタビラ ナガハグサ クマイザサ アキノエノコログサ キンエノコロ ムラサキエノコロ
ミツガシワ	ミツガシワ			サトイモ	コウライテンナンショウ ミスハショウ
ガガイモ	イケマ ガガイモ			ガマ	ガマ
アカネ	クルマバソウ トゲナシヤエムグラ ホソバノヨツバムグラ エソノカワラマツバ チョウセンカワラマツバ アカネムグラ			カヤツリグサ	ショウジョウスゲ ショウロウスゲ チャシバスゲ ヒメカンスゲ カサスゲ オクノカンスゲ ネムロスゲ コハリスゲ コウボウムギ ヤラメスゲ エソノコウボウムギ コウボウシバ オオカワスゲ アゼスゲ カワラスガナ クロハリイ サギスゲ オオイヌノハナヒゲ シズイ エソウキヤガラ フトイ アブラガヤ エソアブラガヤ
ヒルガオ	ヒルガオ ヒロハヒルガオ ハマヒルガオ ネナシカズラ			ラン	サイハイラン オニノヤガラ オオミストンボ クモキリソウ コケイラン ミスチドリ トキンソウ ネシバナ
ムラサキ	ハマベンケイソウ				
シソ	カワミドリ カイジンドウ クルマバナ イヌトウバナ ミヤマトウバナ ムシャリンドウ ナギナタコウジュ チシマオドリコソウ シロバナチシマオドリコソウ オドリコソウ シロネ ヒメシロネ エソシロネ エソミノガワソウ ヒメナミキ ナミキソウ シロバナナミキソウ エソナミキソウ イヌゴマ エソイヌゴマ	オモダカ	サシオモダカ		
ナス	オオマルバノホロシ イヌホオズキ	ホロムイソウ	シバナ ホソバノシバナ		
ゴマノハグサ	ウンラン アゼナ ミソホオズキ エソノカワチシャ オオイヌノフグリ	ヒルムシロ	センニンモ ヒロハノエヒモ		
タヌキモ	コタヌキモ	ユリ	ノビル エソネギ ミヤマラッキョウ ギョウジャニンニク キジカクシ スズラン クロユリ キバナノアマナ エソヒメアマナ エソキスゲ エソカンソウ タチギボウシ オオウバユリ エソスカシユリ ククルマユリ マイツルソウ リュウノヒゲ ククルマバツクバネソウ ヒメイズイ オオアマドコロ ユキザサ オオバナノエンレイソウ		
ハエドクソウ	ハエドクソウ				
オオハコ	オオハコ エソオオハコ トウオオハコ ハラオオハコ イソオオハコ				
スイカズラ	ネムロフシダマ エソニワトコ キミノエソニワトコ カンボク ミヤマガマズミ				
レンブクソウ	レンブクソウ				
オミナエシ	オミナエシ				
キキョウ	モイワシャジン ツリガネニンジン シロバナツリガネニンジン サウギキョウ				

2) 網走市立郷土博物館（2006）とうふつ湖の植物一覧



さらに湖底には藻場が形成されており、湖口から湖中央部にはコアマモ・ジュズモ群落が見られ、湖中央部から湖奥部にはホザキノフサモ・リュウノヒゲモ群落、湖奥部にはバイカモ群落が生育しており、湖奥部に行くにしたがい、淡水性種が分布している(中山薫(2000)網走4湖沼の水生植物,網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書)。一水草分布図(P.25)



※ 財団法人河川環境財団（2005）平成 17 年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書（8-27）北海道 平成 19 年度 鳥獣保護区等位置図

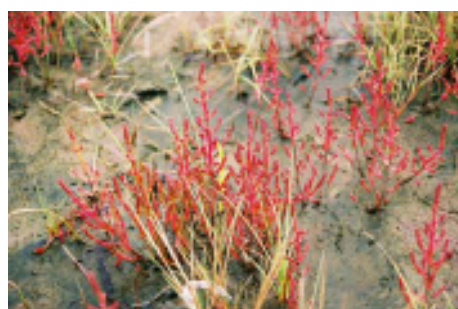
総じて濤沸湖と周辺地域では約 300 種の植物が確認されており、これらの植物のなかには貴重種に選定されているものも多く、主なものはアッケシソウ、キタミフクジュソウ、ハナタネツケバナなどである。

植物の貴重種^{2), 3)}

種名	環境省 RL	北海道 RDB
エゾノミズタデ	—	絶滅危急種
エゾハコベ	—	絶滅危急種
アッケシソウ	絶滅危惧Ⅱ類	希少種
キタミフクジュソウ	準絶滅危惧	—
フクジュソウ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧種
フタマタイチゲ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危急種
シコタンキンポウゲ	絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧種
ベニバナヤマシャクヤク	準絶滅危惧	—
ハナタネツケバナ	—	希少種
ハマタイセイ	絶滅危惧ⅠB類	—
オオバタチツポスミレ	絶滅危惧Ⅱ類	—
ゴキツル	—	絶滅危急種
ミズスギナ	絶滅危惧Ⅱ類	—
エゾムラサキツツジ	絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危急種
クリンソウ	絶滅危惧Ⅱ類	—
カイジンドウ	絶滅危惧Ⅱ類	—
ムシャリンドウ	—	希少種
エゾナミキソウ	絶滅危惧Ⅱ類	—
ネムロブシダマ	準絶滅危惧	—
エゾオオヨモギ	絶滅危惧Ⅱ類	—
オナモミ	—	希少種
シバナ	絶滅危惧Ⅱ類	希少種
ホソバノシバナ	絶滅危惧Ⅱ類	希少種
クロユリ	準絶滅危惧	—
エゾヒメアマナ	—	希少種
ショウロウスゲ	絶滅危惧ⅠA類	希少種
ネムロスゲ	準絶滅危惧	絶滅危急種
シズイ	—	絶滅危急種
オオミズトンボ	—	絶滅危急種
トキソウ	絶滅危惧Ⅱ類	希少種

2) 網走市立郷土博物館（2006）とうふつ湖の植物一覧

3) 環境省 RL・北海道 RDB



アッケシソウ



キタミフクジュソウ

(3) 魚類

オホーツク海沿岸部の湖沼は、海と通じているためカレイ類などの汽水・海水魚や、ウグイ類などの回遊魚、淡水魚が生息しており、沿岸部ではサケマス類をはじめ多様な魚類が生息している。

濤沸湖においてもクロソイ、アイナメ、コマイ、ヌマガレイ、クロガシラガレイなどの海水・汽水魚、ワカサギ、マルタウグイ、ウグイなどの回遊魚、コイ、ギンブナ、トミヨなどの淡水魚が生息しており、道内各地で個体数減少の著しいイトウの生息も確認されている(斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書(1993))。これらの魚類のうち、近年はコイやフナの稚魚が見られなくなっているという情報もある。

濤沸湖に流入する浦士別川では、ヒメマス、カラフトマス、サケ稚魚、サクラマス(ヤマメ)、ニジマス、アメマス、マルタウグイ、ヌマチチブ、ウキゴリが生息している。特にサクラマス幼魚(ヤマメ)が優占しており、地元釣り団体が例年放流を行っている。浦士別川河口から約20km上流の清浦頭首工には魚道が設置されており、主にサケ科魚類(ヤマメ、アメマスなど)の遡上降下に利用されている。

また、浦士別川河口付近はワカサギの主要な産卵場となっているほか、支流イチャンパオマナイ川ではカラフトマスの増殖事業が行われており、収容所の周辺では自然産卵も行われている(斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書(1993))。

濤沸湖で確認される主な魚介類^{1), 2)}

濤沸湖				流入河川			
魚類		エビ・カニ・貝類		魚類		エビ・カニ・貝類	
科名	種名	科名	種名	科名	種名	科名	種名
ヤツメウナギ	カワヤツメ	テナガエビ	スジエビ	サケ	アメマス ヒメマス (ベニザケの産卵・湖沼 カラフトマス サケ サクラマス (ヤマメ含む) アマゴ ニジマス	テナガエビ	スジエビ
ニシン	ニシン		イソスジエビ				
サケ	イトウ	エビジャコ	エビジャコ				
	アメマス	イワガニ	モクスガニ				
キュウリウオ	ワカサギ	ウミミナ	ホソウミミナ				
シラウオ	シラウオ	マルスタレガイ	アサリ				
コイ	ウグイ	シジミ	ヒメアサリ				
	マルタウグイ		ヤマトシジミ				
	コイ						
	ギンブナ						
フナ							
サヨリ	サヨリ						
トゲウオ	イトヨ						
	トミヨ						
ヨウジウオ	ヨウジウオ						
ボラ	メナダ						
サバ	サバ						
ハゼ	ヌマチチブ						
	アジシロハゼ						
	ウキゴリ						
	イサザ						
	ピリンゴ						
	シュスカケハゼ						
ヌイメガシ	ヌイメガシ						
フサカサゴ	クロソイ						
アイナメ	アイナメ						
ケムシカジカ	イソバテンゴ						
クサウオ	クサウオ						
カレイ	クロガシラガレイ						
	ヌマガレイ						
	トウガレイ						
タラ	コマイ						

1) 社団法人北海道水産資源技術開発協会(1978)斜網西部地区漁業影響調査報告書(濤沸湖)調査資料編

2) 社団法人北海道栽培漁業振興公社(1993)斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書



確認されている魚類のなかには貴重種に選定されているものも多く、主なものはイトウ、サクラマス（ヤマメ）、シラウオ、マルタウグイなどである。

魚類の貴重種^{1), 2), 3)}

種名	環境省 RL	北海道 RDB	確認位置
カワヤツメ	絶滅危惧Ⅱ類	—	濤沸湖
イトウ	絶滅危惧ⅠB類	絶滅危機種	濤沸湖
ヒメマス	—	絶滅危機種	浦士別川
サクラマス（ヤマメ）	準絶滅危惧	留意種	浦士別川・丸万川
シラウオ	—	希少種	濤沸湖
マルタウグイ	—	留意種	濤沸湖・浦士別川
ヤマトシジミ	準絶滅危惧	—	濤沸湖

- 1) 社団法人北海道水産資源技術開発協会（1978）斜網西部地区漁業影響調査報告書（濤沸湖）調査資料編
- 2) 社団法人北海道栽培漁業振興公社（1993）斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書
- 3) 環境省 RL・北海道 RDB



（4）底生動物

濤沸湖では、湖内の塩分濃度に対応した種類が分布しており、塩分が高い湖口から丸万川までの水域ではホソウミナナ、ニホンドロソコエビ、イソコツブムシ、イトゴカイなどが多く、塩分が低くなる湖中央部から湖奥部では淡水性のユスリカ類が多く生息している（桑原連（2000）網走4湖沼の底生動物（マクロベントス）の分布、網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書）。

浦士別川ではカゲロウ類（エルモンヒラタカゲロウ、フタマタマダラカゲロウなど）、カワゲラ類（アミメカワゲラ、ミドリカワゲラなど）、トビケラ類（ヒゲナガカワトビケラ、ヤマトビケラなど）、ガガンボ・ユスリカ類などの水生昆虫類のほか、カワシンジュガイやヨコエビ類、ミミズ類など約 60 種の生息が確認されている。浦士別川の中流域では河川改修が行われているが、上流部の自然河川区間と比較しても遜色ない種類および生息量が確認されており、改修区間の底生動物の多様化が進んでいるものと考えられる（斜網西部地区濤沸湖漁業影響調査報告書（1993））。

澗沸湖内と流入河川の主な底生動物 1), 2), 3), 4)

澗沸湖		流入河川			
科名	種名	科名	種名	科名	種名
ユスリカ	オオユスリカ	フタオカゲロウ	マエグロヒメフタオカゲロウ	アミカ	アミカ科
	ユスリカ類 2	コカゲロウ	シロハラコカゲロウ	ブユ	ブユ科の一種
	ユスリカ類 3		コカゲロウ属	ヌカカ	ヌカカ科の一種
	ユスリカ類 4		フタバコカゲロウ属	ユスリカ	ユスリカ科
	ユスリカ類 5	チラカゲロウ	チラカゲロウ	ミズアブ	ミズアブ科
	ユスリカ類 6	ヒラタカゲロウ	ミヤマタニガワカゲロウ属	シギアブ	シギアブ科の一種
コツプムシ	イソコツプムシ		タニガワカゲロウ属	ナガレアブ	ナガレアブ科
ユソボソコエビ	ニホンドロソコエビ		ユモモンヒラタカゲロウ	アブ	アブ科
キタヨコエビ	トゲオヨコエビ		エルモンヒラタカゲロウ	オドリバエ	オドリバエ科
無針綱			ウエノヒラタカゲロウ	ヤマトビケラ	コヤマトビケラ
多毛綱			ヒラタカゲロウ属		イノフスマヤマトビケラ
ゴカイ	ゴカイ		ヒメヒラタカゲロウ		ヤマトビケラ属
イトゴカイ	イトゴカイ		ヒメヒラタカゲロウ属	ナガレトビケラ	ヒロアタマナガレトビケラ
貧毛類		トビイロカゲロウ	ナミトビイロカゲロウ		ホッカイドウナガレトビケラ
カワサンショウガイ	カワサンショウガイ		トビイロカゲロウ属		カワムラナガレトビケラ
タマキビガイ	タマキビガイ	モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ		ムナグロナガレトビケラ
ウミニナ	ホソウミニナ		モンカゲロウ属		トランスウィラナガレトビケラ
マルスダレガイ	ヒメアサリ	マダラカゲロウ	クロマダラカゲロウ		ナガレトビケラ属
			フタマタマダラカゲロウ		ツメナガレトビケラ
			ヨシノマダラカゲロウ	ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ
			ミツゲマダラカゲロウ	シマトビケラ	アミメシマトビケラ属
			マダラカゲロウ属		(シロフツヤトビケラ属)
			クシゲマダラカゲロウ		シロフツヤトビケラ
			アカマダラカゲロウ		コガタシマトビケラ
		サナエトンボ	サナエトンボ科		ウルマーシマトビケラ
		ミジカオカワゲラ	ミジカオカワゲラ科の数種		シマトビケラ属
		オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属		ミヤマシマトビケラ属
			オナシカワゲラ属	エグリトビケラ	ニンギョウトビケラ
			ユビオナシカワゲラ属		ニンギョウトビケラ属
			オナシカワゲラ科の一種		ジョウザンエグリトビケラ
		アミメカワゲラ	アミメカワゲラモドキ属		コエグリトビケラ属
			アミメカワゲラ科		アツバエグリトビケラ属
		カワゲラ	コガタフツツメカワゲラ属		トビモンエグリトビケラ
			トウゴウカワゲラ属		エグリトビケラ亜科
			カワゲラ属	カクツツトビケラ	コカクツツトビケラ属
		ミドリカワゲラ	ミドリカワゲラ科	カクスイトビケラ	アメリカカクスイトビケラ
		ガムシ	ガムシ科の一種		カクスイトビケラ属
		ヒメドロムシ	ヒメドロムシ科		マルツツトビケラ属
		ナガドロムシ	ナガドロムシ属	トビケラ目	
		ガガンボ	Tipula属の一種	キタヨコエビ	トゲオヨコエビ
			ヒメウスバガガンボ属	ヨコエビ類	
			Dicranota属	貧毛類	
			ダイミョウガガンボ	フラナリア類	
			オオヒゲナガガガンボ属	カワシンジュガイ	カワシンジュガイ
			ガガンボ科	マメシジミ	マメシジミ属

- 1) 社団法人北海道水産資源技術開発協会（1978）斜網西部地区 漁業影響調査報告書（澗沸湖） 調査資料編
- 2) 社団法人北海道栽培漁業振興公社（1993）平成5年度斜網西部地区澗沸湖漁業影響調査報告書
- 3) 桑原連（2000）網走4湖沼の底生動物（マクロベントス）の分布、網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書
- 4) 網走市（1978）網走市水産振興基本計画（オホーツク・マリン・プロジェクト イン 網走）

上記以外の種では、東京農業大学アクアバイオ学科(故)鈴木淳志教授から、「特定外来生物に指定されているウチダザリガニが数年前に澗沸湖において確認され、周辺域にもその分布を広げている可能性がある。」と報告されている。

確認種のうちではカワシンジュガイが貴重種に選定されている。

底生動物類の貴重種 2), 5)

種名	環境省 RL	北海道 RDB	確認位置
カワシンジュガイ	絶滅危惧Ⅱ類	—	浦士別川

2) 社団法人北海道栽培漁業振興公社（1993）平成5年度斜網西部地区澗沸湖漁業影響調査報告書

5) 環境省 RL・北海道 RDB



カワシンジュガイ



ミドリカワゲラの1種



エルモンヒラタカゲロウ

(5) 陸上昆虫類

オホーツク海沿岸部の湖沼では、その良好な自然環境から昆虫類が数多く生息しており、濤沸湖と周辺地域においても、チョウ類（セセリチョウ、アゲハチョウ、シジミチョウなど）、コウチュウ類（ゲンゴロウ、ミズスマシ、クワガタムシ、コガネムシ、カミキリムシなど）、バッタ類（バッタ、キリギリス、コオロギなど）、トンボ類（イトトンボ、ヤンマなど）などの約 250 種の多様な昆虫類が生息している。これらの昆虫類のうち、キタイトトンボやエゾアカネなど好寒種が多く生息していることが特徴的である（濤沸湖の昆虫一覧 2006）。



クジャクチョウ



ガムシ



エソルライトトンボ



ハネナガキリギリス

澗沸湖周辺で確認される主な昆虫類¹⁾

科名	種名	科名	種名	科名	種名
イトトンボ	クロイトトンボ	ゲンゴロウ	カラフトマルガタゲンゴロウ	オトシブミ	オオヒメコオトシブミ
	セスジイトトンボ		シマゲンゴロウ	ソウムシ	ハナウドソウムシ
	キタイトトンボ	コシマゲンゴロウ	シラフヒョウタンソウムシ		
	エソイトトンボ	オオミスズマシ	オオゴボウソウムシ		
	ルリイトトンボ	ミスズマシ	コナラシギソウムシ		
ゴトウアカメイトトンボ	ガムシ	エンマハバヒロガムシ	オサソウムシ	オオソウムシ	
エソルリイトトンボ		スジヒメガムシ	アリ	アカヤマアリ	
アオイトトンボ	アオイトトンボ	エソコガムシ	クロヤマアリ	スズメバチ	トガリフタモンアシナガバチ
オツネントンボ	オツネントンボ	ガムシ	スズメバチ		モンズメバチ
ヤンマ	ルリボシヤンマ	シテムシ	オオモモフトシテムシ	オオスズメバチ	ケブカスズメバチ
オオルリボシヤンマ	オオルリボシヤンマ		ヨツボシヒラタシテムシ	ケブカスズメバチ	
ギンヤンマ	ギンヤンマ	ヒラタシテムシ	ヒラタシテムシ		
エソトンボ	キハネモリトンボ	ハネカクシ	シラオビシテムシモドキ	ミツバチ	オオマルハナバチ
	エソトンボ		オオハネカクシ		エソオオマルハナバチ
トンボ	ヨツボシトンボ	クワガタムシ	アカバハネカクシ		セイヨウオオマルハナバチ
	シオカラトンボ		ツヤハダクワガタ		トラマルハナバチ
	シオヤトンボ		ミヤマクワガタ		ヨウシュウミツバチ
	ウスバキトンボ	コクワガタ	ケハエ	メスアカケハエ	
	ムツアカネ	スジクワガタ		アフ	ゴマフアフ
	ナツアカネ	アカアシクワガタ	ハナアフ	アカウシアフ	
	マユタテアカネ	オニクワガタ		ウシアフ	
	エゾアカネ	ノコギリクワガタ	ムツモンホソヒラタアフ		
	アキアカネ	オオセンチコガネ	コガタヒラタアフ		
	ノシメトンボ	センチコガネ	ヤマトヒゲナガハナアフ		
	ミヤマアカネ	コガネムシ	シロスジベッコウハナアフ		
	カマドウマ	マダラカマドウマ	マエカドコエンマコガネ	オオシマハナアフ	シマハナアフ
		ケラ	ツノコガネ	ハナアフ	アシフトハナアフ
	ケラ	ケラ	ヨツボシマグソコガネ	フタガタハナアフ	スズキナガハナアフ
	カントアン	カントアン	ツマベニマグソコガネ	セセリチョウ	コキマダラセセリ
キリギリ	エソツユムシ	マグソコガネ	オオチャハネセセリ		
バッタ	ハネバッタ	シロスジコガネ	カラフトチャイロコガネ	コチャハネセセリ	
	チシマヒナバッタ	キンスジコガネ	ドウガネフイフイ	アゲハチョウ	カラサアゲハ
	トノサマバッタ	ヒメコガネ	ヒメコガネ		ミヤマカラスアゲハ
	フキバッタ	ツヤシコガネ	ツヤシコガネ	キアゲハ	
	ミヤマフキバッタ	マメコガネ	キンスジコガネ	ナミアゲハ	
ヒシバッタ	ヒシバッタ	トラハナムグリ	アオハナムグリ	ヒメウスバシロチョウ	
クギヌキハサミムシ	コフハサミムシ	アオカナブン	カブトムシ	シロチョウ	ツマキチョウ
クギヌキハサミムシ	クギヌキハサミムシ	タマムシ	フタオタマムシ		エソシロチョウ
セミ	エソハルセミ	コメツキムシ	サビキコリ		モンキチョウ
アワフキムシ	マルアワフキ	ベニコメツキ	エソヒラタコメツキ		エソヒメシロチョウ
アメンボ	アメンボ	エソヒラタコメツキ	アイヌアカコメツキ		エソスジクロシロチョウ
アメンボ	セアカアメンボ	カバイロコメツキ	ベニボタル	モンシロチョウ	
コオイムシ	オオコオイムシ	ベニボタル	ホソベニボタル	シジミチョウ	ルリシジミ
タイコウチ	ミスカマキリ	ホタル	ハイケボタル		アイノミドリシジミ
カスミカメムシ	ハナアカカスミカメ	ジョウカイボン	ジョウカイボン		ツバメシジミ
ホソハリカメムシ	キベリハリカメムシ	アオジョウカイ	アオジョウカイ		カバヒロシジミ
ハリカメムシ	ハリカメムシ	テントウムシ	アカホシテントウ		ベニシジミ
カメムシ	アカスジカメムシ	カメノコテントウ	ナナホシテントウ	ゴマシジミ	
	ムラサキカメムシ	ナナホシテントウ	ナミテントウ	ミドリシジミ	
	フチヒゲカメムシ	ニジュウヤホシテントウ	アカハネムシ	ヒメシジミ	
	ナガメ	アカハネムシ	ツチハンミョウ	ムモンアカシジミ	
	オオトゲシラホシカメムシ	ツチハンミョウ	ハンミョウ	ニワハンミョウ	タテハチョウ
エゾアオカメムシ	ゴミムシダマシ	カクサナゴミムシダマシ	ミヤマハンミョウ	コムラサキ	
ツノアオカメムシ	カミキリムシ	ホネゴミムシダマシ	ホソクビキマワリ	サカハチチョウ	
ハンミョウ	カミキリムシ	ホソクビキマワリ	キマワリ	アカマダラ	
オサムシ	エソカタビロオサムシ	ノコギリカミキリ	オオクロカミキリ	ミドリヒョウモン	
オサムシ	エソマイマイカブリ	アカハナカミキリ	アカハナカミキリ	ウラギンシジミ	
オサムシ	セスジアカガネオサムシ	フチヒゲハナカミキリ	ヨツスジハナカミキリ	コヒョウモン	
オサムシ	キンナガゴミムシ	エグリトラカミキリ	エソカミキリ	カラフトヒョウモン	
オサムシ	オオキンナガゴミムシ	エソカミキリ	センノキカミキリ	ウラギンヒョウモン	
オサムシ	エソキンナガゴミムシ	ハンノキカミキリ	ハンノキカミキリ	クジャクチョウ	
オサムシ	セボシヒラタゴミムシ	ハムシ	ハッカハムシ	フタスジチョウ	
オサムシ	マルガタゴミムシ	ハムシ	ルリハムシ	コミスジ	
オサムシ	ゴミムシ	ハムシ	ハンノキハムシ	エルタテハ	
オサムシ	コヨツボシゴミムシ	ハムシ	アザミオオハムシ	シートテハ	
オサムシ	アオゴミムシ	ハムシ	カタクリハムシ	ギンボシヒョウモン	
コツブゲンゴロウ	コツブゲンゴロウ	ハムシ	ヒメジンガサハムシ	ジャノメチョウ	シロオビヒメヒカゲ
ゲンゴロウ	カラフトシマゲシゲンゴロウ	ハムシ	ハムシ		クロヒカゲ
ゲンゴロウ	クロスマゲンゴロウ	ハムシ	ハムシ	ジャノメチョウ	サトキマダラヒカゲ
ゲンゴロウ	マメゲンゴロウ	ハムシ	ハムシ	オオヒカゲ	
ゲンゴロウ	キベリクロヒメゲンゴロウ	ハムシ	ハムシ	ヒメウラナミジャノメ	
ゲンゴロウ	ヨツボシクロヒメゲンゴロウ	ハムシ	ハムシ	ヤマユガ	オオミスアオ
ゲンゴロウ	ヒメゲンゴロウ	ハムシ	ハムシ		オナガミスアオ
ゲンゴロウ	ゲンゴロウモドキ	ハムシ	ハムシ		
ゲンゴロウ	マルガタゲンゴロウ	ハムシ	ハムシ		

1) 網走市立郷土博物館(2006) 澗沸湖の昆虫一覽 澗沸湖の自然

確認されている昆虫類のなかには貴重種に選定されているものも多く、主なものはゴマシジミ、エゾカミキリ、セスジイトトンボ、ゴトウアカメイトトンボなどである。カラフトキリギリスは国内では小清水原生花園で初めて確認された種である。その後稚内市内でも確認されたが、現状では小清水原生花園が最も生息数が多い。

陸上昆虫類の貴重種^{1), 2)}

種名	環境省 RL	北海道 RDB
セスジイトトンボ	—	希少種
ゴトウアカメイトトンボ	準絶滅危惧	絶滅危急種
ナツアカネ	—	希少種
エゾアカネ	準絶滅危惧	希少種
カラフトキリギリス	—	希少種
オオコオイムシ	—	希少種
マルガタゲンゴロウ	準絶滅危惧	—
カラフトマルガタゲンゴロウ	—	希少種
シマゲンゴロウ	—	希少種
ミズスマシ	—	希少種
エゾコガムシ	準絶滅危惧	留意種
エゾカミキリ	—	希少種
ゴマシジミ	絶滅危惧 II 類	—
ウラギンスジヒョウモン	準絶滅危惧	—
カラフトヒョウモン	準絶滅危惧	—

1) 網走市立郷土博物館（2006） 濤沸湖の昆虫一覧 濤沸湖の自然

2) 環境省 RL・北海道 RDB



3 社会分野の特性

(1) 交通

① 道路、鉄道—交通平面図 (P.34)

道路ではサロマ方面から国道 238 号、美幌方面から国道 39 号、網走から斜里までの国道 244 号、やや内陸で美幌～斜里を結ぶ国道 334 号など多くの国道が存在し、オホーツク地域の物流や観光に寄与している。道道も内陸の高台を走る道道 102 号(小清水女満別線)や能取湖と網走市街を結ぶ道道 76 号など景観や観光施設へのアクセスにも利用されるものなどがネットワークしている。

鉄道は美幌方面から JR 石北本線を経て網走駅より斜里方面へ向かう釧網本線が敷設されている。世界自然遺産である知床の玄関口として JR 網走駅が位置づけられる。

濤沸湖周辺では北浜、原生花園、浜小清水の各駅を持つ JR 釧網本線、鉄道と平行して走る国道 244 号を中心に、湖南側を走る道道小清水女満別線、国道と道道を結ぶ道道浦士別小清水停車場線や道道明生北浜線など濤沸湖の周囲を道路が巡っている。

② 港湾

網走における海上輸送の拠点として網走港がある。網走港は重要港湾に指定され、オホーツク海の水揚げや物流に欠かせないものとなっている。入港する船舶は内外の商船や漁船を合わせて 12,000 隻(平成 17 年)が数えられている。

漁港では鱒浦漁港、呼人漁港(以上第 1 種漁港 - 利用範囲が地元の漁業を主とする)、能取漁港(第 4 種漁港 - 漁場の開発、漁船の避難上特に必要な漁港)がある。濤沸湖周辺ではいくつかの船着場を除いては漁港はない。



(2) 環境関連

① 自然公園等—国定公園等位置図 (P.39)

国定公園

網走国定公園はサロマ湖、能取湖、リヤウシ湖、網走湖、藻琴湖、濤沸湖、止別斜里海岸およびその周辺において指定されており、そのうち特別保護地区として各種行為に関して道知事の許可が必要となる地区として小清水原生花園、斜里草原の2ヶ所があげられる。

網走国定公園		
地域地区名 ¹⁾	内 容	規 制
特別保護地区	特に優れた自然景観原始状態を保持している地区	特別地域での規制(下記)に加えて植栽、放牧、落葉落枝の採取、たき火などまでが規制対象とされる。地区内での現状変更行為は原則として認められない。
第1種特別地域	現在の景観を極力保護することが必要な地域	土地の形状変更、工作物の設置、木竹の伐採など自然環境を改変する各種行為について都道府県知事の許可を得なければならない。(自然公園法第13条)。
第2種特別地域	農林漁業活動について努めて調整を図ることが必要な地域	
第3種特別地域	通常の農林漁業について風致の維持に影響が少ない地域	
普通地域	上記以外の区域	各地域指定地に接するオホーツク海汀線から沖合1,000mまでの海中区域が該当。

1) 自然公園法

網走国定公園区域のうち濤沸湖に係わる指定として、小清水原生花園海側—特別保護地区、小清水原生花園湖側—第1種特別地域、湖+砂洲—第2種特別地域、オホーツク海(汀線から沖合1000mまでの区域)—普通地域が指定されている。

鳥獣保護区

周辺地域ではサロマ湖の沿岸部の森林や網走湖呼人や能取湖などが道指定の鳥獣保護区に指定されているが、国指定鳥獣保護区は濤沸湖のみである。

国指定鳥獣保護区			
名称 ²⁾	目的等	行為の制限	その他
鳥獣保護区	鳥獣の保護繁殖を図ることを目的として、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律(鳥獣保護法)」に基づいて環境大臣が指定する区域。	鳥獣保護区の区域内では狩猟が禁止されている。	多様な鳥獣の生息環境を保全するために、管理及び整備を行うが、地権者には鳥獣保護施設が設置されることについての受認義務が生ずる。
特別保護地区	鳥獣保護区内で特別に鳥獣の保護繁殖を図る必要がある場合には、環境大臣が特別保護地区を指定することができる。	木竹の伐採、水面の埋立・干拓、工作物の設置には環境大臣の許可が必要	その他木竹以外の植物の伐採(農林漁業除く)、火入れ、動力船(漁業除く)の航行、鳥獣の生息に支障となるような観察、犬等の放逐、球技等レクリエーションなどの行為についても許可が必要となる。

2) 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律

濤沸湖においては国により鳥獣保護区が指定されており、湖南側後背地および湖、砂洲の範囲がそれにあたるが、そのうち湖水面のみが特別保護地区に設定されている。

ラムサール条約湿地

濤沸湖は低層湿原および湖沼を中心に大規模なオオハクチョウ・ヒシクイ等渡来地として平成17年11月にラムサール条約湿地に登録された。約900haの湖水面がその範囲にあたり、指定されるための国際基準を満足していることによって登録された。ラムサール条約は各締約国にそれぞれの国内法によって条約湿地を保全・管理することを求めており、すでに濤沸湖においては国指定鳥獣保護区の特別保護地区に指定され、地区内での土地改変などの行為が制限されているが、現在行われている漁業や適正な活動などに新たな規制が加わることはない。

濤沸湖の選定の根拠としてはラムサール登録湿地検討会において、以下に掲げる5つの基準を満たした湿地として選定されている。

基準1 各生物地理区内において代表的な湿地①³⁾

	湿原	河川	湖沼
候補地選定基準	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重要湿地500の「湿地タイプ」に「湿原」が含まれること。 ○ 一定以上の規模とまとまりを有していること。(第5回自然環境保全基礎調査、湿地調査において、原則として200ha以上(北海道)または100ha(北海道以外)以上であり単一で一定程度のまとまりを有していること。) ○ 選定理由が重要湿地500の選定基準②(希少種等の生育生息)のみでないこと。 ○ 湿原に保護区が重複すること。 ○ 湿原のタイプ(高層湿原、低層湿原、中間湿原)のバランス 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重要湿地500の「湿地タイプ」に「河川」が含まれること。 ○ 河川が主な選定対象であること。 ○ 一定以上の規模を有していること(長さ5km以上)。 ○ 選定理由が重要湿地500の選定基準②(希少種等の生育生息)のみでないこと。 ○ 河川に保護区が重複すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 重要湿地500の「湿地タイプ」に「湖沼」が含まれること。 ○ 一定以上の規模を有していること(原則として500ha以上)。 ○ 人工湖岸率が50%未満(第4回自然環境保全基礎調査、湖沼調査)であること。 ○ 選定理由が重要湿地500の選定基準②(希少種等の生育生息)のみでないこと。 ○ 湖沼に保護区が重複すること。 ○ 地域のバランス
候補地名	6 サロベツ原野(北海道)(高層) 14 濤沸湖(北海道)(低層) 18 野付半島・野付湾・尾岱沼(北海道)(低層) 23 風蓮湖(北海道)(低層) 39 沼の原・沼の平(北海道)(高層) 70 屏風山湿原池沼群(青森県)(中間) 72 八甲田山湿原群(青森県)(高層) 75 八幡平周辺湿原群(岩手県・秋田県)(高層) 127 尾瀬ヶ原・尾瀬沼(福島県・群馬県・新潟県)(高層) 143 湯の湖・戦場ヶ原・小田代ヶ原湿原(栃木県)(高層) 178 苗場山周辺湿原(新潟県・長野県)(高層) 203 立山周辺湿原群(富山県)(高層) 402 九重火山群湿原(大分県)(中間)	493 仲間川(沖縄県) 498 浦内川(沖縄県)	11 サロマ湖(北海道)汽水 12 能取湖(北海道)汽水 14 濤沸湖(北海道)汽水 23 風蓮湖(北海道)汽水 32 阿寒湖(北海道)淡水 58 大沼(北海道)淡水 69 十三湖・岩木川(青森県)汽水 120 裏磐梯湖沼群(松原湖)(福島県)淡水 121 猪苗代湖(福島県)淡水

基準2 絶滅のおそれのある種または生態学的群集の存在にとって重要³⁾

重要湿地500		タンチョウ	マナツル	ナベツル	クロツラヘラサギ	ズグロカモメ	ヘラサギ	オオセッカ	カラフトアオアシシギ
		国内稀少野生動植物種	○						
	IUCNレッドリスト	VU	VU	VU	EN	VU	VU	VU	CR
	環境省RDB	VU	VU	VU	CR	VU	EN	EN	CR
13	網走湖(北海道)	○							
14	濤沸湖(北海道)	○							
18	野付半島・野付湾・尾岱沼(北海道)	○							
23	風蓮湖(北海道)	○					○		
32	阿寒湖(北海道)	○							
65	仏沼(青森県)							○	
69	十三湖・岩木川(青森県)							○	
131	利根川下流部(茨城県・千葉県)							○	

3) 第2回ラムサール条約登録湿地検討会資料

基準3 生物地理区の生物多様性を維持するのに重要³⁾

○ 専門家に対するアンケートにおいて、基準3にあてはまると回答があった湿地
○ 湿地に保護区が重複すること
6 サロベツ原野（北海道）
11 サロマ湖（北海道）
14 濤沸湖（北海道）
23 風蓮湖（北海道）
39 沼の原・沼の平（北海道）
41 雨竜沼湿原（北海道）

基準5 水鳥2万羽を定期的に支える湿地³⁾

○ 定量的基準を3年連続又は5年うちの3年を満たしている湿地のデータ

日本の重要 湿地 500	湿地名	環境省ガン・カモ類生息調査において、過去5年間の ガン・カモ類の渡来数				
		1998	1999	2000	2001	2002
88	蕪栗沼（宮城県）	13,898	10,424	23,304	24,846	24,342
159	三番瀬（千葉県）	74,992	43,181	71,543	107,314	101,739
189	瓢湖（新潟県）	34,697	28,289	24,158	8,911	20,793
300	中海（鳥取県・島根県）	19,921	62,723	74,534	49,082	65,324
301	穴道湖（島根県）	25,208	21,375	48,615	26,480	18,107

すでに国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されているか、計画があるところから検討

○ 渡りの時期に基準を満たしている湿地のデータ（最大値）

日本の重要湿地 500	湿地名	最大渡来数
14	濤沸湖（北海道）	66,935
18	野付湾（北海道）	28,180
23	風蓮湖（北海道）	54,839

すでに国指定鳥獣保護区特別保護地区に指定されているか、計画があるところから検討

3) 第2回ラムサール条約登録湿地検討会資料

基準6 水鳥の個体数の1%を定期的に支える湿地³⁾

注) 瀧渚湖において確認されているのはオオヒシクイではなくヒシクイである。

日本の重要湿地500	湿地	ガン・カモ	シギ・チドリ	ツル	種	1%基準	季節	データ						備考	
								最大値	1998	1999	2000	2001	2002		2003
6	サロベツ原野(北海道)	○			オオヒシクイ	550	渡り	2,700							
		○			コハクチョウ	860	渡り	1,196							
11	サロマ湖(北海道)	○			オオハクチョウ	600	渡り	800							
12	能取湖(北海道)	○			オオヒシクイ	550	渡り	1,000							
14	瀧渚湖(北海道)	○			オオハクチョウ	600	渡り	1,467							
		○			オオヒシクイ	550	渡り	1,200							
		○			ヒドリガモ	7,500	渡り	58,912							
		○			ミコアイサ	1,000	渡り	3,141							
		○			ウミアイサ	1,000	渡り	1,599							
18	野付半島・野付湾・尾岱沼(北海道)		○		キアシシギ	400	秋		-	-	1,193	1,924	364	993	
				○	タンチョウ	8	夏・秋		-	28	20	40	36	36	巢数×4
		○			オオハクチョウ	600	渡り	3,155							
		○			コクガン	50	渡り	3,500							
		○			ヒドリガモ	7,500	渡り	11,323							
		○			スズガモ	3,000	渡り	7,842							
23	風蓮湖(北海道)		○		キアシシギ	400	秋		-	-	1,621	-	1,766	1,691	
				○	タンチョウ	8	夏・秋		-	64	72	84	72	92	巢数×4
		○			オオハクチョウ	600	渡り	10,331							
		○			ヒシクイ	550	渡り	1,800							
		○			コクガン	50	渡り	2,000							
		○			ヒドリガモ	7,500	渡り	8,673							
		○			オナガガモ	7,500	渡り	11,442							
		○			スズガモ	3,000	渡り	19,076							
○			ホオジロガモ	750	渡り	1,517									

3) 第2回ラムサール条約登録湿地検討会資料



※ 環境庁自然保護局 網走国定公園区域及び公園計画図、環境省（2005） 日本のラムサール条約湿地-豊かな自然・多様な湿地と賢明な利用、北海道 平成 19 年度 鳥獣保護区等位置図

(3) 産業

① 農業

濤沸湖の後背地において網走開発建設部による国営畑地帯総合土地改良パイロット事業「斜網西部地区」が進められ、麦、馬鈴しょ、てん菜を基幹作物とした十数戸単位の営農集団による大規模農業により畑作経営が行われている。同事業では浦士別川など3ヶ所から農業用水として取水を行っている（4～8月）。

また農業公共施設として音根内地区に総合管理センターや飲料水供給施設、栽培研究ハウスなどが設置され、周辺の農業の基地となっている。

小清水町では同様に国営畑地帯総合土地改良パイロット事業「小清水地区」が進められ、酪農を中心に麦、馬鈴しょ、てん菜を基幹作物とした大規模農業により畑作経営が行われている。酪農で生じる尿や農産物加工場からの廃液を培地にした微生物群を含んだ液体を「ゆう水」と呼び、土壌改良に利用している。以下に網走市と小清水町における主要農作物の生産状況について示す。

網走市、小清水町の農業生産（平成21年度）^{1) 2)}

網走市	作付面積(ha)	生産量(t)	生産額(円)	小清水町	作付面積(ha)	生産量(t)	生産額(円)
麦類	3,990	21,100	25.2億	麦類	2,720	14,288	7.31億
豆類	296	362	1.0億	豆類	196	336	0.17億
馬鈴しょ	2,991	116,411	30.9億	馬鈴しょ	2,218	28,016	17.58億
てん菜	3,529	212,495	34.1億	てん菜	2,800	183,391	18.33億
野菜	331	5,943	7.1億	野菜	543.7	11,625	6.11億
飼料作物	1,385	56,985	-	飼料作物	1,079	—	—億

1) 網走市勢要覧資料編2010(P6)

2) 小清水町産業課 主要作物動向調査

② 畜産業

畜産業では乳牛、肉牛および豚、鶏の飼養頭数が四湖沼の流域ごとに概ね以下の表のように示されている。

各湖沼流域の飼養頭数（平成15年）¹⁾

	サロマ湖流域	能取湖流域	藻琴湖流域	濤沸湖流域
乳牛+肉牛	27,000頭	1,200頭	6,500頭	3,000頭
豚	3,700頭	0頭	7,000頭	1,000頭
養鶏	0羽	0羽	0羽	0羽

1) 財団法人河川環境財団(2005)平成17年度施行網走管内における総合的な湖沼環境推進業務報告書(2-17~2-24)

網走市および小清水町での家畜飼育頭数（平成21年）は以下のようになる^{2) 3)}。

網走市	生産量(頭)	生産額(円)	小清水町	農家数(戸)	生産量(頭)	生産額(円)
乳用牛	1,147	0.9億	乳用牛	41	3,597	0.8億
肉用牛	950	3.4億	肉用牛	29	2,306	3.1億
廃用牛	433	0.5億	豚	7	1,112	0.4億
馬	1	90万	馬	3	89	98万

2) 網走市勢要覧資料編2010(P6)

3) 小清水町産業課 家畜等の飼養状況調査

家畜のふん尿は堆肥やスラリーなどにして畑や牧草地に散布し、循環型農業が実践されている。

網走市では、共同で堆肥舎を設け、堆肥を生成している営農集団がある。

小清水町営牧場ではふん尿を自然ばっ気により堆肥化し、3年間でのべ1万haの畑に散布している。

③ 林業

網走市の森林面積は約 16,000ha でうち民有林が約 10,000ha で 6 割強を占める。さらに、毎年、民有林のうち人工造林を 50~60ha 継続して行っている。

網走市の民有林人工林と造林実績¹⁾

森林面積 ha	H20年度人工林 面積 ha	最近5年間の造林実績 ha				
		H17	H18	H19	H20	H21
16,395	8,112	52	54	62	43	52

1) 網走市勢要覧資料編 2010 (P6)

小清水町の民有林人工林と造林実績²⁾

森林面積 ha	H20年度人工林 面積 ha	最近5年間の造林実績 ha				
		H17	H18	H19	H20	H21
14,126	6,983	5	11	29	43	47

2) 小清水町：2010 森林調査簿

小清水町では全森林面積約 14,000ha のうち 8 割が人工林であり、町有林もしくは民有林は約 3,000ha でそのうち約 1,700ha が人工林である。

濤沸湖の後背地の民有林では網走地区森林組合によって森林施業が行われており、皆伐、間伐、皆伐後の植林などが行われている。

④ 水産業

濤沸湖では汽水環境を活かしてカキの養殖、ワカサギの採卵、ニシン、スジエビなどの漁獲が中心となっている。特にワカサギは人工孵化事業により受精卵が阿寒湖、大沼、洞爺湖など北海道内の河川、湖沼、ダム湖をはじめ全国各地の湖に移植され、各地域での重要な役割を担っている。

2010年網走支庁管内の内水面漁業 (数量：トン、金額：千円)^{1),2)}

市町名	湖沼 (河川)	漁業権 設定の 有無	平成 21 年生産額		主要魚類	増養殖事業 実施魚種	湖沼の概要				
			数量	金額			面積 (km ²)	最大水深 (m)	湖水型	注 入 河川数	排 出 河川数
網走市	濤沸湖	内共 内区	49.6	23,887	ワカサギ	ワカサギ カキ	8.25	2.4	汽水	5	1
					エビ						
					カキ						
	藻琴湖	内共 内区	22.7	16,395	ワカサギ	ワカサギ シジミ カキ	0.98	5.6	汽水	3	1
					シジミ						
					カキ						
	網走湖 網走川	内共	1,013	634,846	シジミ	ワカサギ	32.33	16.1	汽水	3	1
					ワカサギ						
	能取湖	内共 内区	5,045	913,251	ホタテ	カレイ	58.41	23.1	汽水	11	1
					カレイ						
ウニ											
					チカ						

1) 北海道網走支庁 平成 17 年度版

2) 網走市水産統計 平成 21 年度版 (P13)

4 行動分野の特性

(1) 観光、イベント、環境教育—観光施設平面図 (P.44)

① 観光

観光では「東オホーツクシーニックバイウェイ」が推進され、知床から網走にかけての観光資源を有機的にむすびつけて地域の活性化を図ろうとする活動であり、それらがまとまってより魅力のある観光の醸成が行われることが期待される。

網走国定公園の園地への入込み者数の平成 17 年から平成 21 年のデータでは毎年 100 万人前後の利用者がカウントされている。卯原内などは近年その数を増大させているが、反面濤沸湖を訪れる人数は、現在では 4 年間で 7 割減となり 4 万人を切っている状況である。

濤沸湖に関連する観光施設として小清水原生花園（インフォメーションセンターHana を含む）、白鳥公園があげられる。

白鳥公園では秋に 2,000～3,000 羽のオオハクチョウが飛来、そのうち数百羽が越冬し人気が高く、平成 17 年までは年間 10 万人に近い入込みがあったが平成 21 年度は 33,000 人と減少している。小清水原生花園は 70～80 万人の年間入込みがあり、国定公園全体の半分以上を占めている。

網走国定公園の各園地における利用状況(入込み者数：人)¹⁾

園地	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
呼人浦	324,193	506,874	481,238	384,603	359,371
天都山	349,597	349,470	304,255	249,649	218,446
能取岬	76,626	72,335	58,470	45,871	39,946
二ツ岩	20,395	18,714	15,520	14,770	18,222
卯原内	86,712	213,338	232,363	201,063	190,695
濤沸湖	118,327	81,419	62,861	49,565	33,055
合計	975,850	1,242,150	1,154,707	945,521	859,735

主要園地施設の入込み者数(人)¹⁾

園地	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
天都山	368,293	340,990	281,536	245,760	210,831
能取岬	75,945	70,583	50,970	44,846	39,169
白鳥公園	92,108	63,753	54,684	34,756	31,737

1) 網走市経済部商工労働課・観光課 平成 21 年度版商工労働観光概要 (P27～28)

網走市観光振興計画 (H17) においては観光基本戦略の 1 つに「エコロジカルな観光地のデザイン」があげられ、濤沸湖のラムサール条約登録と観光面での活用がうたわれている。

小清水町においても近年は観光事業が活発に行われ、小清水原生花園をはじめ、リリーパーク、藻琴山のハイランド小清水 725 など年間の観光客の入込み者数の合計が約 80 万人にまで増加している。また、オホーツクの村などに見られる、ナショナルトラスト運動や町民の畑作と連動した農業体験など体験型観光への取り組みも盛んになっている。

② イベント

各市町では観光客誘致とまちの活性化のためにさまざまなイベントが行われている。

網走市ではオホーツク流氷まつり、オホーツク夏まつり、さんご草祭りは定着してきたため最近5年間で入込み数が安定している。会場は網走湖上や卯原内地区、網走商港や市中心部などに集中しており、より広域的な展開が必要となってくる。

網走市の主なイベントと内容¹⁾

行 催 事 名	期 間 (H22 年度実績)	場 所	内 容
北の新大陸発見 あったか網走	1月29日～3月6日	網走湖呼人浦キャン プ場	冬のアウトドア体験 氷上原生花園の演出
あばしりオホーツク 流氷まつり	2月10日～2月13日	網走商港	雪像、氷彫刻、屋台 ステージ
フラワーガーデン 「はな・てんと」	6月1日～10月31日	天都山網走レイクビ ュースキー場山頂ロ ッジ付近	3.5ha にサルビアなど 8万株の花園
オロチョンの火祭り	7月4日	網走湖呼人浦キャン プ場	北方系民族の儀式を 取り入れたイベント
あばしりオホーツク 夏まつり	7月22日～7月25日	網走4条通商店街区、 網走商港	花火 流水おどり
網走感動朝市	7月18日～10月11日	網走商港漁港区	海の幸山の幸販売
あばしり七福神まつり	9月4日～9月5日	網走4条通り	宝船運行
さんご草まつり	9月18日～9月19日	卯原内能取湖畔	さんご草
網走モヨロの夜まつり	9月25日～10月31日	網走湖呼人浦キャン プ場	サケの遡上、火祭り
オホーツク網走フィルム フェスティバル	11月27日～11月28日	エコセンターほか	地元ロケなど映画上映、 ロケ地めぐり、映画監督 トークショーほか

1) 網走市経済部商工労働課・観光課 平成22年度版商工労働観光概要(P29～30) ほか

小清水町では藻琴山からリリーパーク、町内の施設を利用した町の特性に合ったイベントが企画、実施されている。

小清水町のイベントの内容

行 催 事 名	期 間 (平成22年度実績)	場 所	内 容
藻琴山小清水高原峠開き	平成22年6月12日	小清水高原ハイランド 小清水725	藻琴山開き安全祈願祭 自然観察登山会
ゆりフェスティバル	平成22年8月1日	リリーパーク	ステージ ユリ鑑賞
じゃがいも フェスティバル	平成22年8月22日	開基100年記念公園	ゲーム、花火大会 青空市

③ 環境教育

網走市では環境教育行事として野鳥観察会、自然観察会の実施、観察ガイドマップの作成、他条約湿地でのこどもラムサール活動への支援などを推進している。

小清水町では同様に共催で野鳥観察会を、小清水原生花園ではごみ拾いや火入れなどを継続して行っている。



II 濤沸湖と周辺地域の課題

濤沸湖周辺環境の現状、濤沸湖環境保全活用計画「住民会議」および「策定委員会」の意見を踏まえ、今後の活用計画策定に向けての課題を整理しました（現状課題平面図（P.49））。

1 自然分野の課題

自然分野の課題は、景観および地形や水質に関することの二つに集約されます。景観については、在来植物の減少による景観の変化、地形や水質については湖底への土砂堆積が課題となっています。いずれの課題においても現象に対する調査等が不足しているのが現状です。課題については、以下の課題(1)～課題(6)に記します。

課題(1) 自然環境の保全

濤沸湖および周辺地域は自然環境に恵まれたところであり、多くの人々が訪れています。このため、近年この自然環境が損なわれるような傾向もあることから、今後この地域の現状を把握し、適切に自然環境を保全するための方策を検討することが必要です。

課題(2) 汽水湖の維持

汽水湖は淡水と海水が混ざり合っている湖で、水質の変動構造も海域や淡水域とは異なった特性をもち、多種類の生物も生息しています。この汽水湖としての特性や歴史を調査研究し、将来汽水湖としてのあるべき姿を定めることが必要です。

課題(3) 漂砂による堆積

海から流入する漂砂の堆積があるという声もあり、漂砂は湖浅化の原因になり得ることから、今後は調査研究を進めることが必要です。

課題(4) 湖の水質と底質の保全

濤沸湖は近郊の湖沼の中で、特に富栄養化が進んでいると考えられ、湖内の状況変化を把握するため、水質、底質調査を行い、保全することが必要です。

課題(5) 水環境のモニタリング

湿地としての湖の状況を把握するため、継続的な調査を実施することが必要です。

課題(6) 河川等の適正な管理

湖に流入する河川は、下流に位置する湖の環境へ影響を与えることが懸念されることから、河川流域の農地や森林から流出する汚濁負荷の軽減に向けて、関係機関等と連携を深めて取り組める方策の検討が必要で



濤沸湖の外観



濤沸湖畔のセンダイハギ群落



湖口の国道と鉄橋



丸万川の河口

2 生物分野の課題

生物分野の課題は、生態系保全に関すること、情報に関すること、施設整備に関することの三つに集約されます。生態系保全では生物および生息環境の調査と保全、情報の収集と発信体制の整備、施設整備では野生生物と観察者双方に配慮した整備が課題です。

課題については、以下の課題(7)～課題(15)に記します。

課題(7) 湖畔の緩衝帯の保全

水辺から陸地にかけての湖畔の緩衝帯は、生物の生息環境として、また、その持つ水質浄化作用などが重要です。そのため、保全対策を検討することが必要です。

課題(8) 原生花園の植生保全

近年、外来種の侵入やイネ科植生の優勢が表面化し、火入れなどによる植生保全が行われています。しかしながら、在来植生の劣化が引き続き見られますので、植生保全を進めることが必要です。

課題(9) 淡水魚の生息環境の保全

塩水の浸入などに伴い淡水魚への影響が懸念されています。魚類調査を実施するほか、保全策の検討が必要です。

課題(10) 自然生物情報の集積と発信

観察の拠点が必要であるとともに、情報の収集や発信に関する体制・施設等の検討が必要です。

課題(11) ソーニングの検討

野生動植物保護のため、適正な立入り区域を選定するソーニングと、その周辺で保全すべき自然の再生・復元を図ることが必要です。

課題(12) ふれあい環境の整備

白鳥公園や平和橋のような野鳥とのふれあいの場では、過密な生息域解消、餌付け方法の検討、ごみの発生抑制などの検討を進めることが必要です。

課題(13) 既存施設の改善

冬季間の利用者の利便を図るため、駐車場、トイレの通年利用を検討することが必要です。

課題(14) 観察施設とアクセスの整備

濤沸湖周辺は豊富な植物、鳥類相に恵まれており、観察のための施設、木道、散策路の設置が必要です。

課題(15) 交流拠点の整備

濤沸湖と周辺の自然探訪、観光、情報提供、学習など、訪れる人や地域住民の交流拠点(ネイチャーセンター等)を整備することが必要です。



馬の放牧



原生花園の火入れ



フクドジョウ



白鳥公園



原生花園 Hana



野鳥観察会

3 社会分野の課題

社会分野における課題は、交通、産業など多岐に渡っています。それだけに、この分野の課題は多くの住民、団体、事業所等の利害にも関係しており、主体間で調整を図り対応することが求められます。また、住民生活や産業活動は、自然との調和を念頭に置き、解決策を検討することが必要です。

課題については、以下の課題(16)～課題(24)に記します。

課題(16) 周辺景観の保全

建築物や工作物が周囲の景観と調和するよう景観保全を施していく必要があります。

課題(17) 遺跡・史跡の調査・保全

湖周辺には、歴史的な遺跡や史跡が多数分布しています。それらは、地域の貴重な文化財として、調査・保全を行うことが必要です。

課題(18) 浅化状況データの必要性

湖は土砂堆積が進み、浅くなっていると言われていますが、その裏付けとなるデータは不十分です。浅化状況のモニタリングを行い、データを蓄積させていくことが必要です。

課題(19) 土砂流出対策

河川からの流入などにより土砂が湖へ流出し、浅化の懸念が生じています。湖の浅化を抑制するため、発生源からの土砂流出防止対策を検討することが必要です。

課題(20) 漂流ごみの対策

湖や海岸で漂流ごみやプラスチックごみが増えています。漂流ごみの抑制には、発生から搬出までの総合的な対策が必要です。

課題(21) 其他のごみの対策

湖流入河川の橋下などでは、不法投棄による多くのごみが確認されています。これらのごみの対策を検討することが必要です。

課題(22) 地場産品の地域ブランド化

濤沸湖周辺では、個性的な地場産品が生産されています。それらの高付加価値化、ブランド化を図り、産業と観光の一体的な振興に取り組むことが必要です。

課題(23) 公共交通アクセスの充実

公共交通機関が少ないため、地域へのアクセスは自家用車に頼りがちな傾向が見られます。湖などへの観光アクセスを検討し、JRやバスなどの公共交通の利用促進を図ることが必要です。

課題(24) レクリエーション機能の充実

夏季のカヌーや冬季の歩くスキーなど、濤沸湖周辺では四季にわたり様々な親水体験が可能です。これらのメニューを活用し、体験・滞在型のグリーンツーリズムを促進させる取り組みが必要で



湖北岸の展望牧舎



浦士別川河口の土砂浚渫



原生花園の清掃活動



「ゆう水」によるゴボウ栽培



道の駅 小清水



釧網本線を走るDMV

4 行動分野の課題

行動分野における課題は、住民・産業活動に関することと、啓発・普及に関することです。住民・産業活動では環境保全関連情報の集積や活動団体への支援、啓発と普及では環境学習機会の創出が課題となっています。この分野の課題への対応は、学校や研究者等の協力が不可欠になります。

課題については、以下の課題(25)～課題(26)に記します。

課題(25) 住民・産業活動の取り組みと支援

環境保全を進めるためには、住民と行政の協働、産学官との連携、役割分担が重要です。また、住民や事業者などの主体的な取り組みに対する支援や協力体制の確立が必要です。

課題(26) 啓発と普及

環境保全の意識を啓発し普及するためには、住民が感心をもつ情報を提供するほか、イベントで環境学習の機会を増やすなど、有識者や関係団体との連携や協力が必要です。

また、様々な主体による調査・研究の拠点となる施設を整備することが必要です。



環境教育



2章 計画の理念と未来像

I 計画の背景と理念

1 計画の基本背景

網走市は、オホーツク海に面し、5つの湖（濤沸湖、網走湖、能取湖、藻琴湖、リヤウシ湖）や網走川などの多くの河川、森林など豊かな自然環境を有し、また動植物も数多く生息するなど、多様な生態系を形成しています。

小清水町は、1,000mの藻琴山から始まり、森、防風林、農地、湖、海まで続く、恵まれた土地を有しています。

平成17年11月、ラムサール条約湿地に登録された網走市と小清水町にまたがる濤沸湖は、砂州の発達でつくられた細長い砂丘によってオホーツク海と遮断され、湖の北西端でわずかに海とつながる汽水湖であり、周囲27km、面積は900ha、平均水位は0.7mで、最深部でも2.5mと浅くなっています。

ガン・カモ類は毎年6万羽以上が飛来し、特に、ヒシクイ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ミコアイサ、ウミアイサは、東アジア地域個体群の個体数の1%以上を支えており、絶滅危惧種のオジロワシ、オオワシ、タンチョウのほか、シマアオジも繁殖することがあります。

湖岸の低地には、塩性湿地帯が発達し、オオシバナ、エゾツルキンバイの群落、淡水湿地帯にはヨシ群落、ハンノキ林が分布しています。

なかでも、ミスバショウ、アッケシソウ、ヒオウギアヤメの群落、また、濤沸湖の西岸からオホーツク海につづく砂丘上の8km、面積275haの湿原植生群落「原生花園」には、ハマナス、エソスカシユリ、エゾキスゲなど、約40種の野生の花々が咲き乱れ、知床半島や斜里岳などを背景にした濤沸湖の美しい景観を眺めに多くの方が訪れています。

また、濤沸湖は、コアマモの藻場が形成され、スジエビやワカサギのほか、ヤマトシジミなどの魚貝類も生息していることから、内水面漁業の漁場として利用されています。

近年、廃棄物の増大、水質汚染、地球温暖化など、住民生活の身近なところから地球規模にいたるまで、環境をめぐる課題がクローズアップされています。

濤沸湖と周辺地域においても、美しい景観を阻害する状況、自然現象、または外的要因と考えられる地勢や水環境、植生の変化、生態の生息域の減少懸念などが多方面から指摘されており、貴重な自然環境の保護（保全）と再生が必要とされています。

濤沸湖の周辺地域の人々は、これまで、湖口に土砂がたまり湖水の流れが停滞する春先には、『潮切り（湖口を開くこと）』を行い、湖内環境を維持しているほか、湖畔の植生維持のための馬の放牧、開花前の春に小清水原生花園前で野焼きを行うなど、保全活動を続けています。

また、地域住民や関係機関などで組織する『濤沸湖および周辺域の環境保全推進協議会（以下「協議会」）』では、ごみ拾いなどの美観活動も進めています。

美しい自然景観を残し、貴重な自然資源を保全し、生物を慈しみ、自然と調和した持続可能な社会を築き、次世代に引き継ぐことは私たちの大きな使命です。

濤沸湖と周辺域の環境保全と賢明な利用を進めるためには、各分野からの活動を促進し、住民、団体、事業所、行政・研究機関などが連携して積極的に取り組むことが必要です。

住民のひとり一人が、次の基本理念を共有し、地域の自然環境の保全と再生、豊かな環境づくりを意識し、参加・協力することが大切です。

2 計画の基本理念

ラムサール条約でうたわれている3つの目的に沿って、濤沸湖と周辺地域の保全と活用計画の理念を次のように設定します。尚、ここで言う自然環境とは、主に湿地と周辺域を指します。

(1) 自然環境の保全と再生

豊かな自然環境、多様な生態系を大切な資源として保全し、次世代に継承します。美しい自然環境を後世に残し、現在、脅かされている自然環境の再生、復元を図り、貴重種をはじめ、動植物の生息地を守ります。

(2) 自然環境の交流と学習

自然資源や動植物に関する情報を集約し、**住民、団体、事業所、行政・研究機関**などと共通認識を深めるなど、交流を進めます。また湿地保全に対する意識啓発を多面的に行うため、教育機関などと連携した環境学習の促進、水鳥・湿地センターなど自然とふれあえる場の整備を行い、交流と学習の拠点とします。

(3) 自然環境の賢明な利用

自然環境の恵みと賢明な利用方法を確認し、住民生活や産業活動との調和を進めて、自然環境を継続的に活用します。

II 計画の目標と位置づけ

1 計画の未来像（全体目標）

濤沸湖と周辺地域の自然は、保全・再生とともに、人が交流する空間づくりや賢明な利用を進めて、次世代に継承します。

住民、団体、事業所、行政・研究機関などが連携して自然の保護と賢明な利用を図り、「人と自然が共生するまち」をめざします。

2 分野別の未来像（目標・展開方向）

計画の目標や展開方向を設定するにあたっては、住民会議や策定委員会での意見、特性、課題などを踏まえて、自然、生物、社会、行動の各分野について検討を行いました。以下に分野毎の課題、未来像、展開方向について概要を記します。

（1）自然分野

自然の分野では、景観、地形、地質、湖沼、水質、河川などを取り上げていきます。

【課題】自然景観の保全、汽水湖の維持、漂砂による堆積、湖の水質と底質の保全、水環境のモニタリング、河川等の適正な管理

＜未来像（目標）＞

美しい景観を形成している自然環境と多様な生態系を大切な資源として保全し、次世代に継承します。

また、自然環境に親しむ取り組みを進めるほか、汽水湖の維持を図るため、水源地の確保や自然と調和した川づくりなどを進めます。

《展開方向》

- ◆重要な自然景観資源の保全と再生
- ◆農山漁村景観の保全と活用
- ◆自然景観に対する意識向上と啓発
- ◆汽水湖の地形維持
- ◆汽水湖の水環境の保全
- ◆周辺環境に配慮した水環境の確保

（2）生物分野

生物の分野では、植物、哺乳類、鳥類、昆虫類、魚貝類などを取り上げていきます。

【課題】湖畔の緩衝帯の保全、原生花園の植生保全、淡水魚の生息環境の保全、自然生物情報の集積と発信、ゾーニングの検討、ふれあい環境の整備、既存施設の改善、観察施設とアクセスの整備、交流拠点の整備

＜未来像（目標）＞

地域の貴重な自然環境と生態系を調査し、動植物と生息地の保護と再生を図ります。

また、地域の核となる拠点施設の整備や多様なふれあい空間を創出し、住民、団体、事業所、行政・研究機関などが自然保護への共通認識を深めるなど、連携と交流を進めます。

《展開方向》

- ◆地域の核となる拠点施設の整備
- ◆多様な観察施設とアクセスの整備
- ◆重要な緩衝帯の保全
- ◆湖の生態系の保全
- ◆情報の収集と発信

(3) 社会分野

社会の分野では、交通、観光、産業、浅化、文化財などを取り上げていきます。

【課題】 周辺景観の保全、遺跡・史跡の調査・保全、浅化状況データの必要性、土砂流出対策、漂流ごみの対策、その他のごみの対策、地場産品の地域ブランド化、公共交通アクセスの充実、レクリエーション機能の充実

<未来像(目標)>

自然環境の恵みと賢明な利用方法を確認し、自然と調和した景観づくりと交通アクセス、環境共生型の産業活動を進めて、自然環境を継続的に活用します。
また、地域ブランドによる特産品や自然体験メニューの充実による観光振興などを進め、ごみのない湖畔環境と史跡などの保全を進めます。

《展開方向》

- ◆自然と調和する景観づくり
- ◆公共交通基盤の整備
- ◆自然体験メニューの充実
- ◆環境に配慮した産業振興
- ◆河川流域からの土砂流出抑制
- ◆ごみのない環境の実現
- ◆地域ブランドによる観光振興
- ◆歴史的文化財の保全

(4) 行動分野

行動の分野では、パートナーシップ、支援、啓発、普及などを取り上げていきます。

【課題】 住民・産業活動の取り組みと支援、啓発と普及

<未来像(目標)>

多様な主体による環境保全ネットワークを形成し、湿原保全の意識啓発を多面的に行うため、教育機関などと連携した環境学習の促進、水鳥・湿地センターなど自然とふれあえる場の提供を行い、交流と学習を進めます。

《展開方向》

- ◆環境保全のパートナーシップの形成
- ◆地球温暖化対策への貢献
- ◆湿原保全意識の啓発
- ◆多様な環境学習の推進

3 計画の基本的事項

(1) 計画期間

本計画の計画期間は平成 23 年から概ね 10 年間とします。

(2) 計画の位置づけ

本計画は、ラムサール条約に基づき、水鳥をはじめとした広義での自然環境の保全と再生、活用と創造に関する長期的目標の基本的な方向を示すものです。

具体的には環境保全と賢明な利用、交流と学習の理念に基づき濤沸湖と周辺地域をめぐる環境課題を解決するための分野別未来像(展開方向)と取り組みを示すものです。課題や未来像に関しては、(1)自然分野、(2)生物分野、(3)社会分野、(4)行動分野(各種活動)の4つの視点ごとに分類し、取り組みを進めます。

Ⅲ 計画の理念と未来像の体系



3章 計画の分野ごとの施策と手法

I 自然分野

1 重要な自然景観資源の保全と再生

濤沸湖周辺から眺望する景観は優れており、重要な景観を形成している湖畔林や草花類などが損なわれぬよう保全が必要です。また、原生花園や流水で知られる、美しい砂州の海岸線なども保全して景観資源の維持に努めます。そのためには保全すべき資源（植生等）の調査を行い、景観スポットの整備（アクセス）を施し、重要な資源はトラスト運動などの方策を検討していきます。

2 農山漁村景観の保全と活用

濤沸湖周辺の防風林や自然地形なりに展開された農地は、周辺の森と湖に調和して美しい農村景観を形成しています。原生花園や流水が接岸する海浜とも調和する漁村景観の保全と活用を図っていきます。そのためには畑や放牧地など、営農環境の維持と保全に努めるとともに、環境配慮型農業を推進していきます。

3 自然景観に対する意識向上と啓発

住民活動を継続させていくためには、景観と緑に対する関心を高め、意識の向上を図ることが大切です。そのためには多様なイベントが開催され、ボランティアなどの人材育成と教育などの普及に努めていきます。

4 汽水湖の地形維持

濤沸湖の特徴は汽水湖特有の生物種の多様性や豊かな漁業資源などですが、湖の浅化に伴って発生する水質や魚類の生息環境の悪化を引き起こさないためにも、底質など地形変化の調査や漂砂等による堆積の防止を図り、湖の地形を維持することが重要です。そのためには堆積状況と原因の継続的調査を行い、土砂の浚渫の実施や湖口の形状変更などを検討していきます。

5 汽水湖の水環境の保全

水環境は、水生植物や底生生物の健全な繁殖に影響するため、湖の水質を調査するとともに、湖や河川に流出する生活排水や農業排水等、汚濁・汚染物質を防ぐ必要があります。

また、近年、濤沸湖の浅化に伴い湖水の塩分濃度が高まり、改善を要すると言われています。水位や流量などの経年変化を把握するほか、河畔の植生を含めた水環境の保全を推進していきます。

6 周辺環境に配慮した水環境の確保

地域での健全な水循環を確保するには、海から湖、河川、森林等との水環境や生態的繋がりが確保されている必要があります。しかし現状では、落差工の設置により魚類の遡上が困難な箇所があり、上流に設けられた頭首工では、かんがい用の取水が行われています。今後は、河川流域における河川の水源地の保全や自然と調和した川づくりに努めていきます。

表 自然分野における環境保全活用計画の施策体系

未来像 (展開方向)	取り組み (施策案)	保全と再生	交流と学習	賢明な利用	手法 (事例)	住民・住民団体	民間企業・事業所	行政・研究機関
(1)重要な自然景観資源の保全と再生	①自然景観資源調査の実施	○	○		<input type="checkbox"/> 各種自然(地形、地質、水質、景観要素等)調査の実施	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 景観計画区域の指定の検討	○	○	○
	②確保すべき土地の管理	○	○	○	<input type="checkbox"/> トラスト(里親)制度の推進と適正な管理	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 植生等の保護管理	○		○
	③保全すべき生態の保全と再生	○	○	○	<input type="checkbox"/> 塩湿性植物の保全と再生	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 森林や防風林などの整備と管理	○	○	○
(2)農山漁村景観の保全と活用	①農山漁村景観の保全	○	○	○	<input type="checkbox"/> 畑や放牧地など農村景観の保全	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 環境配慮型農業の推進	○	○	○
(3)自然景観に対する意識向上と啓発	①景観意識の向上に向けたイベントの開催		○	○	<input type="checkbox"/> 各種イベントの実施による啓発と普及	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 自然景観に親しむ環境教育の推進	○	○	
(4)汽水湖の地形維持	①浅化の調査と防止策の検討	○	○	○	<input type="checkbox"/> 堆積状況と原因の継続的調査	○	○	○
		○	○	○	<input type="checkbox"/> 湖口の最適形状の検討と堆積土砂対策の実施		○	○
(5)汽水湖の水環境の保全	①水環境の継続的なモニタリングの実施	○	○	○	<input type="checkbox"/> 湖内水質調査の実施		○	○
	②湖の汚濁防止対策の実施	○	○	○	<input type="checkbox"/> 近隣工場からの排水の水質調査		○	
	③住民、研究機関と連携した監視	○	○	○	<input type="checkbox"/> 多様な主体による監視活動の実施	○	○	○
	④流入河川沿いにおける植生保全の実施	○	○	○	<input type="checkbox"/> 河畔林の植生とヨシ原の保全	○	○	
	⑤流入河川の水質調査と改善	○	○	○	<input type="checkbox"/> 河川の水質環境基準調査の実施			○
(6)周辺環境に配慮した水環境の確保	①水源地の保全と安全で良質な水の確保	○	○	○	<input type="checkbox"/> 水源地周辺における針広混交林化の推進	○	○	○
	②自然と調和した川づくりの推進	○	○	○	<input type="checkbox"/> 河川の環境保全に配慮した整備方法の検討	○	○	○

II 生物分野

1 地域の核となる拠点施設の整備

自然環境を調査研究し、動植物とふれあい、地域の人々が交流し活動する場を湖の周辺に確保する必要があります。濤沸湖のイメージにふさわしい拠点施設の配置・整備を要望し、動植物の現況調査や観察ルートを検討していきます。

また、環境教育の実践と普及のための人材育成の向上に努めていきます。

2 多様な観察施設とアクセスの整備

種類が豊富な鳥類などの野生生物を調査や動植物を観察できる、木道などの観察路の整備が望まれている一方、野鳥などとの過度な接触を防ぐことも必要であり、適正な観察空間検討に努めていきます。

3 重要な緩衝帯の保全

湖畔の緩衝帯は湖と陸との移行部として、生態的にも水質浄化など重要なゾーンであると考えられます。湖畔エリアの現況調査を行うとともに、専門家や研究機関と連携し、その機能の保全や外来種の除去に向けた手法を検討していきます。

4 湖の生態系の保全

湖と周辺域の豊富で健全な生態系を保全することが望まれています。生態の現況を継続的に調査するとともに、生態系の保全と再生へ住民参加を促していきます。

5 情報の収集と発信

交流拠点においては野生生物分野に関する情報の集約と発信が行われるようにします。そのためには、動植物の継続的な調査や環境学習の成果などをとりまとめ、公表できる体制づくりを行っていきます。

表 生物分野における環境保全活用計画の施策体系

未来像 (展開方向)	取り組み (施策案)	保全と再生	交流と学習	賢明な利用	手法 (事例)	住民・ 住民 団体	民間 企業・事 業所	行政・ 研究 機関	
(1)地域の核となる 拠点施設の整備	①観察施設の要望	○	○	○	<input type="checkbox"/> 観察施設の目的、整備概要、 運営体制などの検討	○	○	○	
	②水鳥・湿地センタ ーの整備	○	○	○	<input type="checkbox"/> 水鳥・湿地センターの整備と 運営	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 運営に対する協力と支援	○	○	○	
	③人材の配置と養成	○	○	○	<input type="checkbox"/> 専門員、ボランティアガイド の育成	○		○	
					<input type="checkbox"/> 環境教育の実施	○	○	○	
	(2)多様な観察施設 とアクセスの整備	①自然環境調査の実 施	○	○		<input type="checkbox"/> 多様な主体による自然環境調 査の実施	○	○	○
②木道や小屋など、 多様な観察施設の 整備			○	○	<input type="checkbox"/> 観察しやすい空間の整備	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 既存施設の整備改善	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 施設を利用した各種観察会 の実施と交流の推進	○	○	○	
③ふれあい施設の環 境衛生と安全の確 保		○	○	○	<input type="checkbox"/> 餌付けの方法などの検討	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 洗い場など衛生設備の確保	○	○	○	
	<input type="checkbox"/> 専門家による指導体制の構築				○	○	○		
(3)重要な緩衝帯の 保全	①緩衝帯保全への取 り組み	○	○	○	<input type="checkbox"/> 指定区域の見直しとゾーニン グの検討	○	○		
					<input type="checkbox"/> 専門家による緩衝帯の調査	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 植生・植林活動の実施と緩衝 帯の適正管理	○	○	○	
	②在来植生の保全と 再生	○	○			<input type="checkbox"/> 外来種を除去し在来植生の保 全と再生	○	○	○
						<input type="checkbox"/> 野焼きなど保全と再生への参 加	○	○	○
						<input type="checkbox"/> 保全・再生計画づくりの検討	○	○	○
<input type="checkbox"/> 専門家・研究機関による再生 手法の検討						○	○	○	
(4)湖の生態系の保 全	①湖の生態系調査の 実施と対策	○	○	○	<input type="checkbox"/> 湖の生態調査	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 保全と再生への協力と参加	○	○	○	
(5)情報の収集と発 信	①多様な情報の体制 づくり		○	○	<input type="checkbox"/> 情報の体制づくりへの参加と 協力	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 各分野の専門家の招聘および 解析	○	○	○	

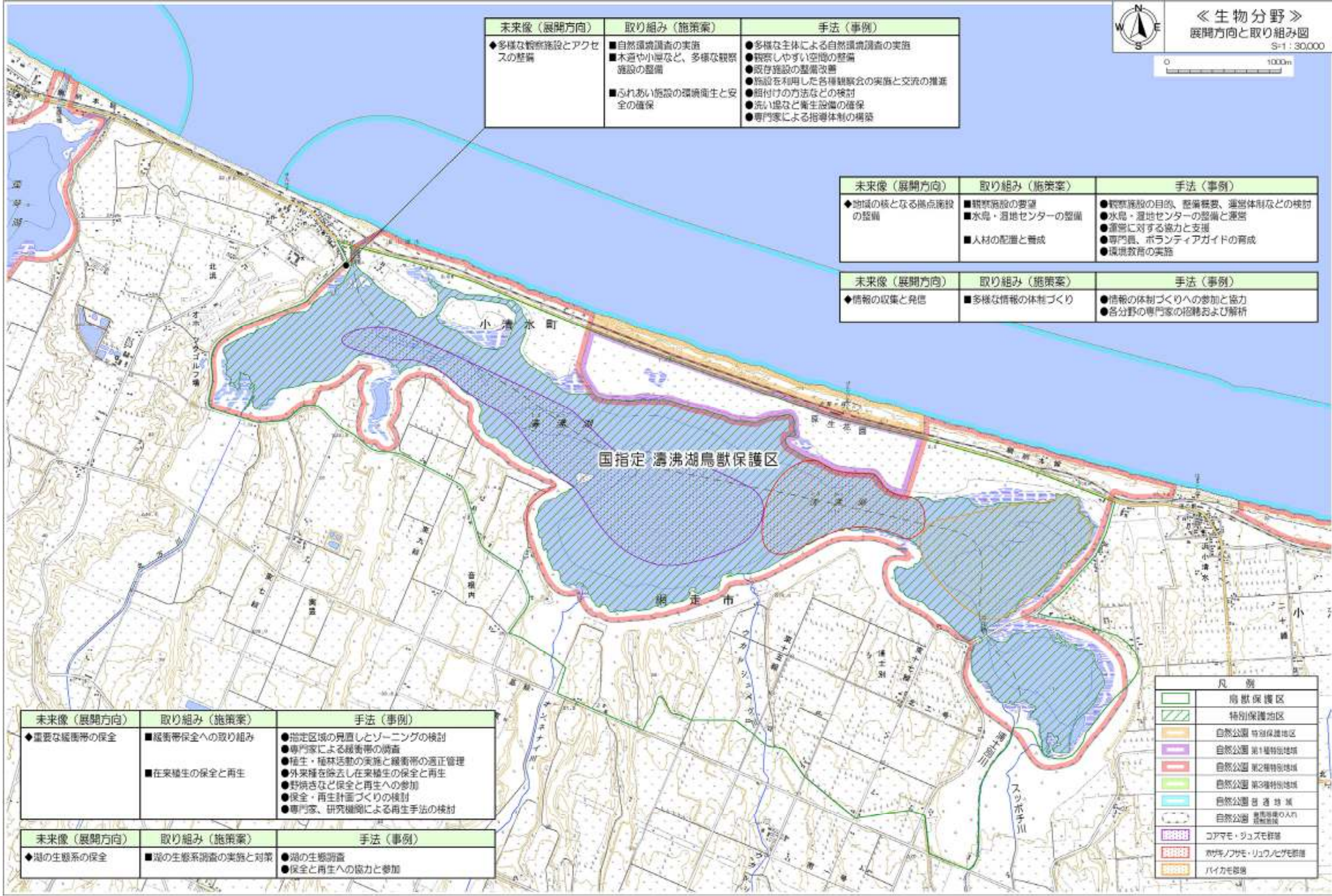


《生物分野》
展開方向と取り組み図
S-1 : 30,000

未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）
◆多様な観察施設とアクセスの整備	■自然環境調査の実施 ■木道や小径など、多様な観察施設の整備 ■ふれあい施設の環境衛生と安全の確保	●多様な主体による自然環境調査の実施 ●観察しやすい空間の整備 ●既存施設の整備改善 ●施設を利用した各種観察会の実施と交流の推進 ●組付けの方法などの検討 ●洗い場など衛生設備の確保 ●専門家による指導体制の構築

未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）
◆地域の核となる拠点施設の整備	■観察施設の整備 ■水鳥・湿地センターの整備 ■人材の配置と養成	●観察施設の目的、整備概要、運営体制などの検討 ●水鳥・湿地センターの整備と運営 ●運営に対する協力と支援 ●専門員、ボランティアガイドの育成 ●環境教育の実施

未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）
◆情報の収集と発信	■多様な情報の体制づくり	●情報の体制づくりへの参加と協力 ●各分野の専門家の招聘および解析



国指定 湯沸湖鳥獣保護区

未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）
◆重要な緩衝帯の保全	■緩衝帯保全への取り組み ■在来植生の保全と再生	●指定区域の見直しとゾーニングの検討 ●専門家による緩衝帯の調査 ●植生・植林活動の実施と緩衝帯の適正管理 ●外来種を除去し在来植生の保全と再生 ●野焼きなど保全と再生への参加 ●保全・再生計画づくりの検討 ●専門家、研究機関による再生手法の検討

未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）
◆湖の生態系の保全	■湖の生態系調査の実施と対策	●湖の生態調査 ●保全と再生への協力と参加

凡例	
	鳥獣保護区
	特別保護地区
	自然公園 特別保護地区
	自然公園 第1種特別地域
	自然公園 第2種特別地域
	自然公園 第3種特別地域
	自然公園 普通地域
	自然公園 管理区域の人の活動区域
	コアモモ・ジュズモ群植
	ボクノフサモ・リュウノヒゲモ群植
	ハイカモ群植

III 社会分野

1 自然と調和する景観づくり

湖と周辺域では、自然公園法の規制を遵守するほか、建物、看板等の人工物と周囲の自然との調和を図ります。

2 公共交通基盤の整備

濤沸湖周辺には、海岸線沿いに JR 釧網本線および国道 244 号が走っており、自家用車に頼りがちな傾向が見られるため、専用レーンの確保による自転車利用やバスなどの公共交通網の整備と多様な交通手段により、多くの人々が濤沸湖を訪れることができるように検討していきます。

また、拠点施設などでは、駐輪場や駐車場を確保するほか、トイレの通年開放を検討します。

3 自然体験メニューの充実

濤沸湖と周辺域において、四季にわたり様々な自然体験が可能となるよう、自然体験メニューを調査し、活用方法を検討します。

また、自然体験メニューを発信するほか、環境学習のための施設整備や親水性に配慮した河川整備などを行い、観光客が自然と気軽にふれあえる場所を提供し、滞在・体験型のグリーンツーリズムの促進について、検討していきます。

4 環境に配慮した産業振興

〔漁業〕

濤沸湖において、ワカサギの採卵、カキなどの養殖、スジエビの採捕などの水産資源の持続的な利用を図るため、適正な個体数の調査や増殖手法の検討を行い、漁場の環境保全と地場産魚介類の安定供給に努めます。また、漁業者、釣り愛好家の双方が漁場を利用するための施設整備を検討し、地場水産物のブランド化に向けた水産物加工研究や消費拡大の活動を支援します。

〔農業〕

後背地域での農業は、小麦、馬鈴しょ、てん菜を基幹作物とした大規模畑作経営や、牛と豚を飼養する酪農畜産経営が行われています。家畜排せつ物や農業生産により排出されるプラスチック類を適正に処理するとともに、堆肥を活用した土づくり、農薬の使用を低減する「環境保全型農業」をめざします。また、産地や農産物のブランド化の取り組みや地場産品を活用した加工製品開発に対する支援、農産物の高付加価値化を進めます。

〔林業〕

後背地域の民有林では、森林組合等による間伐や植林などの森林施策が行われており、民有林所有者に対して森林の生態系を保全する啓発が求められています。また、森林の持つ多面的な機能を確保し、住民の理解を促進するため、植樹祭の開催、緑化活動の推進、森とふれあえる空間づくりなどを進めます。

〔開発行為〕

農地開発や林地開発等の開発行為が土砂流出を誘発し、環境への悪影響が懸念されています。開発行為の確認体制を充実させるとともに、環境に配慮した開発行為の普及促進に努めます。

〔生活排水対策〕

家庭や事業所からの排水処理の適正化を図ることが求められるため、家庭からの生活排水は合併浄化槽を導入することにより、発生源による水質の悪化防止に努めます。

5 河川流域からの土砂流出抑制

河川流域から土砂が流出し、河川を經由して湖に流入することにより浅化の促進が懸念されています。土砂の発生源調査を行うとともに、土砂流入状況の監視、土砂流出を抑制する森林の整備と保全、耕地からの表土流出抑制、河川における土砂の除去など、流域での発生源対策と流出対策の取り組みを検討していきます。

6 ごみのない環境の実現

湖や海岸では漂流ごみ、不法投棄のごみが増加し、環境や景観への悪影響が懸念されています。漂流ごみについては、ボランティア活動などを通して海岸や湖岸の清掃活動を行うとともに、効率的な搬出方法を検討していきます。

不法投棄のごみなどは、地域住民ばかりでなく観光客に対してもごみの減量化や持ち帰りの啓発に努め、ごみのない美しい環境を実現します。

7 地域ブランドによる観光振興

地産地消を推進するため、観光客などが地場産品を味わえるような機会を増やすとともに、地場産品を活用した名物料理や特産品の開発を行い、高付加価値の地域ブランド商品として販売するなど、産業と観光の一体的な振興の推進について検討します。

8 歴史的文化財の保全

湖周辺にある遺跡や史跡など調査し、専門家や住民を交えて、地域と文化財の一体的かつ効果的な保全と活用策を検討します。

表 社会分野における環境保全活用計画の施策体系 - 1

未来像 (展開方向)	取り組み (施策案)	保全と再生	交流と学習	賢明な利用	手法 (事例)	住民・ 住民 団体	民間 企業・事 業所	行政 ・ 研究 機関						
(1)自然と調和する 景観づくり	①自然と調和の取れた施設整備	○		○	<input type="checkbox"/> 公共施設などの緑化と景観改善	○	○	○						
(2)公共交通基盤の 整備	①交通手段の多様化		○	○	<input type="checkbox"/> 交通体系や既存施設の改善		○	○						
(3)自然体験メニューの 充実	①親水空間体験や滞在を楽しむ観光の 推進	○	○	○	<input type="checkbox"/> 道内のイベント調査と場所確保	○	○	○						
					<input type="checkbox"/> 親水と環境に配慮した河川整備	○	○	○						
(4)環境に配慮 した産業振 興	①資源管理型漁業の 推進	○	○	○	<input type="checkbox"/> 関係機関による資源動態調査の実施		○	○						
					<input type="checkbox"/> 資源評価手法の開発		○	○						
					<input type="checkbox"/> 資源の維持安定対策の検討		○	○						
	②つくり育てる漁業 の推進	○	○	○	<input type="checkbox"/> ホタテ、サケ、マス、ニシン等の増殖手法の検討		○	○						
					<input type="checkbox"/> 漁場環境保全の啓発普及と勉強会の実施		○	○						
	③漁場環境の保全と 多面的利用	○	○	○	<input type="checkbox"/> 地産地消の推進による地域内消費の拡大		○	○						
					<input type="checkbox"/> 水産物の高次加工の研究、研修に対する支援		○	○						
	④水産物の高付加価値化			○	○	<input type="checkbox"/> 家畜ふん尿管理施設の整備		○	○					
						②廃プラスチックの 適正処理	○		○	<input type="checkbox"/> 収集運搬体制構築による不法投棄の防止		○	○	
										<input type="checkbox"/> 廃プラスチックの再資源化と適正処理方法の検討		○	○	
						③環境保全型農業の 実践	○		○	○	<input type="checkbox"/> 耕畜連携の推進		○	○
											<input type="checkbox"/> 環境配慮型農業の推進		○	○
											<input type="checkbox"/> クリーン農業の取り組みと減農薬や有機栽培の推進		○	○
						<input type="checkbox"/> 環境保全型農業への支援		○	○					
④農産物の高付加価値化			○	○	<input type="checkbox"/> 産地や農産物のブランド化の取り組みと支援		○	○						
					<input type="checkbox"/> 地場産品を活用した加工製品開発に対する支援		○	○						

表 社会分野における環境保全活用計画の施策体系 - 2

未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	保全と再生	交流と学習	賢明な利用	手法（事例）	住民・住民団体	民間企業・事業所	行政・研究機関	
(4)環境に配慮した産業振興	林業	①環境と調和の取れた森林施業	○	○	<input type="checkbox"/> 森林の生態系を保全する鳥獣被害防止策の検討		○	○	
					<input type="checkbox"/> 民有林所有者に対しての環境保全の啓発		○	○	
	林業	②木育の推進	○	○	○	<input type="checkbox"/> 植樹祭の開催と緑化活動の推進	○	○	○
						<input type="checkbox"/> 住民が気軽に森とふれあえる森林空間の創出	○	○	○
	開発行為	①環境に配慮した開発行為	○		○	<input type="checkbox"/> 環境配慮型開発行為の普及促進		○	○
						<input type="checkbox"/> 開発行為の確認体制の充実			○
	生活排水対策	①環境に配慮した排水対策	○		○	<input type="checkbox"/> 事業所からの排水処理の適正化		○	○
						<input type="checkbox"/> 合併浄化槽の導入など生活排水浄化対策の実施	○		○
(5)河川流域からの土砂流出抑制	①流下土砂調査と抑制対策の検討	○	○	○	<input type="checkbox"/> 土砂の発生源の調査と流出抑制対策	○		○	
					<input type="checkbox"/> 河川における土砂の除去		○	○	
(6)ごみのない環境の実現	①ごみ問題の啓発と減量対策の推進	○	○		<input type="checkbox"/> 環境美化活動の推進と支援	○	○	○	
(7)地域ブランドによる観光振興	①地産地消の推進と啓発		○	○	<input type="checkbox"/> 地場産品販売体制の構築	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 観光イベントの見直しと新規イベントの創出	○	○	○	
	②特産品の開発		○	○	<input type="checkbox"/> 豊富な地場食材を利用した名物料理の開発	○	○	○	
					<input type="checkbox"/> 濤沸湖の土産品として親しまれる特産品の開発	○	○	○	
(8)歴史的文化財の保全	①文化財の調査と保全対策の検討	○	○	○	<input type="checkbox"/> 専門家による文化財の調査と保全		○	○	
					<input type="checkbox"/> 協働による保全、活用策の検討	○	○	○	

IV 行動分野

1 環境保全のパートナーシップの形成

濤沸湖および周辺域の環境保全を推進していく上で、住民をはじめとする関係団体や関係機関が相互に連携する協働体制（パートナーシップ）を確立し、それぞれの立場での情報を共有し、互いに協力して保全活動ができるよう努めていきます。

2 地球温暖化対策への貢献

ラムサール条約登録湿地の濤沸湖は、オオハクチョウなどの渡り鳥の中継地として位置づけられています。

この湿地の状況をできるだけ長く保持していくためには、「日頃から私たちが環境にやさしい地球温暖化防止に向けた取り組みを実践していくことが大切である」ということの周知を図り、地球規模での環境保全の意識の向上に努めていきます。

3 湿原保全意識の啓発

水鳥や湿原に生息する動植物などは、この地域の自然の中で生態系を形成してきており、湿原の持つ役割はたいへん重要であります。この恵まれた状況を継続させていくことが私たちの使命と考え、湿原の大切さを多くの方に周知していくことに努めていきます。

4 多様な環境学習の推進

ラムサール条約登録湿地としての濤沸湖の紹介や貴重な動植物の生息などを、子供の頃から教育していくことが重要で、「水鳥・湿地センター」などの環境教育の拠点施設を整備し、地域住民や来訪者などが参加できるような環境学習の機会の提供に努めていきます。

表 行動分野における環境保全活用計画の施策体系

未来像 (展開方向)	取り組み (施策案)	保全と再生	交流と学習	賢明な利用	手法 (事例)	住民・ 住民 団体	民間 企業 ・事 業所	行政 ・ 研究 機関
(1)環境保全のパートナーシップの形成	①環境保全の多様なネットワークの形成	○	○		<input type="checkbox"/> 環境保全に関する情報などの集積と公開	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 環境保全型産業の取り組みと支援	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 環境保護活動団体の育成	○	○	○
					<input type="checkbox"/> ボランティアやガイドの養成と活動の充実化	○		○
					<input type="checkbox"/> 住民、NPO、企業、研究機関と連携した環境保全活動	○	○	○
(2)地球温暖化対策への貢献	①地球温暖化防止の取り組み	○	○		<input type="checkbox"/> 地球環境対策への意識の向上と実践	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 地球温暖化防止リーフレットの作成と配布	○	○	○
(3)湿原保全意識の啓発	①湿原の価値の認識と啓発	○	○	○	<input type="checkbox"/> 湿原に関する情報の収集と公開	○	○	○
					<input type="checkbox"/> 湿原の生態を体感できるカリキュラムの実施	○		○
					<input type="checkbox"/> ラムサール湿地市町村などとの連携	○	○	○
(4)多様な環境学習の推進	①環境学習機会の場の創出	○	○	○	<input type="checkbox"/> 環境学習機会やレクリエーションの場の提供	○		○
					<input type="checkbox"/> 水鳥・湿地センターなどの拠点施設整備と管理運営体制の確立	○		○

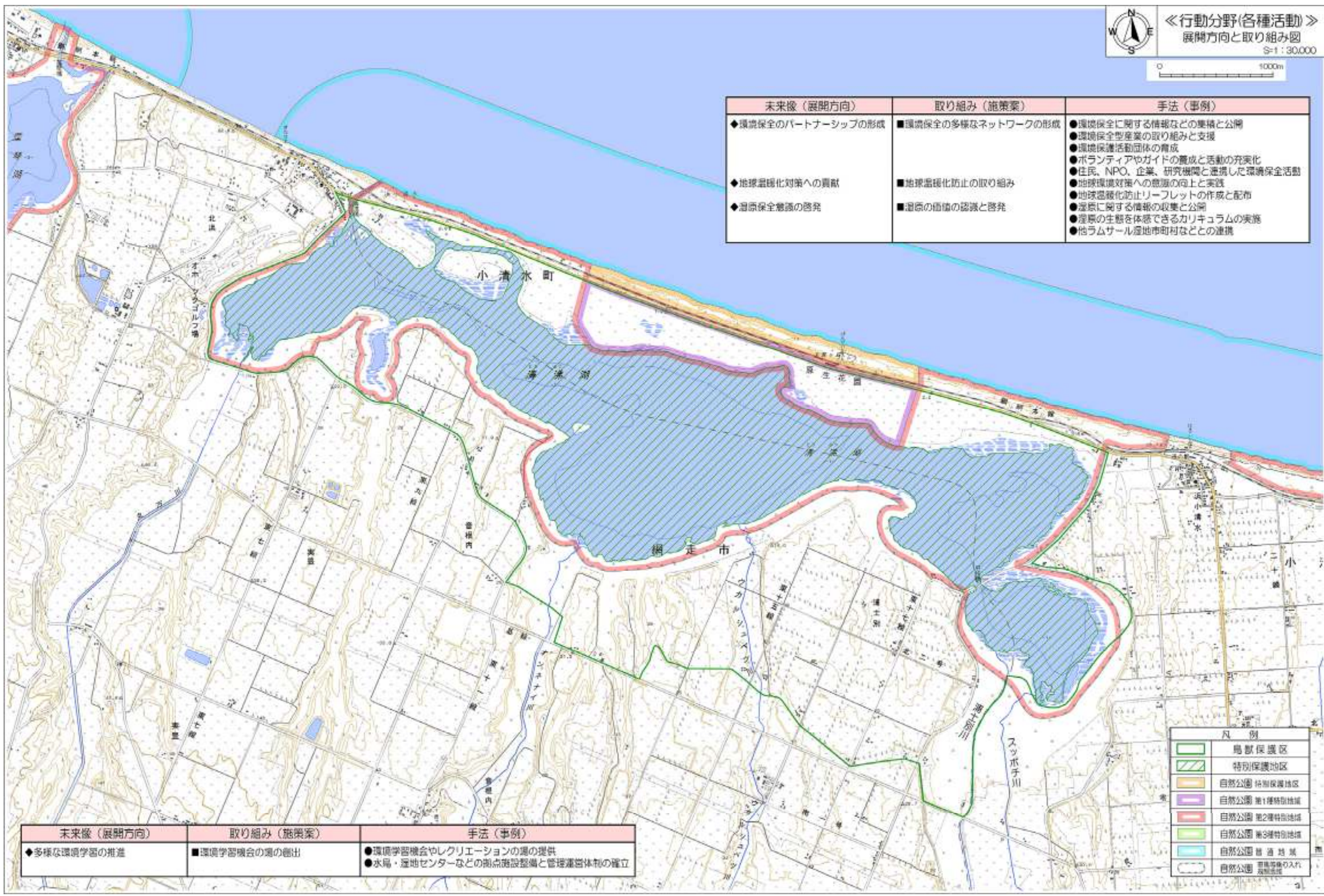


《行動分野(各種活動)》
展開方向と取り組み図

S-1 : 30,000



未来像(展開方向)	取り組み(施策案)	手法(事例)
<ul style="list-style-type: none"> ◆環境保全のパートナーシップの形成 ◆地球温暖化対策への貢献 ◆湿原保全意識の啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ■環境保全の多様なネットワークの形成 ■地球温暖化防止の取り組み ■湿原の価値の認識と啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境保全に関する情報などの集積と公開 ●環境保全型産業の取り組みと支援 ●環境保護活動団体の育成 ●ボランティアやガイドの養成と活動の充実化 ●住民、NPO、企業、研究機関と連携した環境保全活動 ●地球温暖化対策への意識の向上と実践 ●地球温暖化防止リーフレットの作成と配布 ●湿原に関する情報の収集と公開 ●湿原の生態を体感できるカリキュラムの実施 ●他ラムサール湿地市町村などの連携



未来像(展開方向)	取り組み(施策案)	手法(事例)
<ul style="list-style-type: none"> ◆多様な環境学習の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ■環境学習機会の場の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ●環境学習機会やレクリエーションの場の提供 ●水局・湿地センターなどの拠点施設整備と管理運営体制の確立

凡例

	鳥獣保護区
	特別保護地区
	自然公園 特別保護地区
	自然公園 第1種特別地域
	自然公園 第2種特別地域
	自然公園 第3種特別地域
	自然公園 普通地域
	自然公園 管理区域の入れ 及調整区域

V 重点的に取り組むべき施策

本計画では、施策体系表に示した施策のうち、「自然」、「生物」、「社会」、「行動」それぞれの分野について、以下の施策を重点施策として位置づけ、取り組んでいきます。

1 自然分野の重点施策

(1) 重要な自然景観資源の保全と再生

- ① 確保すべき土地の管理
- ② 保全すべき生態の保全と再生

(2) 汽水湖の地形維持

- ① 浅化の調査と防止策の検討

(3) 汽水湖の水環境の保全

- ① 水環境の継続的なモニタリングの実施
- ② 住民、研究機関と連携した監視

(4) 周辺環境に配慮した水環境の確保

- ① 自然と調和した川づくりの推進

2 生物分野の重点施策

(1) 地域の核となる拠点施設の整備

- ① 観察施設の要望

(2) 多様な観察施設とアクセスの整備

- ① 自然環境調査の実施
- ② 木道や小屋など、多様な観察施設の整備

(3) 重要な緩衝帯の保全

- ① 緩衝帯保全への取り組み

(4) 湖の生態系の保全

- ① 湖の生態系調査の実施と対策

(5) 情報の収集と発信

- ① 多様な情報の体制づくり

3 社会分野の重点施策

(1) 自然体験メニューの充実

- ① 親水空間体験や滞在を楽しむ観光の推進

(2) 環境に配慮した産業振興

- ① 資源管理型漁業の推進
- ② 環境保全型農業の実践
- ③ 環境に配慮した開発行為

(3) 河川流域からの土砂流出抑制

- ① 流下土砂調査と抑制対策の検討

(4) ごみのない環境の実現

- ① ごみ問題の啓発と減量対策の推進

(5) 地域ブランドによる観光振興

- ① 特産品の開発

4 行動分野の重点施策

(1) 環境保全のパートナーシップの形成

- ① 環境保全の多様なネットワークの形成

(2) 湿原保全意識の啓発

- ① 湿原の価値の認識と啓発

(3) 多様な環境学習の推進

- ① 環境学習機会の場の創出

VI 計画の進め方

本計画の取り組みや活動を効果的に推進していくため、以下の点に留意します。

1 推進の担い手

計画は、住民のひとり一人が基本理念と未来像を共有し、計画策定時と同様、担い手として住民や事業者、大学などの教育機関、地域の有識者などとの協働（パートナーシップ）により進めることが重要です。

取り組みは、現在の『濤沸湖環境保全推進協議会（以下「協議会」）』を中心に、様々な立場の関係者と連携して進めるほか、各分野からの積極的な活動を促進するため、取り組み情報の公開や発信などを進めて、誰もが気軽に参画できる環境を整えます。

2 計画の進行管理

計画の進行状況を管理するため、協議会などを活用するほか、必要に応じて庁内部局を設けます。

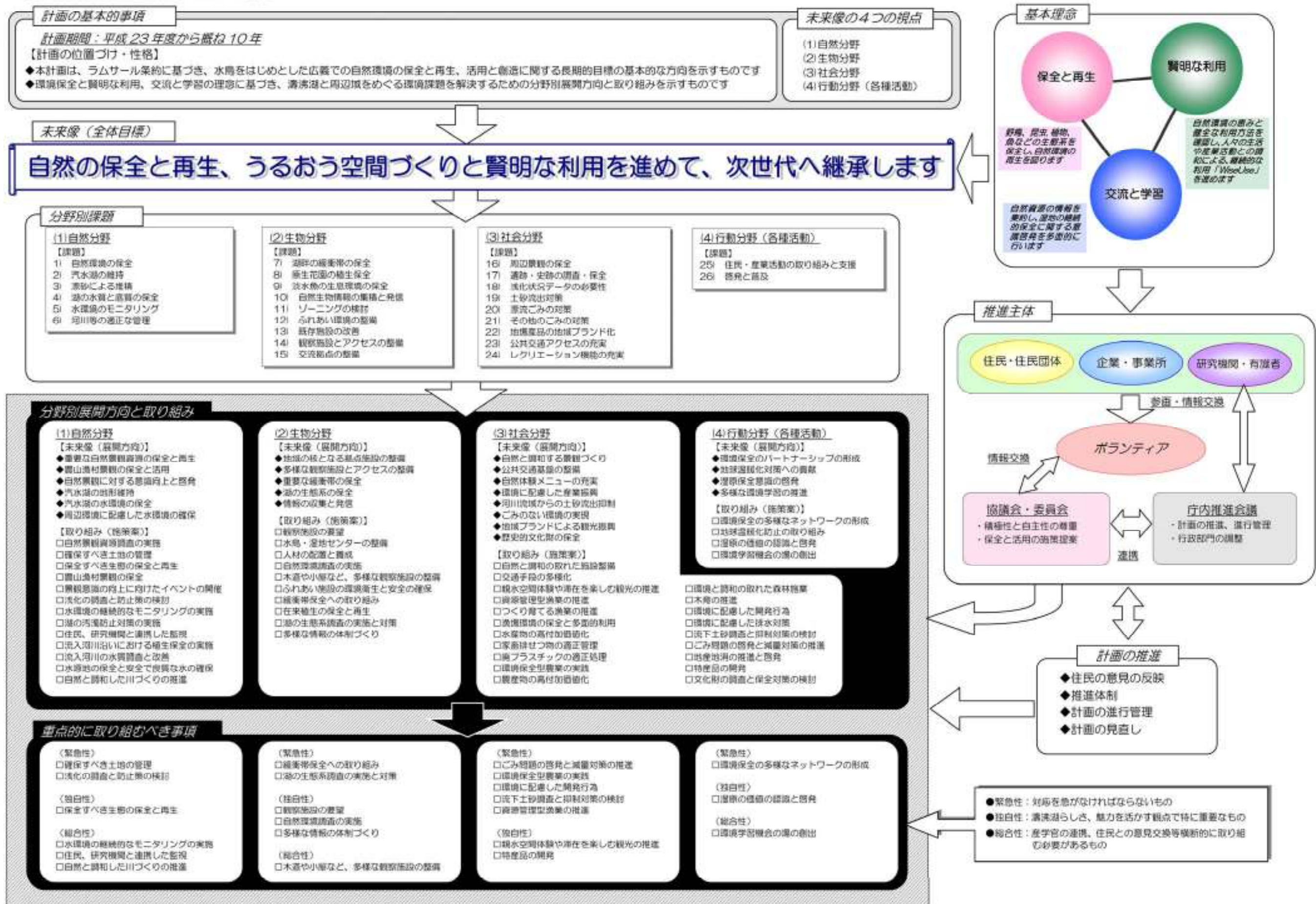
また、協議会を中心に、必要な協議や情報交換を行う場を設けるなど、推進体制を整えます。

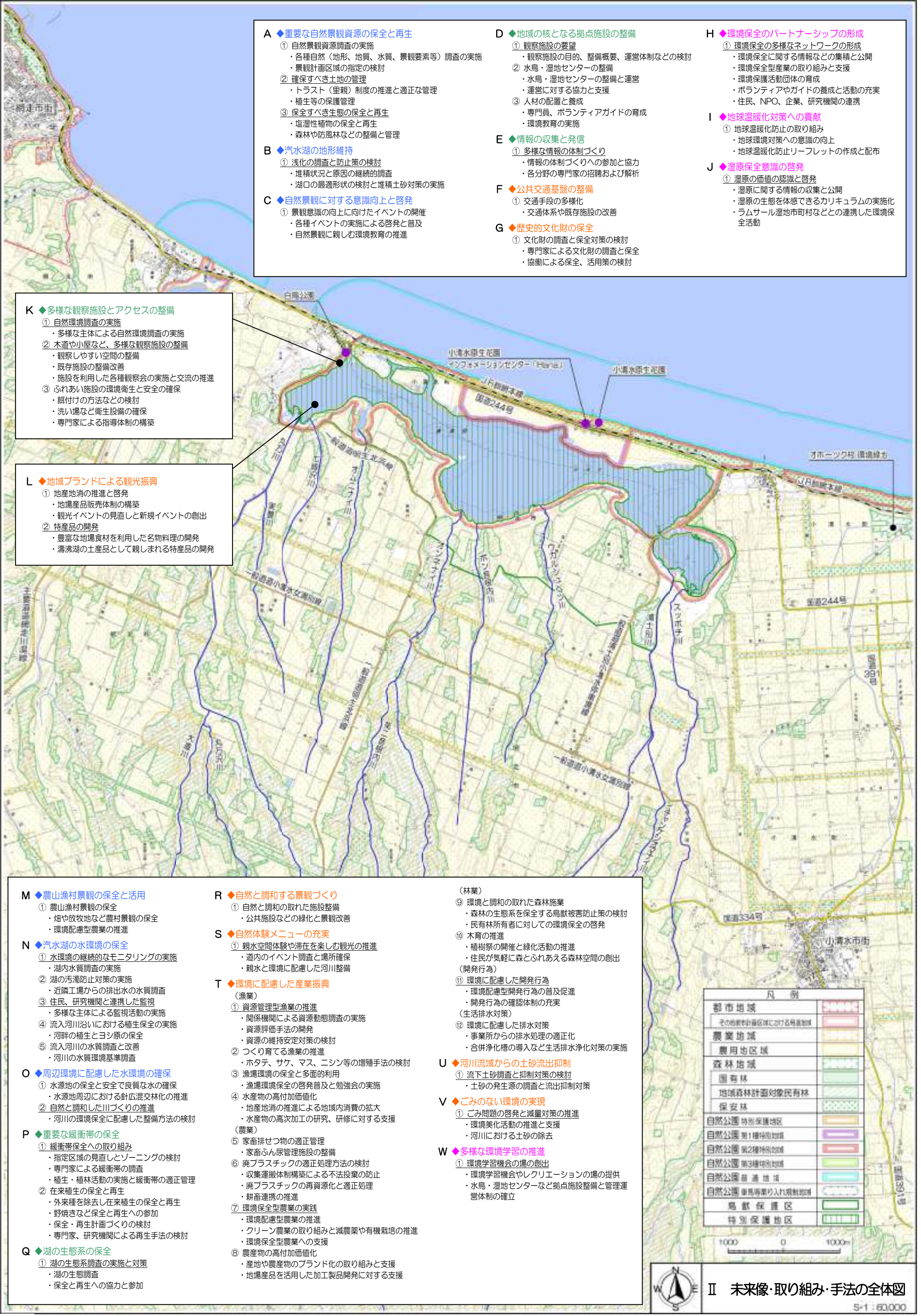
特に、取り組みの重要な原動力として期待できるボランティア活動を促進するほか、NPO などへの組織化など、取り組みに参画しやすい体制づくりを支援します。

4章 計画の施策体系と取り組み

I 取り組み方針の全体体系

清沸湖環境保全活用ビジョンの概要





- A ◆重要な自然景観資源の保全と再生**
 - ① 自然景観資源調査の実施
 - ・各種自然（地形、地質、水質、景観要素等）調査の実施
 - ・景観計画区域の指定の検討
 - ② 確保すべき土地の管理
 - ・トラスト（里親）制度の推進と適正な管理
 - ・植生等の保護管理
 - ③ 保全すべき生態系の保全と再生
 - ・塩湿性植物の保全と再生
 - ・森林や防風林などの整備と管理
- B ◆汽水湖の地形維持**
 - ① 浅化の調査と防止策の検討
 - ・堆積状況と原因の継続的調査
 - ・湖口の最適形状の検討と堆積土砂対策の実施
- C ◆自然景観に対する意識向上と啓発**
 - ① 景観意識の向上に向けたイベントの開催
 - ・各種イベントの実施による啓発と普及
 - ・自然景観に親しむ環境教育の推進
- D ◆地域の核となる拠点施設の整備**
 - ① 観察施設の要望
 - ・観察施設の目的、整備概要、運営体制などの検討
 - ② 水鳥・湿地センターの整備
 - ・水鳥・湿地センターの整備と運営
 - ・運営に対する協力と支援
 - ③ 人材の配置と養成
 - ・専門員、ボランティアガイドの育成
 - ・環境教育の実施
- E ◆情報の収集と発信**
 - ① 多様な情報の体制づくり
 - ・情報の体制づくりへの参加と協力
 - ・各分野の専門家の招聘および解析
- F ◆公共交通基盤の整備**
 - ① 交通手段の多様化
 - ・交通体系や既存施設の改善
- G ◆歴史的文化的財の保全**
 - ① 文化財の調査と保全対策の検討
 - ・専門家による文化財の調査と保全
 - ・協働による保全、活用策の検討
- H ◆環境保全のパートナーシップの形成**
 - ① 環境保全の多様なネットワークの形成
 - ・環境保全に関する情報などの集積と公開
 - ・環境保全型産業の取り組みと支援
 - ・環境保護活動団体の育成
 - ・ボランティアやガイドの養成と活動の充実
 - ・住民、NPO、企業、研究機関の連携
- I ◆地球温暖化対策への貢献**
 - ① 地球温暖化防止の取り組み
 - ・地球温暖化対策への意識の向上
 - ・地球温暖化防止リーフレットの作成と配布
- J ◆湿原保全意識の啓発**
 - ① 湿原の価値の認識と啓発
 - ・湿原に関する情報の収集と公開
 - ・湿原の生態を体感できるカリキュラムの実施化
 - ・ラムサール湿地市町村などとの連携した環境保全活動

- K ◆多様な観察施設とアクセスの整備**
 - ① 自然環境調査の実施
 - ・多様な主体による自然環境調査の実施
 - ② 木道や小屋など、多様な観察施設の整備
 - ・観察しやすい空間の整備
 - ・既存施設の整備改善
 - ・施設を利用した各種観察会の実施と交流の推進
 - ③ ふれあい施設の環境衛生と安全の確保
 - ・餌付けの方法などの検討
 - ・洗い場など衛生設備の確保
 - ・専門家による指導体制の構築

- L ◆地域ブランドによる観光振興**
 - ① 地産地消の推進と啓発
 - ・地場産品販売体制の構築
 - ・観光イベントの見直しと新規イベントの創出
 - ② 特産品の開発
 - ・豊富な地場食材を利用した名物料理の開発
 - ・瀧沸湖の土産品として親しまれる特産品の開発

- M ◆農山漁村景観の保全と活用**
 - ① 農山漁村景観の保全
 - ・畑や放牧地など農村景観の保全
 - ・環境配慮型農業の推進
- N ◆汽水湖の水環境の保全**
 - ① 水環境の継続的なモニタリングの実施
 - ・湖内水質調査の実施
 - ② 湖の汚濁防止対策の実施
 - ・近隣工場からの排水の水質調査
 - ③ 住民、研究機関と連携した監視
 - ・多様な主体による監視活動の実施
 - ④ 流入河川沿いにおける植生保全の実施
 - ・河畔の植生とヨシ原の保全
 - ⑤ 流入河川の水質調査と改善
 - ・河川の水質環境基準調査
- O ◆周辺環境に配慮した水環境の確保**
 - ① 水源地の保全と安全で良質な水の確保
 - ・水源地周辺における針広混交林化の推進
 - ② 自然と調和した川づくりの推進
 - ・河川の水環境に配慮した整備方法の検討
- P ◆重要な緩衝帯の保全**
 - ① 緩衝帯保全への取り組み
 - ・指定区域の見直しとゾーニングの検討
 - ・専門家による緩衝帯の調査
 - ・植生・植林活動の実施と緩衝帯の適正管理
 - ② 在来植生の保全と再生
 - ・外来種を除去し在来植生の保全と再生
 - ・野焼きなど保全と再生への参加
 - ・保全・再生計画づくりの検討
 - ・専門家、研究機関による再生手法の検討
- Q ◆湖の生態系の保全**
 - ① 湖の生態系調査の実施と対策
 - ・湖の生態調査
 - ・保全と再生への協力と参加

- R ◆自然と調和する景観づくり**
 - ① 自然と調和の取れた施設整備
 - ・公共施設などの緑化と景観改善
- S ◆自然体験メニューの充実**
 - ① 親水空間体験や滞在を楽しむ観光の推進
 - ・道内のイベント調査と場所確保
 - ・親水と環境に配慮した河川整備
- T ◆環境に配慮した産業振興（漁業）**
 - ① 資源管理型漁業の推進
 - ・関係機関による資源動態調査の実施
 - ・資源評価手法の開発
 - ・資源の維持安定対策の検討
 - ② つくり育てる漁業の推進
 - ・ホタテ、サケ、マス、ニシン等の増殖手法の検討
 - ③ 漁場環境の保全と多面的利用
 - ・漁場環境保全の啓発普及と勉強会の実施
 - ④ 水産物の高付加価値化
 - ・地産地消の推進による地域内消費の拡大
 - ・水産物の高次加工の研究、研修に対する支援
 - ⑤ 家畜排せつ物の適正管理
 - ・家畜ふん尿管理施設の整備
 - ⑥ 廃プラスチックの適正処理方法の検討
 - ・収集運搬体制構築による不法投棄の防止
 - ・廃プラスチックの再資源化と適正処理
 - ・耕畜連携の推進
 - ⑦ 環境保全型農業の実践
 - ・環境配慮型農業の推進
 - ・クリーン農業の取り組みと減農薬や有機栽培の推進
 - ・環境保全型農業への支援
 - ⑧ 農産物の高付加価値化
 - ・産地や農産物のブランド化の取り組みと支援
 - ・地場産品を活用した加工製品開発に対する支援

- (林業)
- ⑨ 環境と調和の取れた森林施策
 - ・森林の生態系を保全する鳥獣被害防止策の検討
 - ・民有林所有者に対しての環境保全の啓発
- ⑩ 木育の推進
 - ・植樹祭の開催と緑化活動の推進
 - ・住民が気軽に森とふれあえる森林空間の創出（開発行為）
- ⑪ 環境に配慮した開発行為
 - ・環境配慮型開発行為の普及促進
 - ・開発行為の確立体制の充実（生活排水対策）
- ⑫ 環境に配慮した排水対策
 - ・事業所からの排水処理の適正化
 - ・合併浄化槽の導入など生活排水浄化対策の実施
- U ◆河川流域からの土砂流出抑制**
 - ① 流下土砂調査と抑制対策の検討
 - ・土砂の発生源の調査と流出抑制対策
- V ◆ごみのない環境の実現**
 - ① ごみ問題の啓発と減量対策の推進
 - ・環境美化活動の推進と支援
 - ・河川における土砂の除去
- W ◆多様な環境学習の推進**
 - ① 環境学習機会の場の創出
 - ・環境学習機会やレクリエーションの場の提供
 - ・水鳥・湿地センターなど拠点施設整備と管理運営体制の確立

凡例	
都市地域	■
その他農村計画区域における用途制限	■
農業地域	■
費用地区域	■
森林地域	■
国有林	■
地域森林計画対象民有林	■
保安林	■
自然公園 特別保護地区	■
自然公園 第1種特別地区	■
自然公園 第2種特別地区	■
自然公園 第3種特別地区	■
自然公園 普通地区	■
自然公園 準常緑帯入れ規制地区	■
鳥獣保護区	■
特別保護地区	■



II 未来像・取り組み・手法の全体図
S-1 : 60,000

5章 参考資料

I 計画の策定経緯

1 協議会（幹事会）の取り組み経過

平成 17 年 3 月 30 日、濤沸湖を中心とした地域の環境保全と賢明な利用を図るため、『濤沸湖および周辺域の環境保全推進協議会（以下「協議会」）』を設置し、関係者（網走市、小清水町、農協、漁協、森林組合、観光協会、自治会）および助言者（環境省、開発、支庁）が検討や協議を行っている。

同協議会の幹事会は、H17 年度に 2 回（3・11 月）、H18 年度と 19 年度にそれぞれ 1 回（6・8 月）開催している。

幹事会では、濤沸湖の現況と協議会の運営方法を確認したほか、関係機関の取り組み（事業）状況の把握、現状と課題の再整理、協議会メンバーによる現地視察、環境保全と美観の推進（ごみ拾い）を行っている。

協議会では、これまでの会議により、①現状と課題、②環境保全と賢明な利用の方向性、③環境保全対策と賢明な利用の検討、という 3 つを軸に検討することとしている。

協議会は、幹事会の開催や現地視察などにより、“現状と課題”が明らかになってきたが、“環境保全と賢明な利用の方向性”や“環境保全対策と賢明な利用の検討”を進める方法を明示していないため、今後、協議会としてどのように進めていくかが課題である。

濤沸湖および周辺域の現況と課題は、協議会（幹事会）および助言者からの情報提供（各種報告書や周辺域の事業（取り組み）計画表の提出等）、並びに現地視察により、概略を整理した。

（1）現状把握

- ・湖の地勢（種類、面積、水深、地形等）
- ・水質環境（生化学等）
- ・水資源（魚、プランクトン等）
- ・生態（鳥類等の実態等）
- ・周辺域の植生
- ・堆積の進行

（2）課題抽出

- ・湖の地勢の変化（河川からの土砂流入や海からの漂砂流入による堆積の進行等）
- ・水資源の変化（魚類の変化等）
- ・生態による被害（畑地での鳥類被害、公園での糞による景観悪化等）
- ・植生の変化（ヒオウギアヤメの減少等）
- ・ごみの投棄（環境悪化、景観阻害等）

（3）環境保全と賢明な利用の方向性

環境保全の方向性は、『当面は、現状を維持することを基本に、今後の湖の環境づくりを探る』と仮定したが、今後の環境保全と賢明な利用を図るため、どのような未来像、目標（方向性）が望ましいかは議論しておらず、必ずしも明確になっていない。

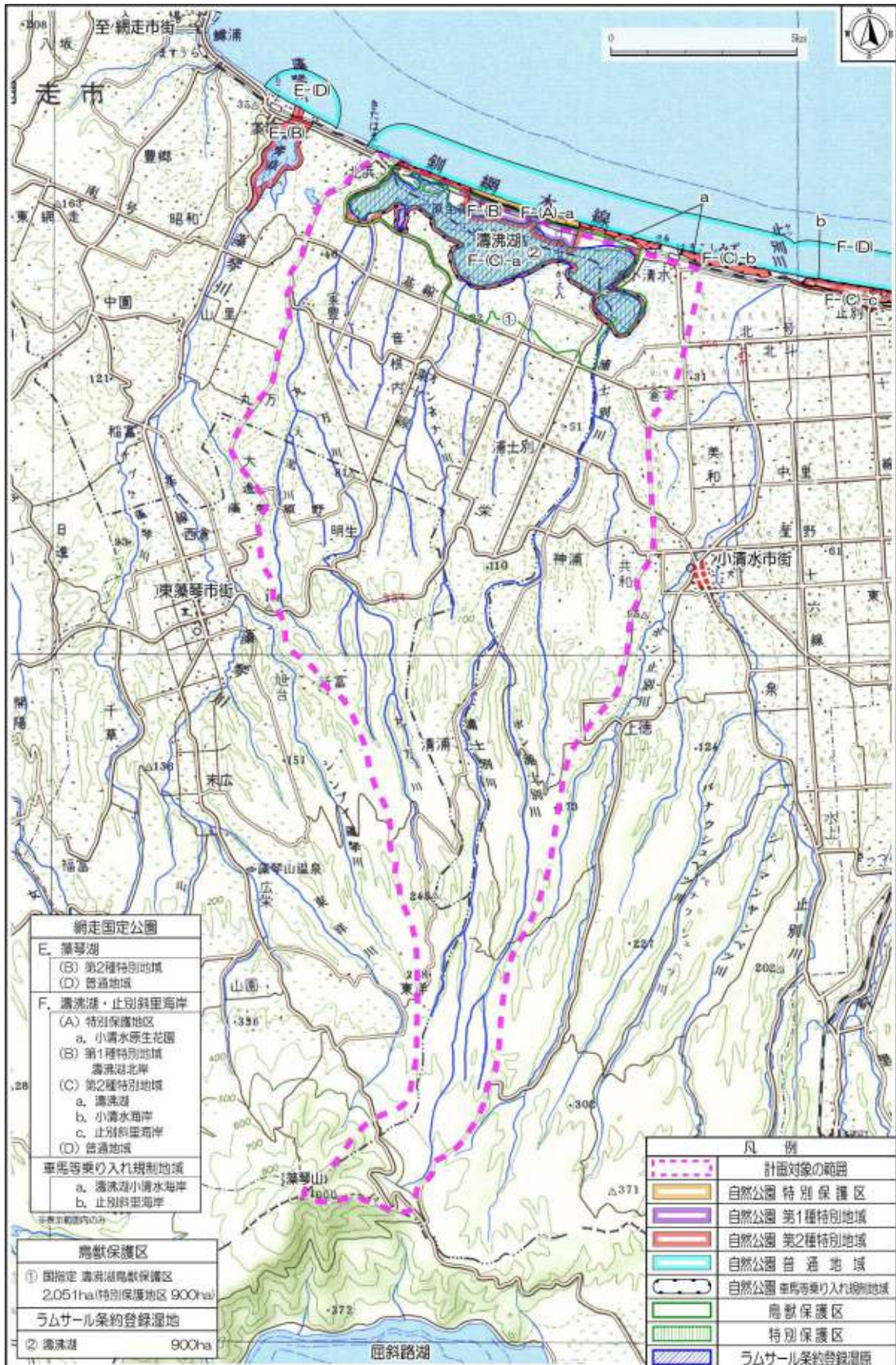
2 計画の目的

平成 17 年にラムサール条約湿地に登録された“濤沸湖”の価値を認識し、その周辺域を含めて、自然環境の保全と賢明な利用（ワイズユース）を図るため、未来像（方向性）と環境目標を設定し、住民、事業者、行政が効果的な取り組みを進めることを目的に、『濤沸湖環境保全活用計画』を策定する。

3 考慮項目

(1) 計画対象の範囲

澗沸湖（約900ha）および周辺地域



(2) 考慮する法令等

本業務は、次の関連法令その他関連資料に基づき行う。

- ① 日本のラムサール条約
- ② 自然環境保全法
- ③ 自然公園法
- ④ 鳥獣保護及び狩猟に関する法律
- ⑤ 絶滅の恐れのある動植物の種の保全に関する法律
- ⑥ 文化財保護法
- ⑦ その他の関連法規制

4 調査内容

(1) 目的

濤沸湖環境保全活用計画策定の目的と性格を整理する。

(2) 環境（現況）調査

濤沸湖および周辺地域における各種の環境調査を項目ごとに整理し、取りまとめる。

① 文献調査

統計および研究機関、公的機関による論文・調査等により以下の項目について、資料を整理する。

自然的環境

- ・ 地形・地質（面積、地形・地質、堆積状況等）
- ・ 気象（気温、湿度、降水量、風向・風速等）
- ・ 水象（流入河川等）
- ・ 水質
- ・ 自然景観

生物的環境

- ・ 鳥類
- ・ 植物（植物相）
- ・ 魚類、底生生物等

社会的環境

- ・ 交通（道路、鉄道、港湾等）
- ・ 環境関連社会資本（公園・緑地、下水道、廃棄物処理施設等）
- ・ 産業（農業、畜産業、漁業等）
- ・ 観光・レクリエーション等、イベント等

濤沸湖の浅化状況

- ・ 経年変化の状況（水深・水際線、植生、動物種、漁獲量、浚渫等）
- ・ 底質等の状況
- ・ その他

環境保全活動への取り組み状況

- ・ 環境保全活動団体等
- ・ 環境保全関連のイベント等の実施状況

② 現地調査

濤沸湖の浅化問題などを把握するために、流域の土地利用状況、河川流入部等の現地踏査および聞き取り調査を実施し、これらの結果を踏まえ、代表的な河川流入部において林齢調査およびヨシ分布調査を実施し、植生変化と文献調査結果から解析を行う。

③ 追加調査項目の検討

濤沸湖における保全と利用の良好な関係を維持していくために、現地調査結果を踏まえ次年度以降の環境調査の必要性和調査計画を明らかにする。

(3) 環境課題の抽出

① 環境特性の取りまとめ

環境調査の整理を踏まえて、濤沸湖の環境特性を分野（項目）ごとに取りまとめる。

② 問題点および課題の抽出

環境特性の取りまとめおよび「環境保全推進協議会」における意見等から、環境上の問題点や課題を抽出する。

(4) 環境保全と賢明な利用の理念（方向性）と基本目標（方針）の検討

① 環境保全の方向性の設定（解析・評価）

今後の濤沸湖のあるべき姿について、地域振興に寄与する環境保全型利用（ワイズユース）を踏まえた環境保全の方向性を具体的に設定する。

② 環境目標の設定

濤沸湖の環境保全を推進するために、環境保全と賢明な利用の視点から、環境目標を設定する。

(5) 環境保全と賢明な利用に関する施策の整理

① 環境施策の体系

基本目標を達成するうえでの基本的な方針を定め、体系化する。

② 環境対策、保全施策の設定

保全の方向性、環境目標に基づき、施策の具体的な検討を行う。

③ 重点施策

濤沸湖の環境を保全するために優先的に実施すべき重点施策について検討し、具体的な行動指針等を策定する。

(6) 施策の推進方策

計画を実効性のあるものとするために、下記の事項について検討する。

① 計画の推進方策

② 計画の推進体制

③ 計画の進行管理

II 計画の策定体制

1 計画の策定体制の考え方

濤沸湖および周辺域における環境保全、ワイズユース、エコツーリズムなどを効果的に推進するためには、計画段階からの住民参加が必要不可欠である。

現在の「協議会（幹事会）」は、地域の関係者で組織しているが、さらに、様々な立場からの要望や情報が反映できる計画の策定体制を創設することが求められる。

そこで、『濤沸湖および周辺域の環境保全推進協議会（以下「協議会（幹事会）」）』とは別に、計画の内容を審議・整理する『濤沸湖環境保全活用計画策定委員会（以下「委員会」）』並びに、住民の意向を反映させる『濤沸湖環境保全活用計画住民会議（以下「住民会議」）』を設置したほか、必要に応じて、『濤沸湖環境保全活用計画庁内検討委員会（以下「庁内委員会」という）』で取り組み内容を検討し、計画の策定を進める。

2 策定委員会

(1) 設置目的

計画の策定に関して、関係機関（団体）から広く意見を求めるとともに、計画に関する事業の目標・方針および施策内容などを審議・整理する場として、新たに組織する。

(2) 委員構成

協議会（幹事会）構成員のほか、学識経験者および関連各団体の推薦者により構成する。

※多くの関係者が参画できるように、現在の協議会（幹事会）の構成員に学識経験者や関係団体などの会員を加える。

※必要に応じて、専門分野からの意見（要望）を反映できるように“専門部会”やヒアリングを実施するなど、多角的な審議（調整）ができるよう工夫する。

(3) 会議の内容

- ・ 会議は3回程度開催する。
- ・ 住民会議（ワークショップ）の結果、および庁内委員会の内容を報告する。
- ・ 住民会議および庁内委員会の報告をもとに、将来像や実現可能な目標（方針）の設定、取り組み（アクションプラン）の設定、計画の推進体制の検討、市の各施策との調整を行う。
- ・ 委員会における審議結果は、住民の意見として計画に反映する。

3 住民会議

(1) 設置目的

計画に関する現状と課題、事業の方針および施策内容などについて、広く市民の意見やアイデアを収集し、計画策定の基礎資料とする。

(2) 構成

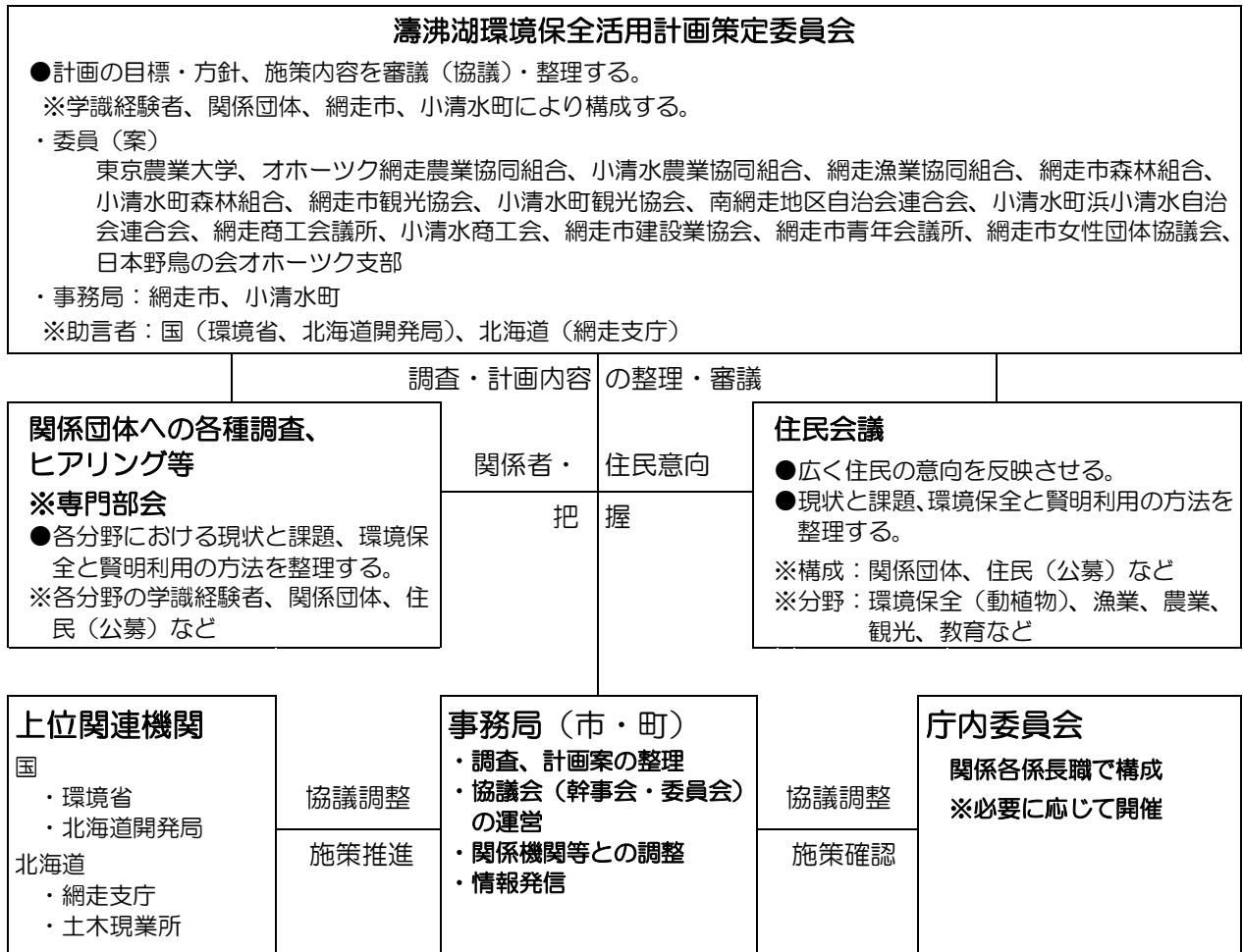
網走市民、小清水町民

※一般公募のほか、委員会および関係団体から参加者を推薦してもらう。

(3) 会議の内容

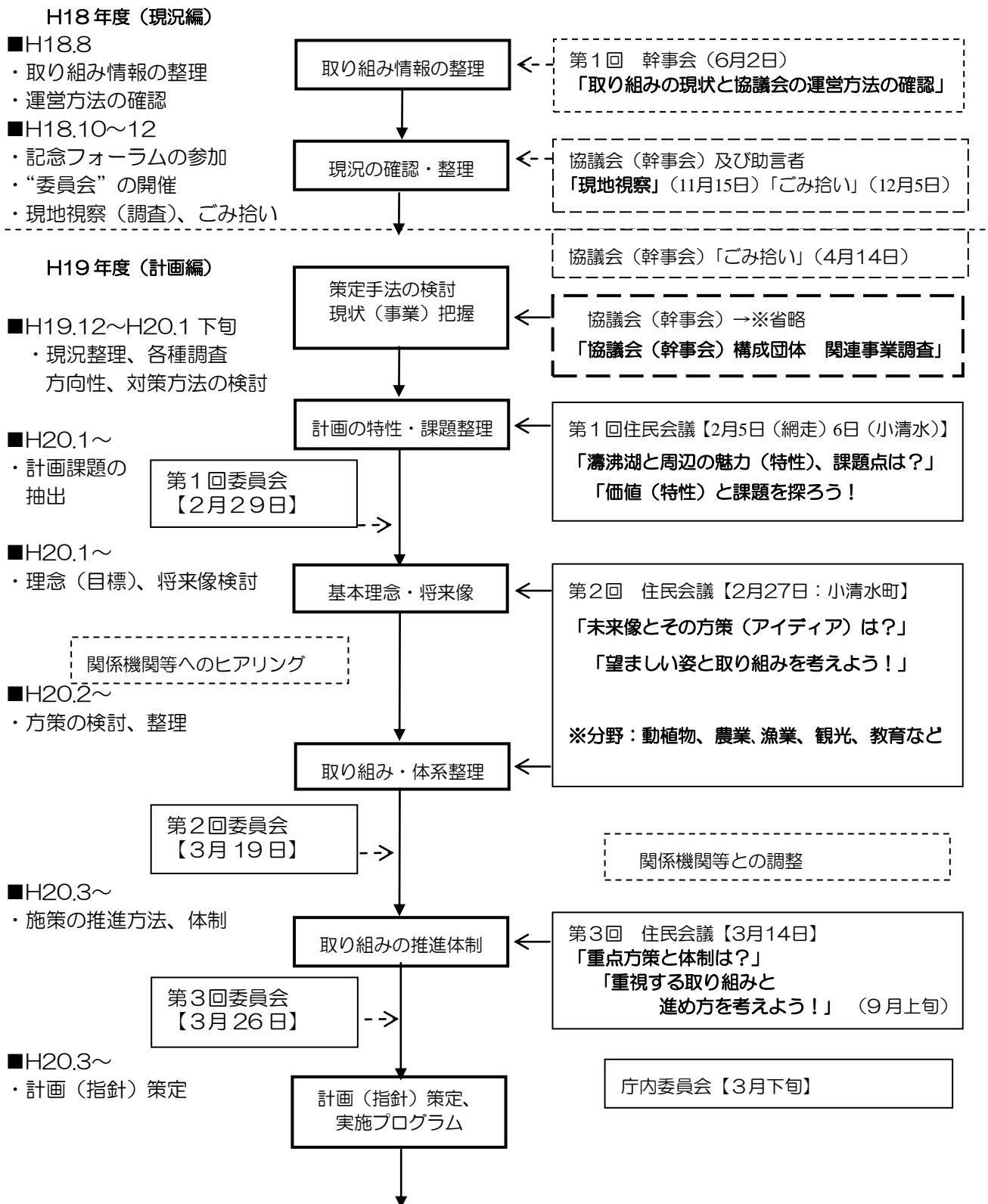
- ・ 会議は3回程度開催する。
- ・ 住民会議（ワークショップ）の結果は、委員会および庁内委員会に報告する。
- ・ 住民会議の結果は、庁内委員会等において、市民の意見として反映する。

■計画の策定体制 <フレーム>



III 計画における住民会議と委員会の反映（スケジュール）

■スケジュール<フロー>【委員会、住民会議（ワークショップ）、庁内委員会、協議会（幹事会）】



IV 策定委員会

1 委員会名簿

所 属	職 名	委員名
南網走地区自治会連合会北浜町内会	会長	須藤 智信
小清水町浜小清水自治会連合会	副会長	宮津 豊
オホーツク網走農業協同組合	営農部長	金澤 匡晃
小清水町農業協同組合	営農部長	真柳 正嗣
網走漁業協同組合	総務部長	小林 耕一
網走地区森林組合	管理課長	中鉢 文男
網走市観光協会	事務局長	菅原 久
小清水町観光協会	会長	橘 芳和
東京農業大学 生物産業学部	アグリ 竹学科教授 臨海研究所長	谷口 旭
網走商工会議所	青年部会長	朝倉 一好
小清水町商工会	事務局長	立花 民衛
網走青年会議所	理事長	波岡 英治
網走市消費者協会	会長	小路 康子
日本野鳥の会オホーツク支部	支部長	川崎 康弘
オホーツク21世紀を考える会	林-ツライ委員長	松木 俊広

2 濤沸湖環境保全活用計画策定委員会設置要綱

(目的および設置)

第1条

濤沸湖環境保全活用計画（以下「計画」という。）の策定に関して、広く住民や有識者などから意見を聞くことを目的として、濤沸湖環境保全活用計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条

委員会は、次の事項について意見を述べる。

- (1) 計画の策定に関する事項
- (2) 計画に係る調査並びに推進に関する事項
- (3) 前2号に定めるもののほか、前条の目的を達成するために必要な事項

(構成)

第3条

委員会は、委員17名以内をもって構成する。

- 2 委員は、学識経験者、関係団体等のうちから市長が委嘱する。
- 3 委員の任期は、平成23年3月31日までとする。

(委員長および副委員長)

第4条

委員会に、委員長および副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により選出する。
- 3 副委員長は、委員長の指名により選出する。
- 4 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条

委員会の会議は、必要に応じ委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、必要に応じ有識者から意見を聞くことができる。

(庶務)

第6条

委員会の庶務は、網走市市民部生活環境課において行う。

(補則)

第7条

この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、その都度別に定める。

附 則

この要綱は、平成20年1月17日から施行し、計画の策定業務が終了した日に廃止する。

V 住民会議の概要報告

1 住民会議（ワークショップ）の目的

濤沸湖環境保全活用計画の策定に当っては、地域の多様な主体の協働（パートナーシップ）により進められていく必要があります。ワークショップの目的は、濤沸湖と周辺域に関する現状と課題、未来像、方針（目標）および取り組み内容などについて、広く住民の意見やアイデアを収集し、計画の基礎資料とするものです。

2 住民会議（ワークショップ）の構成

毎回、網走市民、小清水町民を対象として一般公募する。またその他に関係する諸団体から参加者を推薦してもらう。

3 住民会議（ワークショップ）の内容

ワークショップは計画策定の各段階に合わせて、参加者の意見を引き出しやすくするよう、3回に分けて実施し、会議の結果は策定委員会および庁内委員会に報告を行い、市民の意見として反映される。

ワークショップの内容等については次のとおり。

開催時期	ワークショップの内容等
第1回 H20年 2月5・6日	【テーマ】：「濤沸湖及び周辺域の 魅力（特性）と課題を探ろう! 」
	【目的】：2005年11月にラムサール条約登録湿地に指定された濤沸湖の良さや現在の姿についての意見を様々な角度から出して、魅力と課題を整理する。
	＜作業内容＞：参加者に濤沸湖のイメージ、現状と課題について語ってもらい、それらをテーマ別に整理を行っていく。濤沸湖に関する手元の資料や情報マップも参照して確認していく。また、周辺で進んでいる関連の計画や事業を確認し、濤沸湖と周辺域は、どのような魅力（特性）があり、課題があるのかまとめる。
第2回 H20年 2月27日	【テーマ】：「濤沸湖及び周辺域の 望ましい姿と取り組みを考えよう! 」
	【目的】：前回のWSで出された、濤沸湖と周辺域の魅力（特性）と課題（改善策）を踏まえて、どのような未来の姿（目標）が望ましいか意見を確認する。そして、実現に向けた取り組みや課題の解決に必要な手法について、様々な角度から考えてみる。
	＜作業内容＞：現状（特性）と課題、望ましい姿（目標）を分野（湖沼、動物、植物、農業、漁業、観光、教育など）別に、未来像とこれを行えばいいなあと思う「取り組み」「手法」について、意見をとりまとめる。さらに、何をどこまで進めていけば良いか、だれが中心に行うのか、自分たちができること、今後の企業などへの期待を考える。
第3回 H20年 3月14日	【テーマ】：「濤沸湖及び周辺域の 重視すべき取り組みと進め方 を考えよう!」
	【目的】：前回のWSで出された望ましい姿と取り組みを踏まえて整理された未来像（全体目標）、分野別未来像（展開方向）、取り組み（施策案）、手法（事例）を確認し、重視する視点（項目）を整理する。また、効果的な取り組みと事例、担い手を考える。
	＜作業内容＞：自然環境の保全と賢明な利用を進める環境づくりについて、自然・生物、社会（漁業、農業、林業、観光など）、行動の各分野の未来像（展開方向）、取り組み（施策案）、事例を確認し、重視する取り組みと誰が何を行うことが効果的なのか、その推進手法についてとりまとめる。

(1) 日程

第1回住民会議 (網走市と 小清水町での 2回開催)	【日程】 網走市 平成20年2月5日(水) 午後7時00分～午後9時00分 小清水町 平成20年2月6日(木) 午後7時00分～午後9時00分
	【場所】 網走市 エコセンター 2階 大会議室 小清水町 小清水町役場会議室
	【参加人数】 網走市28名参加。4つのグループに分け、話し合いを行いました。 小清水町14名参加。3つのグループに分け、話し合いを行いました。
第2回住民会議 (小清水町での 共同開催)	【日程】 小清水町 平成20年2月27日(水) 午後7時00分～午後9時00分
	【場所】 小清水町 多目的研修施設「愛ホール」
	【参加人数】 28名(網走18名、小清水9名、斜里1名)参加。 事前の希望に合わせて5つのグループ(主に自然・動物系、植物系、農業系、漁業系、 観光・教育系)に分けて、話し合いを行いました。
第3回住民会議 (網走市での 共同開催)	【日程】 網走市 平成20年3月14日(金) 午後7時00分～午後9時15分
	【場所】 網走市 エコセンター 2階 大会議室
	【参加人数】 28名(網走19名、小清水8名、斜里1名)参加。 前回の希望に合わせて5つのグループに分けて話し合いを行いました。

4 住民会議（ワークショップ）の結果のまとめ

(1) 第1回住民会議結果のまとめ

「澗沸湖及び周辺域の魅力（特性）と課題を探ろう！」2005年11月にラムサール条約登録湿地に指定された澗沸湖の良さや現在の姿についての意見を様々な角度から出して、魅力と課題を整理しました。

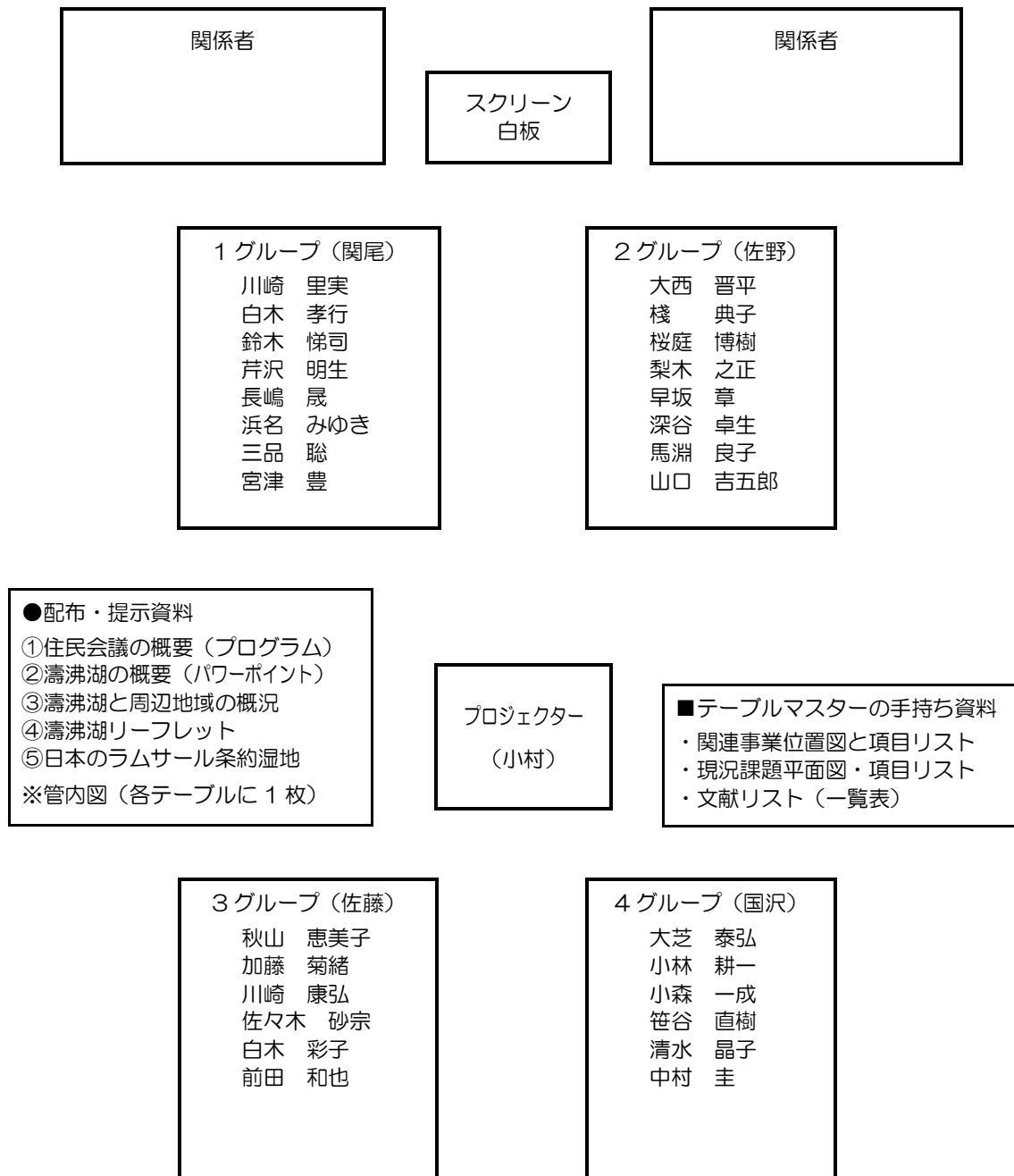
① プログラム

＜第1回のテーマ；澗沸湖の“魅力（特性）と課題”を探ろう！＞

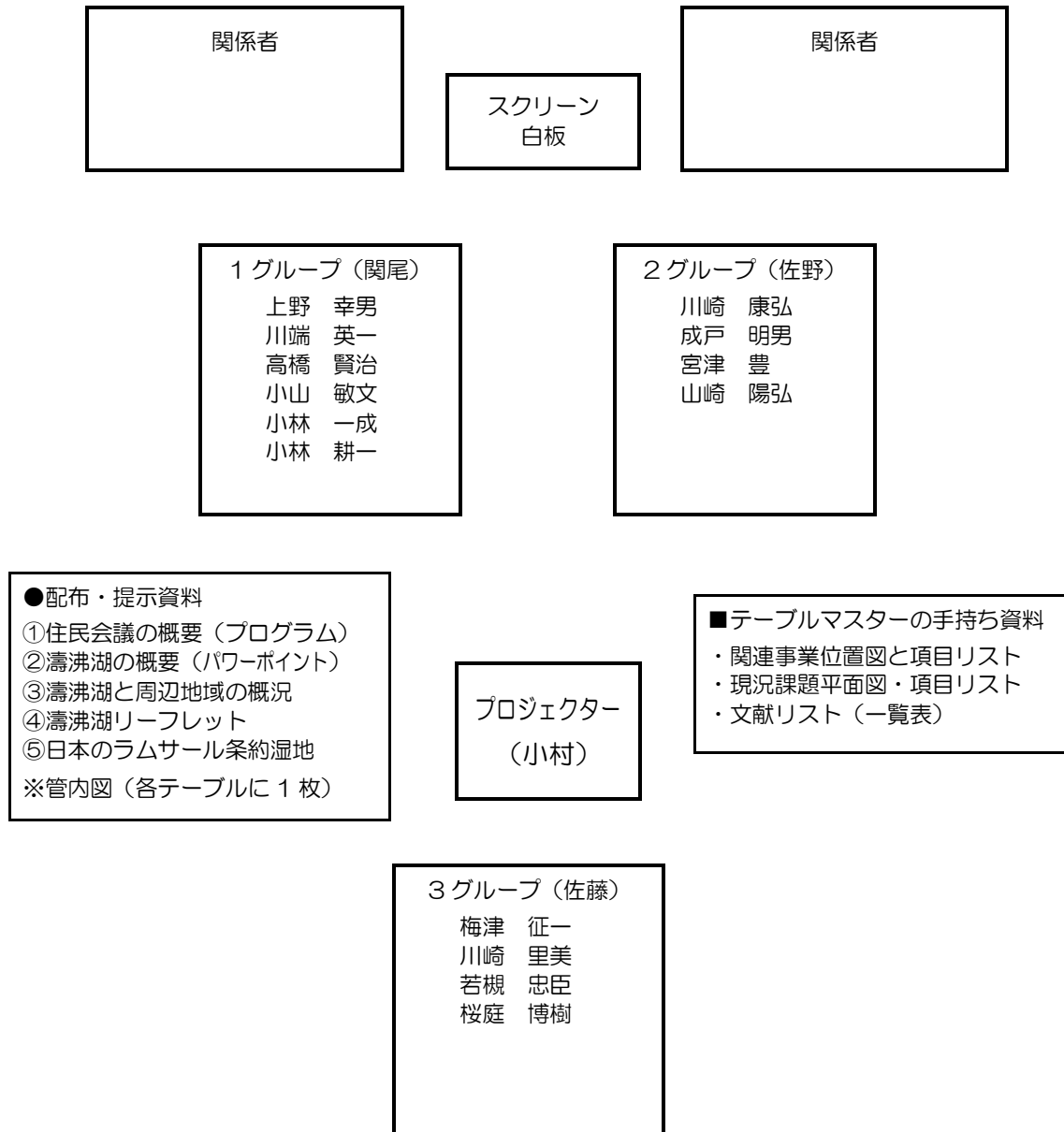
第1回 作業工程	作業内容	備考																
受付	各自、グループテーブルに着席。	※受付簿 ※名札配布																
はじめに	・挨拶 ・第1回ワークショップの趣旨など ・プログラム（進行）の説明 “澗沸湖の概要”をパワーポイントで説明する	目的、委員会との関係、会議流れ 進行役紹介、進行上注意する点など ※パワーポイント資料配布																
STEP 1	・各グループ内で自己紹介 ・第1回目のテーマの確認 ・手元の資料の説明を行う ＜作業開始＞	※1班～4班の4グループ。 ※文献整理及び現状把握により項目別に整理した『資料（図面付）』を参加者に手渡す。 ※記録者、発表者を決めても良い。																
STEP 2	①澗沸湖の過去と現在の姿、周辺域を含めて他には無い良いところ、またそこから出てくる魅力と特性について各自に語っていただく。 ②澗沸湖と周辺について、取り組みや関連の計画を確認して、現状を把握し課題を抽出する。 抽出された課題をグループ分けし、原因と改善方法についてピックアップする。 ③特性と課題について、話の結果を手際よく、ジャンル別に付箋紙等に整理し、グループの模造紙に張り付ける。 ・結果を整理し、記録する。 ・結果の記録を終えたら、発表者を決める。	※魅力（特性）と課題について、様々な角度から抽出する。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>自然</td> <td>産業</td> <td>観光</td> <td>ETC・・・</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">ここに</td> <td style="text-align: center;">付箋</td> <td style="text-align: center;">紙を貼って</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">□</td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">いく</td> </tr> </table> ※ジャンル分けは各グループから提出される意見により随時行う。	自然	産業	観光	ETC・・・	□	□				ここに	付箋	紙を貼って	□			いく
自然	産業	観光	ETC・・・															
□	□																	
	ここに	付箋	紙を貼って															
□			いく															
STEP 3	・成果発表 ※今日の成果を皆で知らせ合う。 ・各グループに模造紙をボードに貼りつけ、発表者が説明する。	※各グループの成果発表は、5分以内。 ※模造紙に貼られた意見の結果と、あらかじめ配付された大きめの澗沸湖の地図を用意して話す。																
挨拶	・第1回ワークショップのまとめ ・次回開催についての案内 ・終了挨拶																	

② 参加者配置図

第1回ワークショップ テーブル配置図（網走市）



第1回ワークショップ テーブル配置図 (小清水町)




③ 概要報告

参加者から出された意見は、瀧沸湖および周辺の「自然的環境（地形・汽水湖・自然景観等）」、「生物的環境（植物・鳥類・魚類等）」、「社会的環境（交通・産業・観光等）」、「瀧沸湖の浅化状況（経年変化等）」、「環境保全活動への取り組み状況」の大きく5項目の視点で分類し、魅力や課題としてとりまとめました。網走、小清水各々その概要を以下の表に記します。



網走市

項目	魅力	課題	写真
自然的環境	<ul style="list-style-type: none"> 瀧沸湖周辺は、オホーツク海と流水、斜里から知床半島、火山性丘陵地など優れた自然景観が眺望でき、白鳥公園やフレイトイ、平和橋などの景観スポットに恵まれている。 湖岸へ寄り付ける場所が少ないので良好な自然が保全されている 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人々が利用しやすい「ビジター（ネイチャー）センター」を設置して情報の共有や環境教育、観光案内等に使用する必要性があること。 海との潮切りにより塩性湿地の保全は出来るが、湖が浅いので殆どが海水で占められていく。 流域から湖への汚染や土砂の流出が懸念される。 	 <p>フレイトイ展望台より 流水野を望む</p>
生物的環境	<ul style="list-style-type: none"> 植物（アッケシソウ、ヒオウギアヤメなど）、鳥類（水鳥、タンチョウなど）、昆虫類（蝶類など）等、種の多様性が瀧沸湖の魅力であり、多くの生物とのふれあいが持てるのが特色である。 野焼きや馬の放牧などにより人為的に保全されている植生が分布している。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの人々が鳥類とふれあえる「鳥類観察舎」が必要である。 生物の生態情報に乏しい面が見られるので、関連データの積み重ねなどが必要である。 白鳥公園等で見られるような餌付けが野生種にとって良いのかどうか、餌付け方法の検討および野鳥による糞害を改善させることが課題である。 アメリカオニアザミのような外来種やネナシカズラの繁殖、センダイハギの丈が低くなっている。 	 <p>白鳥公園の水鳥</p>
社会的環境	<ul style="list-style-type: none"> 沿道には広い駐車場があり、原生花園や流水のように道路から至近のアプローチで自然とふれあえる。 漁業においては、カキの養殖、ワカサギやニンなどので孵化事業が進められワカサギの卵は全国出荷されている。 農業と漁業との関係は、互いに理解を深め合っており良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通手段が自家用車だけで公共交通による湖へのアクセス不便に感じる。 沿道の建築物が周囲の景観と調和していないように思われ、旧駅舎や展望台はより温かみがある質素なものが望まれる。 散策路やフットパスを湖の北岸に設置して、より自然とのふれあいの機会を増やしたり南岸を見渡したりして、活動の拠点や広報にも利用すべきである。 漂流物による海岸ごみが増えている。また湖流入河川橋梁下でのごみの多さも近年目立っている。 ヤマトシジミが採れなくなっている。 「瀧沸湖資料館」には情報が充実しているが、宣伝不足のため一般に広く活用されていない面がある。 	 <p>沿道の建築物</p>  <p>湖北岸の展望台</p>
浅化状況		<ul style="list-style-type: none"> 湖浅化の原因には、海からの漂砂と河川からの土砂が湖に入り堆積が進んでいること、牧草地等が湖に近接していることがあり、湖の汚濁や土砂流入が行われていると考えられる。 	 <p>丸万川の河口付近</p>

項目	魅力	課題	写真
保全活動		<ul style="list-style-type: none"> 海と湖を連絡させる潮切りは塩性湿地保全のためにも必要であり、流水トラストの促進や科学的データの積み重ねが大切であると思われる。 	 <p>湖と海との連絡水路</p>



小清水町

項目	魅力	課題	写真
自然的環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 濤沸湖周辺は、オホーツク海と流水、斜里から知床半島、火山性丘陵地など優れた自然景観が眺望でき、白鳥公園やフレイトイ、平和橋などの景観スポットに恵まれている。 ・ 斜里から昇る朝日とオホーツクへ沈む夕日が同時に眺められる魅力がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海岸の浸食が進み鳴き砂が見られなくなった。 ・ 湖の水質悪化が進んでいるのではないかと推察され、塩分濃度が高まってきていると推察され、淡水と海水の境界が無くなってきている。水質、水位などのデータが少ないのでモニタリングが必要である。 ・ 河川においては、浦士別川では河川改修により洪水時下流側で溢水したが、現在では上流側の植林により安定している。 ・ 丸万川では落差工が連続し、魚が遡上できずサケの密漁が行われている。 	 <p>夕日</p>  <p>浦士別川</p>

項目	魅力	課題	写真
生物的環境	<ul style="list-style-type: none"> 鳥類および水鳥相の豊かさ、湖西側の湖畔林が保全されていること、浦士別川下流域のミズバショウ群落など良質な自然がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 網走と同様白鳥公園の餌付けの課題がある。 平和橋では多様な鳥類が見られ、観察施設の必要性がある。 湖畔のヨシの保全と増殖が必要である 塩水の侵出に伴って淡水魚が減少している。 湖畔林が減少している。 アマモに関する情報が乏しい。 原生花園については、在来種がイネ科植生に押されていること、外来種の種数はワッカ原生花園より多いこと、エソノコリンゴの分布が広がっていること、ハマナスが以前より小ぶりになってきたこと、などがあげられ土壌が変化してきたのではないかと思われる。 以上の課題に対応して、保全再生を計画的に実施し、情報集積施設や観察の拠点が必要になると考えられる。 立ち入りに関してもゾーニングを施しておくべきである。 	 <p>平和橋</p>  <p>原生花園の海岸線と流水</p>
社会的環境	<ul style="list-style-type: none"> 濁沸湖のカキは美味であり、「地域ブランド」を目指していくべきである。 河川流域での農業においては「ゆう水」による土づくりがさかんで、流域の保水力を増し、水を涵養して土砂流出緩和等に貢献していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察施設と共にネイチャーセンターの必要性が網走と同様にあげられている。 湖では南岸にごみが集まりやすいが、ごみの投棄が目立つので有料化して回収したらどうか。 海岸ではプラスチックごみが近年増加し、前浜には集まりやすいので搬出が課題である。 湖周辺の土地利用を見直すべきである。 湖をスケート場として利用したらどうだろう。 現在の「素通り型」の観光から「滞在・体験型のグリーンツーリズム」へ転換させていくべきである。これには自転車、ノロッコ号、DMVなどを活用して越冬や風景移動の風情を味わってもらおうと良い。 	 <p>「ゆう水」土づくり</p>  <p>ノロッコ号</p>
浅化状況	<ul style="list-style-type: none"> 土砂流出が発生すると小清水町が即対応してくれるので助かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 湖の浅化が進み現在は最大水深 1.4m、平均水深 0.7m ほどになっていると言われているが、この件に関しては殆どデータが不足している。 現状は海水を引き入れるための溝筋が掘られているが、そこ以外はカヌーが底をつき、シギが歩けるほどの浅化が見られる。 流入河川の河口付近に土砂が堆積し、ワカサギ孵化場や親魚捕獲に影響をおよぼしている。 	 <p>ワカサギ</p>
保全活動		<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化への貢献活動として濁沸湖の環境を良くしていく方向で考える。 専門職員を配置させて調査研究を充実させたらどうか。 網走と小清水の連携をはかるべきである。 産学官および多様な主体による連携をはかり、様々な課題に対応する「横断的組織」づくりが必要である。 行政と住民の協働による取り組みを行っていく。 	 <p>環境保全活動</p>



ワークショップの様子（小清水町）

④ 第1回住民会議を踏まえた結果

住民意見をひまえた特性と課題

住民意見を踏まえた課題（その1：自然的環境）

課題	住民意見（第1回ワークショップ）		
	濤沸湖の良いところ・魅力	改善したいところ	備考
自然環境 課題① 自然景観の保全 濤沸湖周辺からの眺望景観は優れたものがあるが、樹木や草花の減少などにより損なわれぬよう保全が必要です。 課題② 汽水湖の維持 湖の浅化に伴い海水が奥湾まで浸出して塩分濃度が高まり、淡水域の減少が懸念されます。また海岸においても浸食が進み、湖内への漂砂の流入が進むことから保全対策の検討が必要です。 課題③ 湖の水質・底質保全 土砂などの流入による汚濁・汚染が懸念されているので、水質保全が必要です。底質も生物生息環境としての適正が求められるため、改善が必要です。 課題④ 漂砂対策 湖浅化の原因のひとつに海からの漂砂による堆積があげられているので、対策を検討する必要があります。 課題⑤ 水環境のモニタリング 湖の水質や水位などの経年変化を把握するためのデータが少ないので、モニタリング調査が必要です。 課題⑥ 河川等の整備 流入河川については、湖と上流の森林との連携が保てるよう整備が必要です。 課題⑦ 交流拠点の整備 濤沸湖と周辺の自然探訪、観光、情報提供、学習など、訪れる人や地域住民の交流拠点（ネイチャーセンター等）が必要です。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 濤沸湖周辺は、オホーツク海と流水、斜里から知床半島等優れた自然景観が眺望でき、白鳥公園やフレトイ、平和橋などの景観スポットに恵まれている。 ・ 斜里から昇る朝日とオホーツクへ沈む夕日が一緒に眺められる魅力がある。 ・ 火山性の台地が広がっており、道道や広域農道を走行中は変化のある風景を楽しめる。 ・ 現在の状況では湖岸へ寄り付ける場所が限られているので、良好な自然が保全されている。 ・ 星空が綺麗である。 ・ 湖と海との連絡水路を開く潮切りは湖の塩性湿地の保全に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの人々が利用しやすい「ビジター（ネイチャー）センター」を設置して情報の共有や環境教育、観光案内等に使用する必要があること。 ・ 海との潮切りにより塩性湿地の保全は出来るが、湖が浅いので殆どが海水で占められていく。 ・ 流域から湖への汚染や土砂の流出が懸念される。 ・ 原生花園海岸の浸食が進み、鳴き砂が見られなくなった。 ・ 湖の水質悪化が進んでいるのではないかと、塩分濃度が高まってきていると推察され、淡水と海水の境界が無くなってきている。 ・ 湖の水質、水位などのデータが少ないのでモニタリングが必要である。 ・ 河川においては、浦士別川では蛇行の直線化による河川改修により洪水時下流側で溢水したが、現在では上流側の植林により安定している。 ・ 丸万川では落差工が連続し、魚類の遡上が困難となっている。 ・ 湖が浅化で浅くなっており、東側奥まで海水が浸入し、淡水域が後退している。 ・ 海岸浸食が進み、原生花園の砂嘴の幅が狭くなっている。 ・ 水際まで入れる所が限られており、水辺のふれあいに欠ける。 ・ 自然景観を阻害するような建築物が存在する。 ・ 湖の周辺では草木や花などが少なくなり、景観が悪化している。 ・ ヤマトシジミが採れなくなっている。 	

住民意見を踏まえた課題（その2：生物的環境）

課題	住民意見（第1回ワークショップ）		
	瀧沸湖の良いところ・魅力	改善したいところ	備考
<p>生物環境</p> <p>課題⑧ 観察施設とアクセスの整備 瀧沸湖周辺は豊富な植物、鳥類相に恵まれており、観察のために観察舎と木道、散策路が必要です。</p> <p>課題⑨ 既存施設のふれあい環境 白鳥公園や平和橋のような野鳥とのふれあいの場では、過密な生息域解消、餌付け方法の検討、糞の清掃、ごみの発生抑制などを検討する必要があります。</p> <p>課題⑩ 湖畔の緩衝帯の保全 水辺から陸地にかけての湖畔の緩衝帯は、湖畔林、ヨシ原などを含めて生物の生息環境や水質浄化などに重要なので保全が必要です。</p> <p>課題⑪ 原生花園の植生保全 近年外来種の侵入やイネ科植生の優勢が言われ野焼きなどで植生保全が行われているが、在来植生の劣化が引き続きみられるので、植生保全の検討が必要です。</p> <p>課題⑫ 淡水魚の生息環境の保全 塩水の浸入などに伴い淡水魚への影響が懸念されるため、調査を実施し保全を検討することが必要です。</p> <p>課題⑬ ソーニングの検討 野生動植物保護のため、適正な立ち入り区域を選定するソーニングと、その周辺で保全すべき自然の再生・復元を図る必要があります。</p> <p>課題⑭ 自然生物情報の集積と発信 観察の拠点が必要であるとともに、情報の収集や発信に関する体制・施設等を検討することが必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 植物（アッケシソウ、ヒオウギアヤメなど）、鳥類（水鳥、タンチョウなど）、昆虫類（蝶類など）等、種の多様性が瀧沸湖の魅力であり、多くの生物とのふれあいが持てるのが特色である。 鳥類および水鳥相の豊かさ、湖西側の湖畔林が保全されていること、浦士別川下流域のミスバショウ群落など良質な自然がある。 野焼きや馬の放牧などにより人為的に保全されている植生が分布している。 白鳥公園は至近で水鳥とのふれあいが楽しめ、観光スポットとして良い素材となっている。 湖の南岸は、段丘林や湖岸林に恵まれ、人がめったに踏み込まないので、崖地の動植物や森林が良好に保全されている。 四季折々の花や鳥が楽しめ、夜空が美しい。 水際まで人が入れるところが少ないため、野鳥の生活環境が守られている。 白鳥公園付近は季節になるとヒオウギアヤメの群落が見事で、近くにはタンチョウが営巣している。 丸万川河口および浜小清水付近の北岸では数年前からアッケシソウが増えている。 音根内では、蝶類相が豊かで林道から観察しやすい。 オオワシ、オジロワシ、ヒシクイなど豊富な鳥類が観察できる。 タンチョウが自然のままの姿で観察できる。 ミスバショウ、アッケシソウ、ヒオウギアヤメ、クロユリ、サワギキョウ、エソキスゲ、センダイハギなどの植物群落美しい。 昆虫では、ヘイケボタル、カラフトキリギリスが見られる。 湖に生息しているフナは大型である。 平和橋には野鳥観察用の橋があり魅力である。 	<ul style="list-style-type: none"> より多くの人々が鳥類とふれあえる「鳥類観察舎」が必要である。 生物の生態情報に乏しい面が見られるので、関連データの積み重ねなどが必要である。 白鳥公園等で見られるような餌付けが野生種にとって良いのかどうか、餌付け方法の検討および野鳥による糞害を改善させることが課題である。また近年はカモメやごみが多くなっている。 アメリカオニアザミやネナシカズラの繁殖、センダイハギの丈が低くなっている。 平和橋では多様な鳥類が見られ、観察施設の必要性がある。 湖畔のヨシの保全と増殖が必要である。 塩水の侵入に伴って淡水魚が減少している。 湖畔林が減少している。 アマモに関する情報に乏しい。 原生花園については、在来種がイネ科植生に押されていること、外来種の種数はワッカ原生花園より多いこと、エソコリンゴの分布が広がっていること、ハマナスが以前より小ぶりになってきたこと、などがあげられ土壌が変化してきたのではないと思われる。 各課題に対応して、保全再生を計画的に実施し、情報集積施設や観察の拠点が必要になると考えられる。 立ち入りに関するソーニングを施しておくべきである。 アッケシソウなどは、陸側からは丈が高い雑草に阻まれて観察が行いづらい。 植物や野鳥の生態、また原生花園の素晴らしさに関する情報が乏しい。 観光バスおよび観光客増加により与える餌の量が増え、鳥の個体数が増加し生息域が過密になっている。 平和橋では野鳥の糞が多く不衛生であるので糞の清掃を一日数回の頻度で行う。 浦士別川下流域のミスバショウ群落地では鑑賞のための木道整備が望まれる。 	

住民意見を踏まえた課題（その3：社会的環境）

課題	住民意見（第1回ワークショップ）		
	瀧沸湖の良いところ・魅力	改善したいところ	備考
<p>社会的環境</p> <p>課題⑮ 周辺景観の保全 建築物や工作物が周囲の景観と調和するよう景観保全を施していく必要があります。</p> <p>課題⑯ 公共交通アクセスの充実 交通手段が自家用車に頼りがちな傾向に見られるので、公共交通（DMV含）による湖等への観光・アクセスを検討する必要があります。</p> <p>課題⑰ 漂流ごみの対策 湖や海岸で漂流ごみやプラスチックごみが増えていることから、発生抑制から搬出までの対策が必要です。</p> <p>課題⑱ その他のごみの対策 湖流入河川の橋下などでは不法投棄のごみが目立つので対策を検討する必要があります。また鳥類の糞による汚れも改善対象となります。</p> <p>課題⑲ 既存施設の改善 冬季間の利用者の利便を図るため、駐車場、トイレの通年利用の可能性を検討する必要があります。</p> <p>課題⑳ レジャーゾーンの機能の充実 冬季湖におけるスケートやカヌーなどの利用も考慮し、滞在・体験型のグリーンツーリズムを促進させる取り組みが必要です。</p> <p>課題・ 地場産品の地域ブランド化 地場産品の宣伝と普及につとめ、地域ブランドとして確立させる必要があります。</p> <p>課題・ 遺跡・史跡の調査・保全 湖周辺に存在する遺跡や史跡の調査・保全を行う必要があります。</p> <p>課題・ 土砂流出対策 河川からの流入など土砂が湖へ流出して浅化の懸念が生じるため、発生源からの防止対策を検討する必要があります。</p> <p>課題・ 浅化状況のデータの必要性 湖への土砂堆積状況などのデータが不足しているため、モニタリングなどにより蓄積させていく必要があります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 沿道には広い駐車場があり、原生花園や流水のように道路から至近のアプローチで自然とふれあえる。 漁業においては、カキの養殖、ワカサギやニシンなどの孵化事業が進められワカサギの卵は全国出荷されている。 農業と漁業との関係は、互いに理解を深め合っており良好である。 瀧沸湖のカキは美味であり、「地域ブランド」を目指していくべきである。 河川流域での農業においては「ゆ水」による土づくりがさかんで、流域の保水力を増し、水を涵養して土砂流出緩和等に貢献していると思われる。 ポニーの放牧があり、厩の屋根に植生が施され素朴で自然な感じがかもしたされている。 保全すべき湿地と漁業は共存しており、湿地を損なうことなく湖の利用が行われている。 昭和31年に第一次南極観測隊の耐寒訓練が行われた。 平成19年度に瀧沸湖と藻琴湖を回るコースでDMVの試験運行が行われている。 フレイトイ貝塚など遺跡が多い。 <p>土砂流出が発生すると小清水町が即対応してくれるので助かっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 交通手段が自家用車だけで公共交通による湖へのアクセス不便に感じる。 沿道の建築物が周囲の景観と調和していないように思われ、旧駅舎や展望台はより温かみがある質素なものが望まれる。 散策路やフットパスを湖の北岸に設置して、より自然とのふれあいの機会を増やしたり南岸を見渡したりして、活動の拠点や広報にも利用すべきである。 漂流物による海岸ごみが増えている。また湖流入河川橋梁下でのごみの多さも近年目立っている。 「瀧沸湖資料館」には情報が充実しているが、宣伝不足のため一般に広く活用されていない面がある。 湖では南岸にごみが集まりやすいが、ごみの投棄が目立つので有料化して回収したらどうか。 海岸ではプラスチックごみが近年増加し、前浜には集まりやすいので搬出が必要である。 湖周辺の土地利用を見直すべきである。 湖をスケート場として利用したらどうだろう。 現在の「素通り型」の観光から「滞在体験型のグリーンツーリズム」へ転換させていくべきである。これには自転車、ノロッコ号、DMVなどを活用して越冬や風景移動の風情を味わってもらおうと良い。 冬季は国道沿いの駐車場が除雪されおらず、トイレも閉鎖されている。 地場産のカキ売り場が浜小清水など限られた場所にしかなく、地域住民が地場のものを味わう機会に乏しい。また湖産のカキの美味しさが一般に知られていない。 観光客を受け入れる場所と立ち入り禁止にする場所を整理する必要がある。 湖浅化の原因には、海からの漂砂と河川からの土砂が湖に入り堆積が進んでいること、牧草地等が湖に近接していることがあり、湖の汚濁や土砂流入が行われていると考えられる。 湖の浅化が進み現在は最大水深1.4m、平均水深0.7mほどになっていると言われているが、この件に関しては殆どデータが不足している。 現状は海水を引き入れるための濡筋が掘られているが、そこ以外はカヌーが底をつき、シギが歩けるほどの浅化が見られる。 流入河川の河口付近に土砂が堆積し、ワカサギ孵化場や親魚捕獲に影響をおよぼしている。 	

住民意見を踏まえた課題（その4：各種活動（保全・活用）

課題	住民意見（第1回ワークショップ）		
	湧沸湖の良いところ・魅力	改善したいところ	備考
各種活動	課題・住民、産業活動への取り組みと支援 行政と住民の協働、産学官および多くの主体間同士の連携をはかり、適切な役割分担をするとともに協力体制の確立や支援を行う必要があります。 課題・啓発と普及 流水トラストの促進をよりはかるなど関係者間の意識の向上と連携を高め、専門職員の充実によって適切な情報提供を行うことにより、啓発と普及が必要です。		<ul style="list-style-type: none"> 海と湖を連絡させる潮切りは塩性湿地保全のためにも必要であり、流水トラストの促進や科学的データの積み重ねが大切であると思われる。 地球温暖化への貢献活動として湧沸湖の環境を良くしていく方向で考える。 専門職員を配置させて調査研究を充実させたらどうか。 網走と小清水の連携をはかるべきである。 産学官および多様な主体による連携をはかり、様々な課題に対応する「横断的組織」づくりが必要である。 行政と住民の協働による取り組みを行っていく。

(2) 第2回住民会議結果のまとめ

「湧沸湖及び周辺地域の望ましい姿と取り組みを考えよう！」第1回ワークショップで出された意見をもとに抽出された26課題を軸にして、未来像、取り組み、担い手などについて、話し合いが行われました。

事前の希望に合わせて5つのグループ（主に自然・動物系、植物系、農業系、漁業系、観光・教育系）に分かれ、抽出された26の課題を記入した“視点シート”を各テーブルに配付し、分野（自然、景観、漁業、農業、観光、教育など）別に、未来像（目標）、これがあればいいなあ〜と思う取り組み（施策）、だれが主体で行うのが望ましいかを考えました。

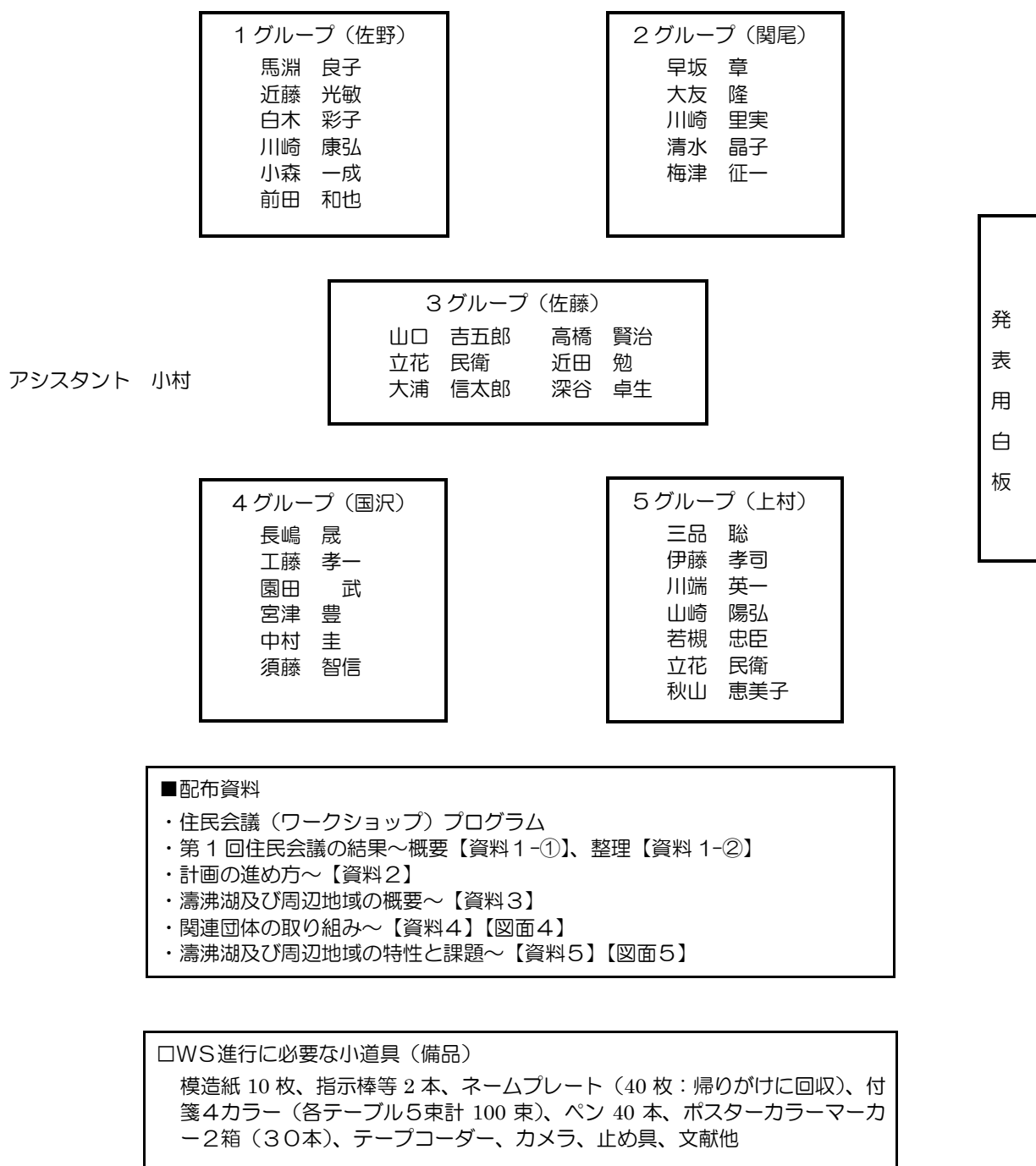
① プログラム

＜湧沸湖及び周辺地域の望ましい姿と取り組みを考えよう！＞

第2回作業工程	作業内容	備考						
受付	各自、グループテーブルに着席。	※受付簿 ※名札配布						
はじめに	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶 第2回ワークショップの趣旨など プログラム（進行）の説明 	<ul style="list-style-type: none"> 目的、会議流れ、進行役紹介、進行上注意する点など… 						
STEP 1	<ul style="list-style-type: none"> 各グループ内で自己紹介 第2回目のテーマの確認 グループ編成 ＜作業開始＞	※①～⑤の⑤グループ＝主な分野 ①自然・動物（野鳥・昆虫）系 ②自然・植物（湖畔・原生花園）系 ③社会・農業（酪農・林業）系 ④社会・漁業系 ⑤社会・観光系						
STEP 2	<ul style="list-style-type: none"> 手元の資料説明 ①湧沸湖の現状と課題、理想像、特徴的なことを踏まえて、各自が望んでいる湧沸湖のあり方や必要な対策・施策などを話していただく。 ②周辺で進んでいる事業や現在の対策、計画などの資料のほかに、各自が知りうる情報を交換し合う。 ③必要な施策をだしてもらい、各ジャンルに整理し、自分たちで出来ること、行政支援が必要なことなどを付箋紙にまとめ、前回と同様に、グループの模造紙に貼り付ける。 結果を整理し、記録する。 結果の記録を終えたら、発表者を決める。 	・視点プレート ※図面に該当箇所に付箋を貼る <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>課題</th> <th>未来像</th> <th>取り組み</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;">□</td> <td style="height: 40px;">□</td> <td style="height: 40px;">□ □</td> </tr> </tbody> </table>	課題	未来像	取り組み	□	□	□ □
課題	未来像	取り組み						
□	□	□ □						
STEP 3	<ul style="list-style-type: none"> 成果発表 ※今日の成果を皆で知らせ合う。 各グループに模造紙をボードに貼りつけ、発表者が説明する。 	手短かに数分で発表する。横に湧沸湖の大版図面の用意をする。						
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> 第2回ワークショップのまとめ 次回開催についての案内 終了挨拶 							

② 参加者配置図

第2回ワークショップ テーブル配置図



③ 概要報告

参加者から出された意見は、濤沸湖と周辺地域の未来像や目標、取り組みの方向と担い手について整理を行いました。以下の表に記します。

ワークショップの写真



資料説明



作業風景 1 班



作業風景 2 班



作業風景 3 班



作業風景 4 班



成果発表 1 班



成果発表 2 班



成果発表 3 班



成果発表 4 班



成果発表 5 班



閉会挨拶



本日の感想

概要報告

取り組み分野と課題	未来像（目標）	取り組み（施策）	担い手(手法)
自然的環境 1.自然景観の保全 2.汽水湖の維持 3.湖の水質、底質保全 4.漂砂対策 5.水環境のモニタリング 6.河川等の整備 7.交流拠点の整備	<ul style="list-style-type: none"> 汽水湖は貴重な自然であり、水位や水質も含めて、本来の姿が維持されていること。 湖に生息する生物をはじめとした健全な生態系が保たれている環境。 湖流入河川を魚類が遡上できる環境であること。 湖畔林がしっかりと保全されている環境であること。 昭和 30 年頃の自然に復元(原生花園は一面の花畑だった)。 観光的、情動的にも核となる拠点施設が必要である。個人写真家の発表の場や鳥類等の観察種やカウント速報に用いる掲示板等を設置する。 補助金を受けて建設する場合も建築物だけでなく有効な人材の登用についても検討する必要がある。 鳥類を中心とした観察施設の設置が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 水環境のモニタリングを行い、異常が発生したら原因を究明して対策を講じる。 現在、湖と海とを連絡している水路を永久的なものとして、汽水湖を維持させる。 湖の生態調査を継続的に実施し、異常が発生すれば、関係機関で協議を行い対策を施す。 落差工に魚道を整備するなど、河川敷地も含めた自然にやさしい川づくりを行っていく。 ゾーニングなどにより湖畔の緩衝帯の保全に取り組んでいく。 何時の時代の自然に近づけるのか基準を定める。 様々な情報を集積し、とりまとめる装置やソフトの検討。 自然についてのプロフェッショナルな人材の配置。 語り部のような解説者の存在。 設置位置、構造、利用形態の検討。 アプローチの構造形式(砂利道、木道等)や利用方法の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> 研究機関 自治体 住民団体 事業者 住民団体 行政 地域住民 旅行者 バードウォッチャー 個人写真家 自治体等 自治体 地域住民

生物的環境	8. 観察施設とアクセスの整備 9. 既存施設のふれあい環境の改善 10. 湖畔の緩衝帯の保全 11. 原生花園の植生保全 12. 淡水魚の生息環境の保全 13. ソーニングの検討 14. 自然生物情報の集積と発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ アッケシソウやヨシ原なども対象とした観察路を兼ねたアプローチについても整備する。 ・ 餌付けによる鳥類の生態保全上の問題と観光利用とのバランスを検討する。 ・ 動植物その他環境に関する情報収集や発信できる体制や施設づくりが必要である。 ・ 学校（幼児～学生）と湖を近づける。 ・ 植生保全や回復のため、野焼きや馬の放牧の継続を検討する。 ・ 湖南岸の立入りや施設整備についての慎重な検討が必要である 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 餌付けの種類や方法の検討。 ・ 鳥類生息密度管理の検討。 ・ 調査等は総合的に東京農大に監修していただく。 ・ 水生昆虫や鱗翅目などの専門家を招聘する。 ・ 特筆すべき環境（シマアオジ、アッケシソウ等）を中心とする。 ・ 地域の自然を体感できるカリキュラムの実施。 ・ とともに風物にもなっていることから同様に進めていく。 ・ 調査結果や専門家の意見等によりソーニングを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ バードウォッチャー ・ 野鳥の会 ・ 漁業関係者 ・ 専門家
社会的環境	15. 周辺景観の保全 16. 公共交通アクセスの充実 17. 漂流ごみの対策 18. その他のごみの対策 19. 既存施設の改善 20. リクリエーション機能の充実 21. 地場産品の地域ブランド化 22. 遺跡・史跡の調査・保全 23. 土砂流出対策 24. 浅化状況のデータの必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英国の自然保護区などの例が示すように、自然に溶け込むような施設整備が施されている状況。 ・ 地域産業と観光が一体となって地域振興を図っていく。 ・ 湖に負荷を与えない環境保全型農業が流域で展開されていること。 ・ 瀧沸湖産のシジミ、スジエビ、ワカサギ、カキなどが地域ブランドとして普及していること。 ・ 水産資源が減少することなく健全に維持されていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建物の屋根の緑化等に取り組み、周囲の自然と調和を図った景観を保つようにする。 ・ 環境に負荷を与えない施設整備に取り組んでいく。 ・ 品目横断的経営安定対策による、てん菜、小麦、澱粉、大豆に対する交付金を追加して、緑肥の生産に充てるようにして、保水力を高める土作りを実施。 ・ 観光客等が地場産品を味わえ、流通や普及への取り組みと宣伝を行っていく。 ・ 漁場環境と水産資源の定期的なモニタリングを行い、湖流入河川における土砂の除去と、流域での土砂発生源対策や流出対策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間企業 ・ 地域住民 ・ 事業者 ・ 行政 ・ 企業 ・ 事業者 ・ 自治体 ・ 研究者 ・ 住民団体
各種活動	25. 住民・産業活動の取り組みと支援 26. 啓発と普及	<ul style="list-style-type: none"> ・ 湖の北岸では適正な植生保全や土地利用が施されている状況。 ・ 国定公園の利用価値が常に評価されており、賢明な利用が施されている状況。 ・ 地域振興への支援と瀧沸湖および周辺における情報の集積・発信が機能してなされていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の民有地を市町が購入して、植生等の保護管理を行っていく。 ・ ナショナルトラスト運動を促進させ、自然保護と賢明な土地利用に努める。 ・ ボランティア・ガイドの養成と活動の充実化を図る。 ・ 総合的に振興のためのアイデアを常に引き出し、情報収集や発信への取り組みと体制を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民団体 ・ 行政 ・ 住民団体 ・ 専門家 ・ 全ての関係者

全体を通して（感想）

第1回目のワークショップで活発な意見をいただき、今回はさらに踏み込んだ形で色々な意見が出されました。それは先ずラムサール条約の趣旨でもある「賢明な利用；ワイズユース」に則った形の方向で、例えば湖岸の土地利用やナショナルトラスト運動のような発想です。

これらをより促進させたり、あるいは地域の拠点である農大との連携を図っていくこと、あと自然のインタープリターの養成（地域の人材）が大切で、学校と湖を近づけていけないといけないなど、地域としての重要な取り組みが投げかけられました。

その他、地産地消や白鳥展望台の有効活用なども意見がだされました。

第3回目ではどのような方策、方法でそれを進めていけば良いのかを話し合うこととなりますが、参加者がそれに向かって進んでいる姿勢が強く感じられました。

④ 第2回住民会議を踏まえた結果

濤沸湖環境保全活用計画の特性(現況)と課題

住民意見を踏まえた課題（その1：自然的環境）

	自然的環境の特性	課題	住民意見（第1回ワークショップ）		
			濤沸湖の良いところ・魅力	改善したいところ	
自然的環境	A.地形、地質 ・小清水原生花園などを含む砂礫によってオホーツク海と隔てられた海跡湖であり、西北側の細い水路によって海につながっており、海水と淡水の交じった汽水湖である。湖面積は9km ² 周囲長30kmで平均水深は1m程度の浅い湖である。（課題全て） ・地質は湖近辺が堆積物による沖積地であり、後背地は火砕流堆積物からなる丘陵性の山地となっている。（課題全て）	課題① 自然景観の保全 濤沸湖周辺からの眺望景観は優れたものがあるが、樹木や草花の減少などにより損なわれよう保全が必要です。 課題② 汽水湖の維持 湖の塩化に伴い海水が奥湾まで浸出して塩分濃度が高まり、淡水域の減少が懸念されます。また海岸においても浸食が進み、湖内への漂砂の流入が進むことから保全対策の検討が必要です。 課題③ 湖の水質、底質保全 土砂などの流入による汚濁・汚染が懸念されているので、水質保全が必要です。底質も生物多様性環境としての適正が求められるため、改善が必要です。 課題④ 漂砂対策 湖塩化の原因のひとつに海からの漂砂による堆積があげられているので、対策を検討する必要があります。 課題⑤ 水環境のモニタリング 湖の水質や水位などの経年変化を把握するためのデータが少ないので、モニタリング調査が必要です。 課題⑥ 河川等の整備 流入河川については、湖と上流の森林との連携が保てるよう整備が必要です。 課題⑦ 交流拠点の整備 濤沸湖と周辺の自然探訪、観光、情報提供、学習など、訪れる人や地域住民の交流拠点（ネイチャーセンター等）が必要です。	・濤沸湖周辺は、オホーツク海と流水、斜里から知床半島等、優れた自然景観が眺望でき、白鳥公園やフレイトイ、平和橋などの、景観スポットに恵まれている。 ・斜里から昇る朝日と、オホーツクへ沈む夕日が、一緒に眺められる魅力がある。 ・火山性の台地が広がっており、道道広域農道を走行中は、変化のある風景を楽しめる。 ・星空が綺麗である。 ・湖と海との連絡水路を開く湖切りは、湖の塩性湿地の保全に役立って、現在の状況では、湖岸へ寄り付ける場所が限られているので、良好な自然が保全されている。	・多くの人々が利用しやすい「ビジター（ネイチャー）センター」を設置して情報の共有や環境教育、観光案内等に使用すること。 ・海との湖切りにより塩性湿地の保全は出来るが、湖が浅いので殆どが海水で占められていく。 ・流域から湖への汚染や土砂の流出が懸念される。 ・原生花園海岸の浸食が進み鳴き砂が見られなくなった。 ・湖の水質悪化が進んでいるのではないが、塩分濃度が高まってきていると推察され、淡水と海水の境界が無くなってきている。 ・湖の水質、水位などのデータが少ないのでモニタリングが必要である。 ・河川においては、浦士別川では蛇行の直線化による河川改修により洪水時下流側で溢水したが、現在では上流側の植林により安定している。 ・丸万川では落差工が連続し、魚類の遡上が困難となっている。 ・湖が塩化で浅くなっており、東側奥まで海水が浸し、淡水域が後退している。 ・海岸浸食が進み、原生花園の砂礫の幅が狭くなっている。 ・水原まで入れる所が限られており、水辺のふれあいに欠ける。 ・自然景観を阻害するような建築物が存在する。 ・湖の周辺では草木や花などが少なくなり、景観が悪化している。 ・ヤマトシジミが採れなくなっている。	
	B.気象 ・年平均気温は6～7℃で8月に最も高く、1～2月が最も低くなる傾向が見られる。降水量は年間約800mmとなりピークは8～9月となる。日照時間は月110～190時間、年間約1,900時間と高い値を示している（平成10年～19年アメダスデータより算出）。（課題全て） ・風況では10月～4月は平均風速3.5m/s以上、北方向からの風が卓越しており、オホーツク海から打ち寄せる波浪が激しくなる。夏季は逆に南方向からの風が卓越する。（課題③、④）				
	C.水象 ・湖への流入河川は南岸からのものに限られており、主な河川は西から東に藻琴山などを源流とする丸万川、オンネナイ川、ウカルシユベツ川、浦士別川、スッポチ川が流入しており、湖畔周辺はそれらが運んだ堆積物によって沖積地が広がり、湿性草原や湖畔林などが成立している。（課題2、③、⑤、⑥）				
	D.水質、底質 ・水質はCOD、SS、T-N、T-Pなどの項目で湖口部より湖奥部で悪い傾向にある。（課題③、⑤、⑥） ・海水の流入で湖内での塩分濃度差が生じている。塩分供給源である湖口からの距離、流入河川の流量の差による希釈率の違いなどがその原因と考えられる。（課題2、③） ・底質は粘土、シルト分が8割から9割と高い。COD、総窒素、総リンなどの含有量は特に湖奥部で高くなっている。（課題③、④、⑤）				
	E.自然景観 ・濤沸湖および周辺地域は、国立公園に指定されており、湖畔の湿原には、ミズバショウやアッケシソウなどの植物群、知床半島や斜里島などを背景にした美しい景観を楽しめる。（課題①、⑦） ・湖の北北東側には、国道を挟んで小清水原生花園があり、そこから高台からは、オホーツク海と濤沸湖の双方を展望できる。（課題①、⑦） ・湖の西北西側の湖口付近には白鳥公園があり、白鳥が飛来する時期には多くの人々が訪れるなど、季節の移ろいや風景の美しさから景観面で見るとべきものが多い。（課題⑦）				

住民意見を踏まえた課題（その3：社会的環境）

社会的環境の特性		課題	住民意見（第1回ワークショップ） 改善したいところ	備考
社会的環境	<p>E. 観光、イベント、環境教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光面では「東オホーツクハイウェイ」が推進され、知床から網走にかけての観光資源を有機的にむすびついで地域の活性化を図ろうとする活動により観光のある観光の確成が行われることが期待される。（課題⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬） 網走国立公園の園地への入込み者数の近年のデータでは毎年100～150万人の利用者がカウントされている。主に呼人浦や仙崎内などは近年その数を増大させているが、対して濁流湖を訪れる人数は、最近4年間で6割減となり10万人を切っている状況である。（課題⑭、⑮） 濁流湖に隣接する観光施設として小清水原生花園（インフォメーションセンターHanaを含む）、白鳥公園があげられる。（課題⑯、⑰、⑱） 小清水原生花園は年間入込み者数80万人を数え、国立公園の園地全体の半分以上を占める。（課題⑲、⑳） 白鳥公園では秋に4～5千羽の白鳥が飛来、そのうち数百羽が越冬する。オオカワチヨウなどが隣近に見られ、照ちえられることから人気が高く、平成14年から平成17年までは年間10万人に近い入込みがあったが平成18年度は64,000人と減少している。（課題㉑、㉒、㉓） 環境教育として網走市では野鳥観察会、自然観察会の実施及びひもろムサールへの支援等、小清水町でも共催の野鳥観察会、小清水原生花園でのこめ拾いや火入れなどを継続して行っている。（課題㉔、㉕） 		<ul style="list-style-type: none"> 湖沼化の原因には、海からの漂砂と河川からの土砂が湖に入り堆積が進んでいること、牧草地等が湖に近接していることがあり、湖の高瀬や土砂流入が行われていると考えられる。 湖の浅化が進み現在は最大水深1.4m、平均水深0.7mほどになっていると言われているが、この件に関しては殆どデータが不足している。 現状は海水を引き入れるための灌漑が抑られているが、それ以外はカヌーが盛につき、シギが歩けるほどの浅化が見られる。 流入河川の河口付近に土砂が堆積し、ワカサギ孵化場や朝魚捕獲に影響をおよぼしている。 	

住民意見を踏まえた課題（その4：各種活動（保全・活用））

社会的環境の特性		課題	住民意見（第1回ワークショップ） 改善したいところ	備考
各種活動	<p>A. 保全と再生の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 下水道や合併処理浄化槽の普及や畜産排水の管理 農地の施肥管理や土砂流出防止のための監視や指導など 森林の整備 湖沼内における植生管理（ヨシ原や湖畔林等） 原生花園への火入れ ヒオウギヤマヤマ回復のための馬の放牧 流入河川の水質調査 ハクチョウ繁殖地（全湖カウント） 湖口の潮切り、灌漑の復元、河口部の土砂排出 <p>（課題⑳）</p> <p>B. 啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 周知住民などに湖の浄化に関する意識の高揚を促進、およびそれらにつながる環境学習、教育など。 自然観察会、野鳥観察会の開催 <p>（課題㉖）</p>	<p>課題㉗ 住民・産業活動の取り組みと支援</p> <p>行政と住民の協働、産学官および多くの主体間対立の連携をほかり、適切な役割が担うと共に、産方体制の確立や支援を行う必要があります。</p> <p>課題㉘ 啓発と普及</p> <p>流木トラストの促進をよりはかるなど関係者間の意識の向上と連携を高め、専門機関の充実によって適切な情報提供を行うことにより、啓発と普及が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海と湖を連絡させる潮切りは塩性湿地保全のためにも必要であり、流木トラストの促進や科学的データの積み重ねが大切であると思われる。 地球温暖化への貢献活動として濁流湖の運搬を良くしていく方向で考える。 専門機関を配置させて調査研究を充実させたらどうか。 網走と小清水の連携をはかるべきである。 産学官および多様な主体による連携をほかり、様々な課題に対応する「横断的組織」づくりが必要である。 行政と住民の協働による取り組みを行っていく。 	

(3) 第3回住民会議結果のまとめ

「濤沸湖及び周辺域の重視すべき取り組みと進め方を考えよう！」第3回目のワークショップは、2回目のワークショップで出された望ましい姿と取り組みを踏まえて、重視する取り組みと重点的に取り組む事項を整理しました。

前回の希望に合わせて5つのグループ（主に「自然・動物（野鳥・昆虫）」、「自然・植物（湖畔・原生花園）」、「社会・農林業」、「社会・漁業」、「社会・観光・教育」）に分けて話し合いを行いました。

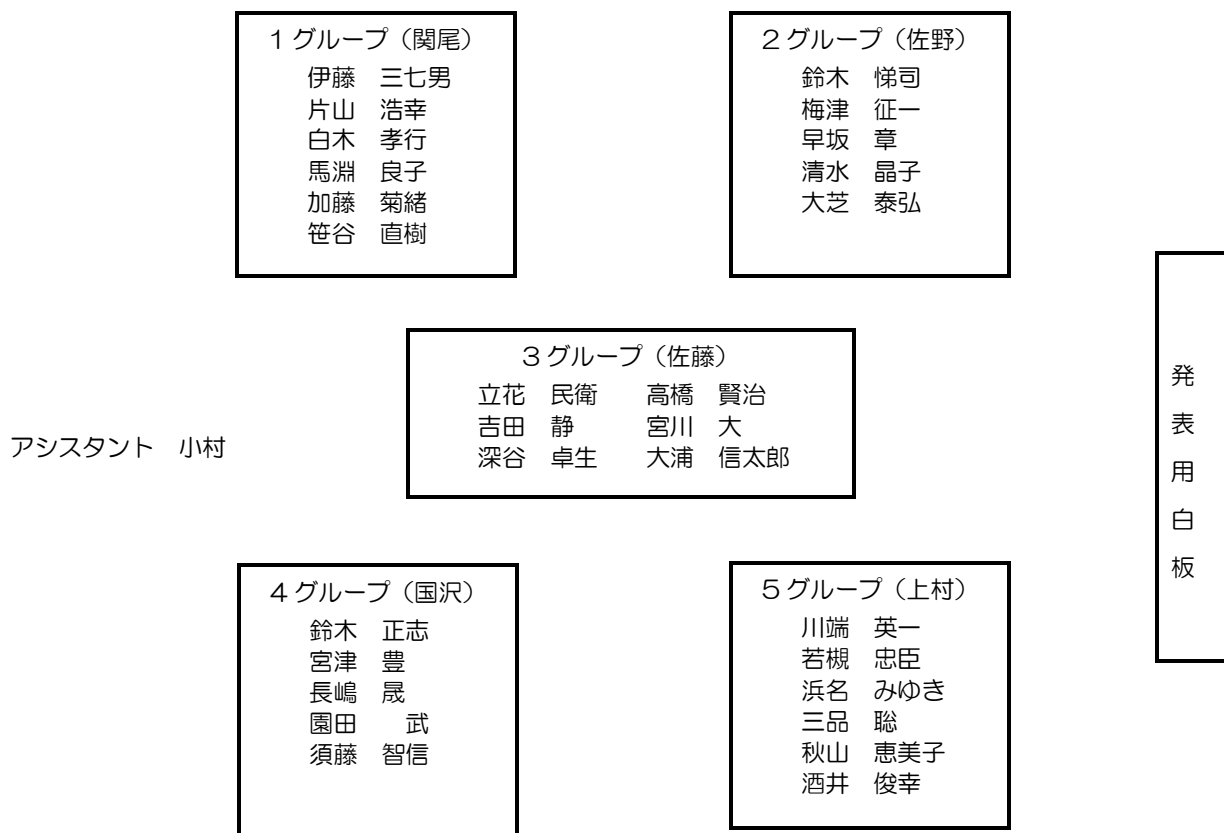
① プログラム

＜濤沸湖及び周辺域の重視すべき取り組みと進め方を考えよう！＞

第3回 作業工程	作業内容	備考						
受付	各自、グループテーブルに着席。	※受付簿 ※名札配布						
はじめに	・挨拶 ・第3回ワークショップの趣旨 ・前回の結果（まとめ）報告 ・手元の資料の説明を行う ・プログラム（進行）の説明	目的、プログラム ※配布資料 進行役紹介、進行上注意する点など						
STEP 1	・各グループ内で自己紹介 ・第3回目のテーマの確認 <作業開始>	※①～⑤の⑤グループ=主な分野 ①自然・動物（野鳥・昆虫）系 ②自然・植物（湖畔・原生花園）系 ③社会・農林業（酪農・林業）系 ④社会・漁業系 ⑤社会・観光系 ※計画概要、分野別未来像・取り組みについて『資料（図面付）』を配付。						
STEP 2	・手元の資料説明 ①濤沸湖と周辺域について、特性（現状）と課題を踏まえて、各自が最も望むあり方（未来像）を話していただく。 ※【資料3-①】未来像（理念、目標、展開方向） ②濤沸湖と周辺域の未来について、課題を解決し、望ましい姿を実現するため、どのような展開方向（対策）や取り組みが必要か、効果が期待できる進め方の意見をとりまとめる。 各地の事例や濤沸湖と周辺地域で進む取り組みを確認し、各自が知りうる情報を交換しあい、重要な取り組みと担い手を付箋紙に記入する。 ※【資料3-②】未来像【事例集】 ③未来像を確認し、重要な取り組み、各事例を分野（項目）別に整理し、中心となる主体、自分たちができること、組織の支援が必要なことなどを付箋紙にまとめ、前回と同様に、グループの大きい図面（模造紙）に貼る。 ※【資料4-①】概要【資料4-②】取り組み図 ・全体の意見とりまとめ、成果を確認する。	・参考資料 ※【資料2】濤沸湖と周辺域の概要 ※【資料4-①】計画の概要 ※【資料4-②】分野別取り組み図を活用し、 <u>重視する項目は、付箋の添付や線を引く</u> ※図面に該当箇所に付箋を貼る <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>未来像</th> <th>取り組み案</th> <th>手法事例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□ □</td> </tr> </tbody> </table> ※【資料3-②】未来像【事例集】	未来像	取り組み案	手法事例	□	□	□ □
未来像	取り組み案	手法事例						
□	□	□ □						
STEP 3	・各グループの図面（模造紙）をボードに貼りつけ、発表者が説明する。	※手短に4分以内で発表する。						
挨拶	本日の感想とまとめ 挨拶							

② 参加者配置図

第3回ワークショップ テーブル配置図



■ 配布資料

- ・ 住民会議（ワークショップ）プログラム
- ・ 第2回住民会議の結果～概要【資料1-①】、整理【資料1-②】
- ・ 濤沸湖及び周辺地域の概要～【資料2】
- ・ 濤沸湖及び周辺地域の未来像（理念・目標・展開方向）～【資料3-①】
- ・ 濤沸湖及び周辺地域の未来像【事例集】【資料3-②】
- ・ 計画（原案）－概要～【資料4-①】※概要、展開方向と取り組み図
- ・ 計画（原案）－分野別の未来像（目標、展開方向）、取り組み、担い手【資料4-②】

③ 概要報告

参加者は、これまでのワークショップなどで整理された取り組みから、緊急性、独自性、総合性があると考えられるものを選び、重点事項として取りまとめました。以下の表に記します。

ワークショップの写真



開会挨拶



資料説明



作業風景 1 班



作業風景 2 班



作業風景 3 班



作業風景 4 班



作業風景 5 班



成果発表 1 班



成果発表 2 班



成果発表 3 班



成果発表 4 班



成果発表 5 班

概要報告

取り組み分野と課題	重視すべき取り組み (緊急性、独自性、総合性)	効果的な手法	担い手
自 然 的 環 境 1.自然景観の保全 2.汽水湖の維持 3.漂砂対策 4.湖の水質、底質保全 5.水環境のモニタリング 6.河川等の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺環境に配慮した水環境の確保（緊急性、独自性） ・保全すべき土地の確保と管理（緊急性） ・景観意識の向上に向けたイベントの開催（緊急性） ・流入河川沿いにおける植生保全の実施（緊急性・独自性） ・自然と調和した川づくりの推進（緊急性、総合性） ・農山漁村景観の保全（独自性） ・漂砂などによる堆積の防止（緊急性） ・住民、研究機関と連携した監視（緊急性）（総合性） ・流入河川の水質調査と改善（緊急性、独自性） ・水環境の継続的なモニタリングの実施（独自性、総合性） ・自然景観資源調査の実施（緊急性） ・保全すべき生態の保全と再生（独自性） ・底質など地形の経年変化の調査（緊急性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と調和した川づくりの推進。 ・重要な土地についてはナショナルトラストなどの手法により取得。 ・自然景観に親しむ環境教育の場の創出。 ・多様な主体の連携による湖畔林とヨシ群落の保全再生。 ・河畔林の保全、整備、落差工への魚道設置。 ・地域を象徴する景観保全策検討。 ・原因の明確化、流入対策による塩分濃度の上昇抑制。 ・地域住民を含む多様な主体で自然環境を監視。 ・調査がなされていない箇所の調査を実施し、改善策を検討。 ・住民から行政まで連携して継続的に実施。 ・専門家が調査項目を検討し、調査は地域住民を交えて実施。 ・資源調査と再生目標決定。 ・専門家と漁業関係者が協力し、原因を含め調査を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、NPO、漁組、行政、研究機関 ・住民、企業、行政 ・住民、企業、行政 ・住民、漁協、行政、研究機関 ・住民、森林組合、行政、研究機関 ・住民、企業、国、道、市町 ・漁協、行政、研究機関 ・住民、漁家、漁協、国、道、市町、研究機関 ・住民、企業、国、道、市町、研究機関 ・行政、研究機関 ・住民、研究機関、行政、学校 ・住民、研究機関、行政、学校 ・漁協、研究機関、行政

生物的環境	<p>7.交流拠点の整備 8.観察施設とアクセスの整備 9.ふれあい環境の改善 10.既存施設の改善 11.ゾーニングの検討 12.湖畔の緩衝帯の保全 13.原生花園の植生保全 14.淡水魚の生息環境の保全 15.自然生物情報の集積と発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・緩衝帯の保全への取り組み（緊急性、独自性） ・木道や小屋など、多様な観察施設の整備（独自性、総合性） ・地域の核となる拠点施設の整備（独自性、総合性） ・観察施設計画の策定（独自性） ・在来植生の再生（緊急性、独自性） ・多様な情報の体制づくり（独自性） ・自然環境の調査の実施（独自性） ・原生花園をとりまく海岸保全（独自性、総合性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生調査の実施。 ・湖岸の植生調査の実施、植生分布の定量化。 ・放牧馬が通行可能な国道から湿地までの木道計画。 ・野鳥観察施設と博物館の機能を持つネイチャーセンターの建設が必要。 ・自然環境への影響を最小限に抑える施設整備方法の検討。 ・植物調査の実施とネナシカスラの除去。 ・情報の近隣住民への開示による意識と知識の向上を図る。 ・地域の生物環境の実態把握。 ・海岸侵食対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、NPO、行政、研究機関 ・住民団体、企業、事業者、行政、研究機関 ・住民、行政、研究機関 ・住民、NPO、国、道、市町、研究機関 ・住民、行政、研究機関 ・住民、NPO、企業、国、道、市町 ・住民、NPO、道、市町、研究機関 ・企業、行政、研究機関
社会環境	<p>16.周辺景観の保全 17.公共交通アクセスの充実 18.レクリエーション機能の充実 19.地場産品の地域ブランド化 20.土砂流出対策 21.浅化状況のデータの必要性 22.漂流ごみの対策 23.その他のごみの対策 24.遺跡・史跡の調査保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・流下土砂調査と抑制対策検討（緊急性、独自性） ・交通手段の多様化（独自性） ・特産品の開発（独自性） ・環境保全型農業の実践（緊急性） ・環境に配慮した開発行為（緊急性） ・環境に配慮した廃水対策（緊急性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・土砂の発生源調査、流出対策、融雪出水対策、風害対策、森林整備、費用捻出等の検討。 ・原生花園中心部と瀧沸湖岸を結ぶ安全な連結方法の検討。 ・地元作家の手による文化的なお土産を開発。 ・緩衝地帯による耕地からの土砂流出防止、農地の保水力を高める土づくりの実施。 ・土砂流出を誘発する農地開発、林地開発等を行わない。 ・土砂堆積や水質悪化の原因となる発生源対策に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農家、農協、森林組合、企業、行政 ・行政 ・住民、行政、企業 ・農家、農協、国、道、市町 ・農家、林家、農協、林組、国、道、市町 ・農家、農協、企業、国、道、市町
行動環境	<p>25.住民・産業活動の取り組みと支援 26.啓発と普及</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全の多様なネットワークの形成（緊急性、独自性、総合性） ・湿原の価値の認識と啓発（独自性、総合性） ・環境学習機会の場の創出（緊急性、総合性） 	<ul style="list-style-type: none"> ・瀧沸湖ファンクラブや環境保全活動の調整機関設置、利害調整ができる人材育成、ボランティア活動への支援。 ・ワズユースを重点施策にした取り組み、資金の循環、湿原の価値の評価と啓発方法検討、自然ガイド本の発行。 ・産学官および地域住民の連携による住民の学習機会の創出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民、住民団体、企業、行政、研究機関 ・住民、住民団体、企業、行政、研究機関 ・住民、住民団体、企業、行政、研究機関、学校

全体を通して（感想）

第3回目のワークショップは、今まで出されてきた意見の重点的な部分を取り上げて、誰がどのように進めていけばよいかを話し合うことで、予想を越えて良い提案等が出てきたと思います。それを緊急性があるものから、独自性や長年の調査をかけて取り組んでいく総合的なものまで、サステナブルに持続させていく自然保護とワズユース、そして地域の活性化を循環させていく、という方向に落ち着いたのではないかと思います。ネイチャーセンターやファンクラブ、学校教育と小中学生の参加、地域の人材の養成、トラスト運動、資源調査など次々と重要なキーワードが生まれてきたように感じられます。これらをどのように推進させていくか、皆様のおかげでほぼ保全と賢明な利用の計画の方向性が見えてきたと思います。

④ 第3回住民会議を踏まえた結果

濤沸湖環境保全活用計画一分野別の未来像（目標、展開方向）、取り組み、担い手

1. 自然環境

未来像（目標）

美しい景観を形成している自然環境と生息する貴重な生態系を大切な資源として保全し、次世代に継承します。また、自然景観に親しむ多様な取り組みを進めるほか、汽水湖の維持を図るため、水源地の確保や自然と調和した川づくりなどを進めます。

項目	課題（住民会議を基に提示）	未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）	担い手（推進主体）		
					住民・住民団体	民間企業・事業所	行政・研究機関
自然環境 景観 湖沼 水質 地形 河川	1) 自然景観の保全 ⇒	◆重要な自然景観資源の保全と再生 重要な景観資源である湖畔林や草花類、海岸線などを保全する。 ・湖畔林や原生花園等の植生が常に保全され、良好な景観が保たれている。 ・湖の周辺は眺望景観に優れている。 ・科里岳から昇る朝日とオホーヅク海に沈む夕日を堪能できる。	■自然景観資源調査の実施 湖畔林や植生などの調査を行い、保全すべき資源を特定する。 ・景観スポットの整備（アクセス舎）を施して、良好な景観のPRをさらに推進する。 ■保全すべき土地の確保と管理 重要な生息地は、トラスト運動などにより、土地を確保する。 ■保全すべき生態の保全と再生	⇒ ●各種自然（地形、地質、水質、景観要素等）調査の実施 ・自然環境調査のデータ蓄積が必要である。 ●景観計画区域の指定の検討 △専門家、行政による保全区域の検討、鳥獣保護区、自然公園区域の見直し。 ・専門家が調査項目を検討し、調査は地域住民を交えて行う。 ⇒ ●トラスト（里親）制度の推進と適正な管理 ●植生等の保護管理 住民団体やNPO等が主体となり、現在の民有地を市町が購入し、植生等の保護管理に努める。 ・トラスト運動、里親運動の促進による重要な植生などの繁栄地の確保と保全。 ・濤沸湖と国道にはさまれた湿地部分など私有地でありながら重要な土地についてはナショナルトラストなどの手法により取得を図る。 △土地利用や立ち入り区域のゾーニングの検討、指定区域の見直しを図るなど保全区域の検討をする。 ☆トラスト運動の促進。（御路湿原、霧多布湿原など） ⇒ ●塩湿性植物の保全と再生 ●森林や防風林などの整備と管理 ○植林・苗木育成への協力（網走市・小清水町） ○原生花園での火入れ事業とごみ拾い（小清水町） ○放牧場によるヒオウギアヤメ群生再生実験（網走支庁） ○能取地区海岸防災林造成事業（網走市森林組合） ・ヤチダモやハンノキなど郷土樹種の植林を主体に実施し、現地産の種子を用いて地元で生産した苗木を植栽する。 ☆霧多布湿原ファンクラブ、トラストサラン御路、知床1m2運動など（各自治体、NPO） ・資源調査の結果を踏まえ、何時の時代の生態に再生するか決定する。保全活動は、住民から行政まで連携して実施する。	●住民 ●住民 ●住民、NPO、NGO ●住民、NPO、NGO	●企業 ●企業 ●企業	●国、道、市町、大学 ●国、道 ●市町、大学 ●市町
					凡例	●事務局案 △策定委員会 ・ワークショップ	■事務局案 ・ワークショップ

2. 生物環境

未来像（目標）

生態系と現在脅かされている自然環境を調査し、動植物と生息地の保護と再生を図ります。また、地域の核となる拠点施設を整備や多様なふれあい空間を創出し、住民、関係団体、教育機関、事業者などが自然保護への共通認識を深めるなど、連携と交流を進めます。

項目	課題（住民会議を基に提示）	未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）	住民・市民団体	民間企業・事業所	行政・研究機関
生物環境	7) 交流拠点の整備 ⇒	◆ 地域の核となる拠点施設の整備 ・ 自然環境を調査研究し、動植物とふれあい、地域の人々が交流する場を確保する。 ・ 観察施設等を整備されていて、自然観察や教育のための利用が行われていること。	■ 観察施設計画の策定 ・ 動植物の状況調査や観察ルートに関する調査を行い、適切な施設の配置を計画する。 ■ 水島・湿地センターの整備 ・ 調査用のイメージに相応しい施設の建設 ■ 人材の配置と養成 ・ プロフェッショナルな人材の配置、インタープリター等の養成および解説者を置き、人々の意識の啓発と普及に努める。 ■ 自然環境調査の整備 ・ 生物環境に関する科学的データが必要	⇒ ● 観察施設目的、整備概要、運営体制などの検討 ● 動植物の状況調査や観察ルートの調査を行い、適切な施設配置を計画する。 ・ 野鳥観察とともに博物館の機能も持たせたネイチャーセンターを建設する。 ・ 自然環境への影響を最小限に抑える施設整備方法を検討する。 ⇒ ● 水島・湿地センターの整備と運営 ● 運営に対する協力と支援 ● 専門員、ボランティアガイドの育成 ● 環境教育の整備 ○ 北海道アトラクトアガイド資格制度（道） ⇒ ● 多様な主体による自然環境調査の整備 ☆ ガン、カキ観察団（国） ・ 野鳥の観察団、新、創団体の存在など動植物の詳細調査を実施し、地域の生物環境の改善を図る。	● 住民、NPO	● 企業	● 国、道、市町
魚類	8) 観察施設とアクセスの整備 ⇒ 9) ふれあい環境の整備 10) 既存施設の改善 11) ソーニングの検討	◆ 多様なふれあい施設とアクセスの整備 ・ 野生生物にやさしいふれあい環境を創出する 上共に、常にクリリーンな環境整備を行う。 ・ 調査時には種類が豊富な鳥類を中心とした観察施設を整え、湖岸の植物なども対象とした観察施設を兼ねたアプローチを整備する。 ・ 既存施設のふれあい環境において、水島の豊富な生態系などを改善する。	■ 水島や小島など、多様な観察施設の整備 ・ ソーニングの検討などにより、立ち入り可能区域に部分的に設置する。 ・ 鳥類と調和した湖岸の遊歩道を計画する。 ・ 観察施設およびアクセスの整備は必要最小限にするよう取り組んでいく。 ■ ふれあい環境の環境衛生と安全の確保 ・ 餌付けの規制や方法、鳥類生息密度管理等、多角的な検討を行い適切な管理を行う。 ・ 餌付けは鳥類の生態系全上の問題と観光とのバランスなどを検討する。	⇒ ● 観察しやすい空間の整備 ● 既存施設の整備改善 ● 施設を利用した各種観察会の実施と交流の推進 ☆ マガンから人の見えない施設見学場所の限定(区海部) ・ 設置位置、構造、利用方法や形態の検討を行い、動植物や鳥類への影響をより少なく出来るように配慮する。 ・ 湖岸までのアプローチに固道から木道を計画し、敷設路がくぐれるよう検討していく。 ・ 湖底に木道を設置し、アクセスと観察路を兼ねる。 ● 餌付けの方法などの検討 ● 正しい餌など衛生設備の確保 ● 専門家による指導体制の構築 ☆ 川に入るカヌーと担当の運送事故を防ぐために水島・湿地センターで予約・人数制限(厚岸町) ・ ふれあい環境を創出させるための無埋込砂木や枯樹は控え、水島などが1箇所片寄ることなく湖全域に分布できるように配慮する。 ・ 設置位置、構造、利用方法や形態の検討を行い、動植物や鳥類への影響をより少なく出来るように配慮する。	● 住民、NPO ● 住民、自治会、NPO ● 住民、NPO ● 住民、NPO	● 企業 ● 企業 ● 企業	● 市町、学校 ● 市町、学校 ● 市町、学校
凡例	◆ 事務局案 △ 策定委員会 ・ ワークショップ	■ 事務局案 ・ ワークショップ	● 事務局案 ○ 現状で行っているもの ・ ワークショップ △ 策定委員会 ☆ 各地の参考事例			● 事務局案	

項目	課題（住民会議を基に提示）	未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）	住民・住民団体	民間企業・事業所	担い手（推進主体）
生物環境	12) 湖畔の植生帯の保全 湖畔の植生帯は湖と陸との移行部として、生態的にも水質浄化などにも重要なゾーンであるので、保全を行う。 ・湖畔林が良好に保全されている環境であること。 ・昭和30年代の自然を再生目標として取り組みでいく。	■重要な植生帯への取り組み 湖畔エリアの調査を行い、生物の重要な繁殖・生息地、土砂流出の緩衝帯、水質浄化の機能を果たしているところを優先的に保全を施していく。 ・湖周囲における保護や立ち入りに関するゾーニングを行い、ヨシ原や湖畔林の保全に努める。 △指定区域の再検討を行い、社大等を検討して植生帯の保全に取り組む。	⇒ ●指定区域の見直しとゾーニングの検討 ●専門家による緩衝帯の調査 ●植生・樹林活動の実施と緩衝帯の取組 ○多面的機能を持続的に発揮させるための森林整備と管理（湖西市） ○針葉樹、広葉樹のバランスのとれた森林づくり（湖西市） ○植樹活動への参加（湖西市各事業所） △土地所有者の理解と協力を得るための普及啓発（湖原） △保全協定締結や買上げ制度の拡充（湖原） ・湖畔林が衰退しているエリアなどは、ヤナタモやハンノキなど郷土産種の植林を実施し、現地の種子を用いて地元で生産した苗木を植栽する。 ・トラスト運動の促進や指定区域の見直しを図る。 ・調査だけでなく、普通層も保護しながら全体の生態系を保全する取り組み。 ・湖の原生調査を実施し、現在分布の変化を定量的に加算する。 ●外来種を除去し在来種の保全と再生を行う。 相互調査を実施し、自然の保護と再生、外来植物種対策をしながら取組を進める。 ●野焼きなど保全と再生への参加 ●保全・再生計画づくりの検討 ●専門家・研究機関による再生手法の検討 ○火入れや刈草、試験的植栽の実施（湖西市） ○火入れや刈草、試験的植栽の助けを借りて原生保全を行っている。 ○原生花園火入れ事業（小清水町） ○ヒオウギアヤメ群落の再生（湖西市） ○道筋沿面への植樹（湖西市） ・ネカシカズラの除去を行う。 ・土壌調査や現地調査による植物調査を実施し、原生花園の健全変化や現状を明らかにする。 ・落葉層食対策 ●湖の生態調査 ●保全と再生への協力と参加 ○能取湖のアッケシソウ保護・育成（湖西市） ○湖と湖周辺の水芭蕉群落等、貴重な水辺植生の保全（湖西市） ○ワカサギの孵化と静脈活動（湖西市） △関係機関が連携し継続的なモニタリング調査（湖原）	●住民、NPO ●住民、NPO ●住民、NPO	●企業 ●企業 ●企業	●市民、大学 ●市民、大学	
14) 淡水魚の生息環境の保全	●湖の生態系の保全 湖に生息する生物をはじめとした健全な生態系が保たれている環境を保全する。	■湖の生態系調査の実施と対策 湖の生態調査を継続的に実施し、調査が実施すれば、関係機関で協議を行い対策を講ずる。 ・夜化や水質など湖の問題点を明らかにするため、継続的な調査を実施しながら取り組んでいく。	⇒ ●湖の生態調査 ●保全と再生への協力と参加 ○能取湖のアッケシソウ保護・育成（湖西市） ○湖と湖周辺の水芭蕉群落等、貴重な水辺植生の保全（湖西市） ○ワカサギの孵化と静脈活動（湖西市） △関係機関が連携し継続的なモニタリング調査（湖原）	●住民、NPO ●住民、NPO	●企業、他協 ●企業	●国、道、市町、大学 ●国、道、市町、大学	
凡例	◆事務局案 △策定委員会 ・ワークショップ	■事務局案 ・ワークショップ	●事務局案 ○現状で行っているもの ・ワークショップ △策定委員会 ☆各地の参考事例	●事務局案			

項目	課題(住民会議を基に提示)	未来像(展開方向)	取り組み(施策案)	手法(事例)	担い手(推進主体)		
					住民・住民団体	民間企業・事業所	行政・研究機関
15) 自然生物情報の集積と発信	⇒ ◆情報の収集と発信 交流拠点においては自然生物情報に関する情報の集積と発信が行われている。 ・地域に動植物その他環境に関する情報収集や発信できる体制が整っている。	⇒ ■多様な情報の体制づくり 動植物に関する調査を日常的・継続的にを行い、交流拠点や観察舎などを活用して情報を収集し、地域に発信、公表できる体制づくりを行う。 ・交流拠点の整備と役割、体制づくりに取り組みながら進めていく。	⇒ ◆情報の体制づくりへの参加と協力 ◆各分野の専門家の相談および解析 ☆関係機関の連携による種会や媒体を通じての普及啓発活動の推進(復原) ☆専門の人材確保、研究者への支援(宮島泊) ・調査等は総合的に東京農大が監修し、専門家を招聘しながら進めていく。 ・産地の産地責任者への開示による原産と知識の向上を図る。	⇒ ●住民、自治会 ●住民	⇒ ●企業 ●企業	⇒ ●市町、大学 ●市町、大学	
凡例	◆事業局案 △策定委員会 ・ワークショップ	■事業局案 ・ワークショップ	●事務局案 ○現状で行っているもの ・ワークショップ △策定委員会 ☆各地の参考事例	●事務局案	●事務局案	●事務局案	

3. 社会環境

未来像（目標）

自然環境の恵みと賢明な利用方法を確立し、自然と調和した景観づくりと交通アクセス、環境共生型の産業活動を並行して活用します。また、地域ブランドによる特産品や自然体験メニューの充実による観光振興などを進め、ごみのない湖畔環境と史跡などの保全を進めます。

項目	課題（住民会議を基に提示）	未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）	担い手（推進主体）	
					住民・住民団体	民間企業・事業所
社会環境 1) 観光産業交通 2) 景観等	16) 周辺景観の保全 ⇒	◆自然と調和する景観づくり お道や湖と一体となった景観づくりに努め、美しい景観が多く見られるよう周辺景観の保全を行う。 ・景観ポイントの整備（アクセス含む）と保全が図られている。	■自然と調和の取れた施設整備 周囲の自然に溶け込むような施設整備を施し、まわりの景観と調和がとれるようにする。 △観光要素も取り入れた施設整備に取り組みでいく。 ・英国の自然保護区などの例が示すように、自然に溶け込むような施設整備に取り組んでいく。	⇒ ●公共施設などの緑化と景観改善 ○既存施設の景観改善、建物の高さ制限、緑地の緑化などを行う（調走市）。 ○湖畔の牧舎屋根の緑化（小清水町） ○調走市まち美化サポーターなど（調走市） ○白鳥台公園の高台など（調走市） ○天都山への緑化（JAオホーツク調走） ○看板や外壁等の景観への配慮（企業4社） ○本道沿道の看板規制、誘導（調走市） ○景観維持のための築屋の撤去（JAオホーツク調走） ・建物の屋根の緑化等に取り組み、周囲の自然と調和を図った景観を保つようにする。 ・景観スポットの整備と保全を行い、広域PR活動を行う。 ・建造物が景観を阻害している所がある。	●住民	●企業
	17) 公共交通アクセスの充実 ⇒	◆公共交通基盤の整備 地域の公共交通アクセスの充実をはかり、多くの人に自然とのふれあいの機会を提供する。 ・公共交通による湖へのアクセスの充実がはかれ、より多くの人が豊かな自然とのふれあいや景観を満喫できる。	■交通手段の多様化 既存の交通経路の活用と改善、新規の方式の開発などを行い取り組んでいく。	⇒ ●交通体系や既存施設の改善 ・自転車、フロッコリ、DMVの活用を検討しながら進めていく（調走市）。 ・国道を挟んで周生花園と調走湖畔の安全を確保するための植樹施設、冬季用の駐車場やトイレの開放等検討しながら進めていく（調走市）。 ・道の駅での修繕、加工、販売機能の充実 ・周生花園中心部と調走湖畔を結ぶ安全な連絡方法の検討。	●企業	●市町
凡例		◆事務局案 △策定委員会 ・ワークシヨップ	■事務局案 ・ワークシヨップ	●事務局案 ○現状で行っているもの ・ワークシヨップ △策定委員会 ☆各地の参考事例		●事務局案

項目	課題(住居会議を基に提示)	未来像(展開方向)	取り組み(施策案)	手法(事例)	担い手(推進主体)		
					住民・住民団体	民間企業・事業所	行政・研究機関
社会環境	18) レクリエーション機能の充実に 実	◆自然体験メニューの充実 湖の賢明な利用と水辺体験機会を増やすため、レクリエーション機能を充実させる。	■陸水空間体験や滞在をまじも観光の推進 親水性のある河川整備と合わせて観光に資する利活用方法を検討する。 ・観光ゾフト面での充実を図った整備を推進させていく。	⇒ ●道内のイベント調査と湖河川整備 四季に渡って道内各県で行われている催しなどを参考として、活用方法を検討する。 ○地域の魅力のPR (オホーツク21世紀を考える会) ☆厚岸湖・別荘地舟川のカヌー、霧多布湖沼、秋田川のカヌーなど(厚岸町) ☆何事湖のスケートマラソンなど(雄勝市) ・夏のカヌーや冬の水上スケート利用などを検討していく。 ・遊覧型から滞在型観光への転換をはかることにより、レクリエーション機能や関連商品生産を充実させる。 ●親水と環境に配慮した河川整備 ○根水性をもった水辺づくり(網走市) ○網走川下流の水辺の公園化(網走市) ○網走川水辺プラザ事業(網走市) ○網走川沿いの湖畔公園、オーロラターミナル、ヨットハーバー、緑地の整備(網走市) ○河川の浄化イベント(網走商工会議所)	●企業 ●市民	●行政・研究機関	
	19) 地産産品の地域ブランド化	◆環境に配慮した産業振興 環境に負荷を与えない産業の展開をはかる。	【漁業】 ■資源管理型漁業の推進 水産資源の適正な個体数についての調査、評価を行い、資源の維持安定対策を検討する。 ・水産資源などが減少することなく、将来にわたって持続的に維持させていく取り組み。 ■つくり置てる漁業の推進 地場産魚介類の増殖手法を確立し、個体数の維持と安定供給に努める。 ■遊漁環境の保全と多面的利用 漁業者、釣り愛好家の双方が魚場を持続的に利用するための施設整備および制度整備を行い、環境についての啓発を行う。 ■水産物の高付加価値化 地場水産物のブランド化に向けた研究、販路拡大のための普及活動を行う。	⇒ ●関係機関による資源動態調査の実施 ●資源評価手法の開発 ●資源の維持安定対策の検討 ○新網走市水産振興計画に基づく安定した漁業の継続(網走市) ●ホタテガイ、サケ、マス、ニシン等の増殖手法の検討 ○網走湖のおかさぎの人工孵化、放流(西網走漁業協同組合) ●魚場環境保全の啓発普及と救済会の実施 ⇒ ●地産地消の推進による地域内消費の拡大 ●水産物の高付加工の研究、研修に対する支援 ○網走白根の水産物「活きゆき了身」の選定(網走市) ○水産加工フェスティバルの開催(網走市)	●漁家、漁協 ●漁家、漁協 ●漁家、漁協 ●漁協 ●漁家、漁協 ●漁家、漁協、企業 ●市民、漁協、企業	●市民、試験場、大学 ●市民、試験場、大学 ●市民、試験場、大学 ●市民、試験場、大学 ●市民、試験場、大学 ●市民、試験場、大学	
凡例		◆事務局案 △策定委員会 ・ワークショップ	■事務局案 ・ワークショップ	●事務局案 ○現状で行っているもの ・ワークショップ △策定委員会 ☆各地の参考事例	●事務局案		

項目	課題（住民会議を基に提示）	未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）	住民・住民団体	担い手（推進主体）	民間企業・事業所	行政・研究機関	
社会環境 観光 産業 交通 近代化等		◆環境に配慮した産業振興	<p>【農業】</p> <p>■調整池せつ物の適正管理 家畜ふん尿処理を適正に行い、汚濁物質の河川流入を抑制する。</p> <p>■産ブラスチックの適正処理 ビニール、ラップフィルムなど使用済みプラスチック資材の野焼きや飛散から生態系や景観への影響を防ぐ。</p> <p>■環境保全型農業の推進 地肥等を活用した土づくりと化学肥料・農薬の使用の低減を行う。</p>	⇒	<p>●家畜ふん尿管理施設の整備 集肥倉、尿溜槽、スラリー貯留槽等を設置し、ふん尿や洗浄水の流出を防ぐ。</p> <p>○家畜排泄物の適正管理への支援（瀬北町、小清水町）</p> <p>○産廃・畜産排水を適切に処理する（瀬北町、小清水町）</p> <p>●収集運搬体制構築による不法投棄の防止</p> <p>●産ブラスチックの再資源化と適正処理方法の検討</p>	●農家、農協	●農家、農協	●国、道、市町	
				⇒	<p>●経営研修の推進 畑作農家と酪農家の連携を推進し、麦秆や地肥などハイオマスの利活用に努める。</p> <p>●環境配慮型農業の推進 営内種：自然環境（IP2）</p> <p>●クリーン農業の取り組みと減農薬や有機栽培の推進</p> <p>●環境保全型農業への支援</p> <p>○湖に負荷を与えない「環境保全型農業」を流域で展開していく。（瀬北町）</p> <p>○排水力を高める「ゆゆう水」土づくり（小清水町）</p> <p>○家畜糞尿処理施設支援事業、減肥剤試験減農薬試験実施、硝酸性窒素低減対策（瀬北町）</p> <p>○農地からの土砂流出防止対策、養翠川流域環境ビジョン（瀬北町）</p> <p>○景観・土砂流出のための農地法面維持（JA オホホクアグリ）</p> <p>○明浜排水路整備事業（国策局）</p> <p>○瀬谷川環境地域ビジョンおよび好債マニュアル（瀬北町）</p> <p>☆農業基礎の強化（美唄市）</p> <p>☆河川沿いに土砂崩止林を設置する（各河川）</p> <p>☆環境保全型環境かんがい排水事業（国策局、根室地域）</p> <p>☆農地からの土砂流出防止（各河川）</p> <p>・河川沿いに緩衝地帯を設け、農地からの土砂流出を防止する。</p> <p>・農地の排水力を高める土づくりを行う。</p> <p>●畜産や農産物のブランド化の取り組みと支援</p> <p>●地場産品を活用した加工食品開発に対する支援</p>	●農家、農協 ●農家、農協 ●農家、農協	●農家、農協 ●農家、農協 ●農家、農協	●国、道、市町 ●国、道、市町 ●国、道、市町 ●国、道、市町	●農家、農協 ●農家、農協 ●農家、農協
凡例		◆事務局案 △策定委員会 ・ワークショップ	■事務局案 ・ワークショップ	⇒			●事務局案		

項目	課題(住民会議を基に提示)	未来像(展開方向)	取り組み(施策案)	手法(事例)	担い手(推進主体)		
					住民・住民団体	民間企業・事業所	行政・研究機関
社会環境	22) 直請ごみの対策	◆ごみのない環境の実現 朝や晩はではごみが見られぬように努め、資源や廃材ではごみが見られぬように努め、資源の最大化を実現させる。	■ごみ問題の啓発と減量対策の推進 海岸への漂流ごみ、人為的な発生ごみ、投棄ごみなどの減量や持ち帰り運動等に取り組む。また漂流ごみなどの輸送方法を検討していく。	●環境美化活動の推進と支援 ○「網走市ボイ捨てゼロ条例」の遵守に努め、普及促進をはかる。(網走市) ○原生花園ごみ拾い事業(小清水町) ○海岸の清掃活動(網走漁業協同組合、JAオホーツク網走、網走港振興協議会) ○網走川の清掃活動(網走市女性団体連絡協議会、西網走漁業協同組合) ○キャンプ場の清掃活動(企業) ○沿道のごみ拾い活動(夢の贈り物プロジェクト) ○藻琴川流域の環境保全(網走市) ○阿川の清掃活動(網走漁業協同組合) ○網走市地域環境美化プログラム事業(網走市) ○不特定業者の防止とごみの持ち帰りの啓発(網走市) ○ごみ拾い活動への参加(企業)	●企業 ●市町	●住民	●企業 ●市町
	23) その他のごみの対策						
観光産業交通	19) 土産産品の地域ブランド化(酒場)	◆地域ブランドによる観光振興 地域で特色がある産品にブランドとしての付加価値をつけ、産業と観光が一体的に展開する。 ・醸造酒場の味噌などにブランドとして付加価値を与え、観光資源とする。	■土産産品の普及と啓発 観光客などが土産産品を味わえるよう、流通と普及への取り組みと宣伝を行う。 ・土産産品を地元で買える施設の整備、道の駅の多面的利用、産物の宣伝などを行う。	●土産産品の販売体制の構築 ●観光イベントの見直しと新規イベントの創出 ○土産産品利用ブランド化プロジェクト、観光客誘致プロジェクトなど(網走市、小清水町) ・土産産品の販売所の設置、道の駅での研修、加工、販売機能を充実させていく。 ●豊富な土産産品を利用した名物料理の開発 ●醸造酒の土産品として販出される土産産品の開発 ・地元産品の手による文化的なお土産を開発する。	●企業 ●市町	●住民	●企業 ●市町
	24) 道跡・史跡の調査・保全	◆歴史的文化的景観の保全 網走川における道跡や史跡が保全され、地域の文化財となっている。	■文化財の学術調査と保全対策検討 網走川における道跡や史跡の調査を行い、保全に努める。	●専門家による文化財の調査と保全 ○モロコ貝塚発掘調査事業(博物館) ○歴史的建造物の調査・保全事業(博物館) ●遺跡による保全、活用策の検討(網走市) ○歴史的景観保全、活用策の検討(網走市) ○「歴史の道」整備(網走市)	●企業 ●市町、研究機関	●住民	●企業 ●市町、研究機関
凡例	◆事務局案 △策定委員会 ・ワークショップ	■事務局案 ・ワークショップ	●事務局案 ○現状で行っているもの ・ワークショップ △策定委員会 △各地の参考事例		●事務局案		

4. 行動環境（各種活動）

未来像（目標）

多様な主体による環境保全ネットワークを形成し、環境保全の意識啓蒙を多面的に行うため、教育機関などと連携した多様な環境学習の促進、水鳥・湿地センターなど自然とふれあえる場の提供を行い、交流と学習を進めます。

項目	課題（住民会議を基に提示）	未来像（展開方向）	取り組み（施策案）	手法（事例）	担い手（推進主体）	行政・研究機関	
行動環境（各種活動）	25) 住民・産業界との取り組みと支援	<p>⇒</p> <p>●環境保全のパートナーシップの形成 住民・団体相互のネットワークと事業者、行政の連携とパートナーシップを形成する。</p>	<p>⇒</p> <p>■環境保全の多様なネットワークの形成 環境保全活動への支援を行いながら、ネットワーク形成～取り組む、 ・ナショナルトラスト運動を促進させ、自然保護と賢明な土地利用を努める。 ・マスコミ、ガイドブック、インターネットを活用して取り組みと支援事業を進めていく。 ・交流・情報発信施設が中心となって「家の会」のような愛好者団体を育成していく。</p>	<p>⇒</p> <p>●環境保全に関する技術情報などの収集と公開 ●環境保全型産業の取り組みと支援 ●環境保護活動団体の育成 ●ボランティアやガイドの養成と活動の充実 ●住民、NPO、企業、研究機関と連携した環境保全活動 立派多和環境ファンクラブ（NPO 非中町） ☆トラストサマール創設（NPO 創設中） ・環境保全のコンセンサスは総論に形成されているので、今後は利用調整ができる人材を育成する。 ・ボランティアだけでは未だ多く活動を継続できないので、仲介できる活動拠点を検討していく。 ・「環境保全ファンクラブ」をつくり環境保全や調査などを行う。 ・産業界の多様な主体が協働で環境問題に取り組みするための調整拠点を設置する。 ・東濃大ボランティアとの協働 ・住民から行政まで多岐にわたるネットワークを形成し、環境保全に関する人材を育成する。 ●地球環境対策への意識の向上と実践 ●地球温暖化防止リーフレットの作成と配布 ○農業や漁業の体験学習会、環境基本計画、環境白書、環境技術情報館の公開、地域版エネカジービジョン、地球温暖化対策実行計画、環境先進国の情報収集、ISO、国際協力と支援（網走市）</p>	<p>⇒</p> <p>●住民、NPO、NGO ●NPO、NGO ●NPO、NGO ●住民 ●住民団体、NPO</p>	<p>⇒</p> <p>●企業、事業者 ●企業、事業者 ●企業、事業者 ●企業、事業者</p>	<p>⇒</p> <p>●市町、大学、試験場 ●市町、大学、試験場 ●市町、大学、試験場 ●市町、大学、試験場 ●市町</p>
凡例	●事務局 ・ワークショップ	●事務局 △策定委員会 ・ワークショップ	●事務局 ・ワークショップ	●事務局 ○現状で行っているもの ・ワークショップ △策定委員会 ☆各地の参考事例	●事務局		

項目	課題(住民会議を基に提示)	未来像(展開方向)	取り組み(施策案)	手法(事例)	住民・住民団体 民間企業・事業所 担い手(推進主体)	行政・研究機関
25	住民・産業界活動の取り組みと支援	<p>◆環境保全意識の啓蒙 福原保全に関する理解を定着させ、地域振興の啓蒙がなされている。</p>	<p>■環境の価値の認識と啓蒙 関係機関の連携により、機会や媒体を通じて普及啓蒙活動の推進。</p>	<p>⇒</p> <p>● 福原に関する情報の収集と公開 ● 福原の生態を体感できるカリキュラムの実施 ● フラムサール現地市町村などとの連携 活用施設の情報と活用、プログラム開発と指導者育成、民間団体への支援と団体のネットワーク化、福原保全に関する情報交換(福原産物、平ロベツ産物、タッチャロ産物)。 ・自然保護とサステイナビリティの両立が今までなされてきたが、今後はワイズユースを重点施策にして取り組んでいく。 ・観光などで福原に下りるお金を、賢明な利用に活用して地域を活性化させ、それで得た資金を福原保全に当てながら循環させていくよう検討する。 ・フラムサール登録記念の講演会、自然ガイド本を発行する。 ・福原の価値を啓蒙し、地域の人に価値を認識してもらえよう方法を検討する。 ・ボランティアのみならず、行政、住民ともお互いの呼びかけが必要。 ・住民会議の開催</p>	<p>● 住民団体、NPO ● 住民団体、NPO ● 住民団体、NPO</p> <p>● 企業、事業者 ● 企業、事業者</p> <p>● 市町、大学 ● 市町、大学 ● 市町、大学</p>	
26	啓蒙と普及	<p>◆多様な環境学習の推進 環境に対する理解を深め、環境学習の推進をはかる。</p>	<p>■環境学習推進会の場の創出 福原や南栗原型社会についての学習会、講習会の開催をはかる。 △フラムサールの趣意を取り入れた学校教育を実践する。 ・学校(幼児～学生)と調を近づける。 ・地域住民の情報交換、コミュニケーション、教育の場を創出して取り組んでいく。</p>	<p>⇒</p> <p>● 環境学習協会やレクリエーションの場の提供 ● 島島・産地センターなどの拠点施設整備と管理運営体制の確立 ○ 環境教育、環境観光の展開を学校のカリキュラムに組み込み、社会教育プログラムの開発と展開を行う。 ○ 産物物産展等産物産地会、環境保全活動リーダーの育成など(網走市)。 ○ 環境汚染防止対策について広域的な市町村の連携など(網走市)。 ☆ 環境型社会学習会、こどもエコクラブ、オホーツクおぐわくたんけんたい、自然動物学習会、観察会など(網走市)。 ☆ 北海道 eco アカデミアの活用 ・ 産物の連携により、住民が産物の価値について学べる機会を増やす。 ・ 教育機関が積極的に関与し、環境学習を授業に取り入れる。 ・ 子供だけでなくPTA 全体で取り組む必要がある。</p>	<p>● 住民 ● 住民、NPO</p> <p>● 国、支庁、市町 ● 国、支庁、市町</p>	
凡 例	<p>◆ 事務局案 △ 策定委員会 ・ ワークショップ</p>	<p>■ 事務局案 ・ ワークショップ</p>	<p>● 事務局案 ○ 現状で行っているもの ・ ワークショップ △ 策定委員会 ☆ 各地の参考事例</p>	<p>● 事務局案</p>		

VI 参考資料・文献

1 瀧沸湖と周辺地域で確認された生物文献リスト

No.	文 献 名	発行年	編者・発行元	該当する項目				
				植物	鳥類	魚介類	底生動物	昆虫類
1	知床博物館研究報告 第18集 別冊 網走市・小清水町・斜里町における オホーツク海沿岸部周辺の鳥類	平成9年	川崎康弘		○			
2	知床博物館研究報告 第22集 別冊 網走支庁管内鳥類目録 ー北海道・オホーツク圏で確認された鳥類ー	平成13年	川崎康弘		○			
3	知床博物館研究報告 第25集 別冊 網走地方において近年記録された稀少カモ目鳥類	平成16年	川崎康弘		○			
4	瀧沸湖周辺(除く海域)で観察された鳥類一覧 ー探鳥ガイド、網走の野鳥277他ー	昭和60年	斎藤喜一郎		○			
5	とうふつ湖の野鳥一覧	平成18年	網走市立郷土博物館		○			
6	平成5年度 斜網西部地区 瀧沸湖漁業影響調査報告書	平成5年12月	社団法人 北海道栽培漁業振興公社			○	○	
7	斜網西部地区 漁業影響調査報告書(瀧沸湖) 調査資料編	昭和53年2月	社団法人 北海道水産資源技術開発協会			○	○	
8	とうふつ湖の植物一覧	平成18年	網走市立郷土博物館	○				
9	東京農業大学 網走農場とその周辺の植物 ー農大植物園網走分園基礎資料としてー	昭和62年4月	東京農業大学植物園	○				
10	東京農業大学 統 網走農場とその周辺の植物 ー東京農大植物園網走分園基礎資料2ー	平成元年6月	東京農業大学植物園	○				
11	とうふつ湖の昆虫一覧	平成18年	網走市立郷土博物館					○
12	平成17年度施行 網走管内における総合的な湖沼環境保全推進業務	平成17年	財団法人 河川環境管理財団					
1	瀧沸湖畔における植生分布に影響する 環境要因について	平成9年	中村隆俊・小松輝行	○				
2	網走市水産振興基本計画 (オホーツク・マリン・プロジェクトイン網走)	平成元年	網走市				○	
3	網走4湖沼の底生動物(マクロベントス)の分布 網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書	平成12年	桑原 連				○	
13	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」 レッドリスト 植物 I (維管束植物)	平成19年	環境省	○				
14	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」 レッドリスト 鳥類	平成18年	環境省		○			
15	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」 レッドリスト 汽水・淡水魚類	平成19年	環境省			○		
16	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」 レッドリスト 貝類	平成19年	環境省			○	○	
17	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」 レッドリスト その他無脊椎動物	平成18年	環境省			○	○	
18	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト」 レッドリスト 昆虫類	平成19年	環境省				○	○
19	北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001	平成13年	北海道	○	○	○	○	○

2 植物

科名	種名	文献 8	文献 9	文献 10	文献 12-1	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック
ミスコケ	ミスコケ属				○		
トクサ	スギナ	○		○			
	トクサ	○					
ハナヤスリ	エゾフユノハナワラビ	○		○			
ゼンマイ	ヤマドリゼンマイ	○	○	○			
コバノイシカグマ	ワラビ	○					
ミズワラビ	クジャクシダ	○					
オシダ	オシダ	○		○			
ヒメシダ	ミヤマワラビ			○			
	メニッコウシダ			○			
	ヒメシダ	○		○			
メシダ	エゾメシダ			○			
	クサソテツ	○		○			
	コウヤワラビ	○	○	○			
マツ	トドマツ	○					
ヤマモモ	エゾヤマモモ	○					
クルミ	オニグルミ	○					
ヤナギ	ドロノキ	○					
	ドロヤナギ		○				
	エゾノバツコヤナギ	○		○			
	オノエヤナギ	○		○			
	タチヤナギ			○			
カバノキ	ハンノキ			○			
	ヤチハンノキ	○					
	ウダイカンバ		○				
	シラカンバ	○		○			
ブナ	カシワ	○					
	ミズナラ	○					
ニレ	ハルニレ	○		○			
クワ	ヤマグワ	○					
イラクサ	ホソバイラクサ	○					
	エゾイラクサ	○					
ヤドリギ	ヤドリギ	○					
タデ	ツルタデ	○					
	エゾノミズタデ	○					絶滅危急種 (Vu)
	オオイヌタデ	○		○			
	イヌタデ	○					
	アキノウナギツカミ	○		○			
	ミゾソバ	○	○	○			
	オオミゾソバ	○					
	ハルタデ	○		○			
	ハイミチヤナギ	○		○			
	ミチヤナギ	○	○	○			
	オオイタドリ	○	○				
	ヒメスイバ	○		○			
	ナガバギシギシ	○					
	ノダイオウ			○		準絶滅危惧 (NT)	
エゾノギシギシ	○						
スベリヒユ	スベリヒユ	○					
ナデシコ	ミミナグサ	○					
	ナンバンハコベ	○					
	エゾカワラナデシコ	○					
	シロバナエゾカワラナデシコ	○					
	ハマハコベ	○					
	オオヤマフスマ	○					
	サボンソウ	○					
	ヒロノマンテマ	○					
	ムシトリナデシコ	○					
	ツキミセンノウ			○			
	ウシオツメクサ	○					
	ウスベニツメクサ	○					
	ノミノフスマ		○				
	ウシハコベ	○					
	シラオイハコベ	○					
	カラフトホソバハコベ	○					
	エゾハコベ	○				絶滅危惧II類 (EN)	絶滅危急種 (Vu)
	ハコベ	○					
	エゾオオヤマハコベ	○	○	○	○		
	アカザ	ホソバナハマアカザ	○				
ハマアカザ		○	○				
シロザ		○	○				
アッケシソウ		○				絶滅危惧II類 (VU)	希少種 (R)
オカヒジキ		○					
ヒユ	イヌビユ	○					
	アオビユ	○					
モクレン	キタコブシ	○					
マツブサ	チョウセンゴミシ	○					
キンポウゲ	カラフトフシ			○			
	エトリカブト	○					
	キタミフクジュソウ	○					絶滅危急種 (Vu)
	フクジュソウ	○					絶滅危急種 (Vu)

科名	種名	文献 8	文献 9	文献 10	文献 12-1	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック
キンボウゲ	フタマタイチゲ	○		○		絶滅危惧Ⅱ類(VU)	希少種(R)
	ニリンソウ	○					
	アズマイチゲ	○					
	オダマキ	○					
	エンコウソウ	○					
	エゾショウマ	○					
	シコタンキンボウゲ	○				準絶滅危惧(NT)	
	バイカモ				○	絶滅危惧ⅡB類(EN)	希少種(R)
	ヤマキツネノボタン	○					
	アキカラマツ	○		○			
エゾカラマツ		○					
メギ	ルイヨウボタン	○					
センリョウ	ヒトリシズカ	○					
	フタリシズカ	○					
		○					
ボタン	ベニバナヤマジャクヤク	○			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	絶滅危惧種(En)	
マタタビ	サルナシ	○					
	ミヤママタタビ	○					
		○					
オトギリソウ	トモエソウ	○	○	○			
	オトギリソウ	○					
	ミスオトギリ	○					
ケシ	クサノオウ	○					
	エゾエンゴサク	○					
	シロバナエゾエンゴサク	○					
	クシバエゾエンゴサク	○					
	マルバエゾエンゴサク	○					
アブラナ	ハタザオ	○					
	ヤマハタザオ	○	○				
	ミヤマハタザオ	○					
	エゾハタザオ	○					
	ハマハタザオ	○					
	セイヨウワサビ	○					
	ハルザキヤマガラシ	○	○				
	ナズナ	○					
	ジャニンジン		○				
	コンロンソウ	○					
	ハナタネツケバナ	○				絶滅危惧ⅡB類(EN)	絶滅危急種(Vu)
	オオバタネツケバナ	○	○				
	エゾワサビ		○				
	ナタネハタザオ		○				
	クジラグサ	○					
	ハマタイセイ	○				絶滅危惧ⅠA類(CR)	絶滅危惧種(En)
	ウロコナズナ	○					
	マメゲンバイナズナ	○					
	オランダガラシ	○					
	イヌガラシ	○					
スカンタゴボウ	○		○				
キレハイヌガラシ	○						
ハタザオガラシ	○						
ベンケイソウ	ムラサキベンケイソウ	○					
	キリンソウ	○					
	エゾノキリンソウ	○					
	タイトゴメ	○					
	ツルマンネングサ	○					
ユキノシタ	エゾネコノメソウ	○	○				
	ツルネコノメソウ	○					
	ノリウツギ	○		○			
	ツルアジサイ	○					
ウメバチソウ	○		○				
バラ	キンミズヒキ	○		○			
	ヤマブキショウマ	○					
	オニシモツケ	○					
	エゾノシモツケソウ	○					
	オオダイコンソウ	○		○			
	カラフトダイコンソウ	○					
	エゾノコリンゴ	○					
	エゾツルキンバイ	○					
	キジムシロ	○	○				
	ミツバツチグリ	○					
	ヒロハノカワラサイコ		○			絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
	クロバナロウゲ	○					
	オオヘビイチゴ	○					
	ツルキジムシロ	○					
	ミヤマザクラ	○		○			
	エゾノウワミズザクラ	○					
	エゾヤマザクラ	○		○			
	ハマナス	○			○		
	エゾイチゴ		○	○			
	カナヤマイチゴ			○			
	ナワシロイチゴ	○					
	キミノナワシロイチゴ	○					
	エビガライチゴ	○					
	ナガボノシロワレモコウ	○		○	○		
	アズキナシ	○					
	ナナカマド	○					
	ホザキシモツケ			○			

科名	種名	文献 8	文献 9	文献 10	文献 12-1	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック
マメ	ヤブマメ	○					
	ヌスビトハギ	○					
	ハマエンドウ	○					
	シロバナハマエンドウ	○					
	ケハマエンドウ	○					
	エゾレンリソウ	○		○			
	エゾヤマハギ	○					
	イヌエンジュ	○		○			
	シロバナシナガワハギ	○	○				
	ハリエンジュ	○					
	センダイハギ	○	○	○			
	クスマツメクサ	○					
	ムラサキツメクサ	○					
	セッカツメクサ	○					
	シロツメクサ	○					
	クサフジ	○					
	シロバナクサフジ	○					
	ヒロハクサフジ	○					
	シロバナヒロハクサフジ	○					
	ヨツバハギ		○				
ナンテンハギ	○						
カタバミ	エゾタチカタバミ	○					
フクロソウ	イチゲフウロ	○		○			
	ミツバフウロ	○					
	ハマフウロ	○					
トウダイグサ	マツバトウダイ	○					
ミカン	キハダ			○			
	ヒロハノキハダ	○					
カエデ	エゾイタヤ	○					
ツリフネソウ	キツリフネ	○					
	ツリフネソウ	○					
ニシキギ	ツルウムメモドキ	○					
	イヌツルウムメモドキ			○			
	オニツルウムメモドキ	○					
	ニシキギ	○					
	マユミ	○		○			
ツゲ	フッキソウ	○	○	○			
ブドウ	ヤマブドウ	○		○			
アオイ	ゼニバアオイ	○					
スミレ	エゾノタチツボスミレ	○					
	シロバナエゾノタチツボスミレ	○					
	タチツボスミレ	○					
	オオバタチツボスミレ	○		○		準絶滅危惧 (NT)	
	スミレ	○					
	アカネスミレ	○					
	アイヌタチツボスミレ	○					
	ツボスミレ	○		○			
ウリ	ゴキツル	○				希少種 (R)	
ミソハギ	エゾミソハギ	○		○			
	ミズスキナ	○				絶滅危惧II類 (EN)	
アカバナ	ミズタマソウ		○				
	ヤナギラン	○					
	イワアカバナ	○					
	シロバナイワアカバナ	○					
	カラフトアカバナ	○					
	エゾアカバナ	○					
	ホソバアカバナ	○					
	アレチマツヨイグサ	○		○			
	オオマツヨイグサ	○					
アリトウグサ	ホザキノフサモ	○			○		
スギナモ	スギナモ	○					
ウコギ	エゾウコギ	○					
	ウド	○					
	タラノキ	○					
	ハリギリ	○		○			
	キレハハリギリ	○					
セリ	エゾボウフウ		○				
	エゾオオバセンキュウ	○					
	オオバセンキュウ			○			
	コジャク	○					
	シヤク	○					
	ホタルサイコ	○					
	ドクゼリ	○		○	○		
	エゾノシシウド	○					
セリ	ミヤマセンキュウ		○				
	カラフトニンジン	○					
	ハマボウフウ	○					
	オオハナウド	○					
	マルバトウキ	○					
	セリ	○					
	オオカサモチ	○	○				
	ウマノミツバ	○					
	ヤブジラミ	○		○			
ツツジ	エゾイソツツジ	○					
	エゾムラサキツツジ	○				絶滅危惧II類 (VU)	

科名	種名	文献 8	文献 9	文献 10	文献 12-1	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック
ツツジ	ツルコケモモ	○					
サクラソウ	ウミミドリ	○					
	ヤナギトラノオ	○	○				
	クサレダマ	○		○			
	クリソウ	○					絶滅危急種 (Vu)
モクセイ	ヤチダモ	○		○			
リンドウ	エゾリンドウ	○	○	○			
	フデリンドウ	○					
	シロバナフデリンドウ	○					
ミツガシワ	ミツガシワ	○					
ガガイモ	イケマ	○		○			
	ガガイモ	○					
アカネ	クルマバソウ	○					
	オオバナノヤエムグラ		○				
	トゲナシヤエムグラ	○					
	ホソバナヨツバムグラ	○		○			
	エゾノカワラマツバ	○					
	チヨウセンカワラマツバ	○					
	アカネムグラ	○		○	○		
ヒルガオ	ヒルガオ	○					
	ヒロハヒルガオ	○					
	ハマヒルガオ	○					
	ネナシカズラ	○					
ムラサキ	ハマベンケイソウ	○					
シソ	カワミドリ	○					
	カイジンドウ	○				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
	クルマバナ	○					
	イヌトウバナ	○					
	ミヤマトウバナ	○	○				
	ムシャリンドウ	○				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危急種 (Vu)
	ナギナタコウジュ	○					
	チシマオドリコソウ	○					
	シロバナチシマオドリコソウ	○					
	オドリコソウ	○					
	シロネ	○					
	ケンシロネ			○			
	ヒメシロネ	○		○			
	エゾシロネ	○					
	エゾミソガワソウ	○					
	ヒメナミキ	○					
	ナミキソウ	○					
	シロバナナミキソウ	○					
	エゾナミキソウ	○				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
	イヌゴマ	○		○			
エゾイヌゴマ	○						
ナス	オオマルバノホロシ	○	○	○			
	イヌホオズキ	○					
ゴマノハグサ	ウンラン	○					
	アゼナ	○					
	ミソホオズキ	○					
	エゾノカワヂシャ	○					
	オオイヌフグリ	○					
タヌキモ	コタヌキモ	○					
ハエドクソウ	ハエドクソウ	○					
オオバコ	オオバコ	○		○			
	エゾオオバコ	○					
	トウオオバコ	○					
	ヘラオオバコ	○	○				
	イソオオバコ	○					
スイカズラ	ネムロフジダマ	○				絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	
	エゾニワトコ	○		○			
	キミノエゾニワトコ	○					
	カンボク	○					
	ミヤマガマズミ	○					
レンブクソウ	レンブクソウ	○	○				
オミナエシ	オミナエシ	○					
キキョウ	モイワシャジン	○					
	ツリガネニンジン	○					
	シロバナツリガネニンジン	○					
	ツルニンジン	○	○				
	サワギキョウ	○		○			
キク	ノギリソウ	○					
	キタノギリソウ	○					
	セイヨウノギリソウ	○	○				
	ヤマハハコ	○					
	ホソバナヤマハハコ	○					
	イワヨモギ	○					
	ハマオトコヨモギ	○					
	ヒロハウラジロヨモギ	○					
	オオヨモギ	○		○			
	シロヨモギ	○					
	エゾオオヨモギ	○					希少種 (R)
	ゴボウ	○					
	エゾゴマナ	○		○			
エゾノタウコギ	○						

科名	種名	文献 8	文献 9	文献 10	文献 12-1	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック
キク	タウコギ	○					
	エゾノキツネアザミ	○					
	ミミコウモリ	○					
	ヨブスマソウ	○	○				
	ミヤマヤブタバコ	○					
	トキンソウ	○					
	キクニガナ	○					
	エゾノサワアザミ	○	○	○			
	タカアザミ	○					
	アメリカオニアザミ	○					
	ヒメムカシヨモギ	○					
	ヨツバヒヨドリ	○					
	ヒメチチコグサ	○					
	コウリンタンポポ	○					
	ヤナギタンポポ	○					
	オグルマ	○					
	カセンソウ	○	○	○			
	ハマニガナ	○					
	アキノノゲシ	○					
	エゾムラサキニガナ	○					
	センボンヤリ	○					
	コシカギク	○					
	シカギク	○					
	アキタブキ	○					
	コウゾリナ	○					
	アラゲハンゴンソウ	○					
	オオハンゴンソウ	○					
	ハンゴンソウ	○		○			
	ノボロギク	○					
	オオアワダチソウ	○					
	ミヤマアキノキリンソウ	○					
	オキノゲシ	○					
	ハチジョウナ	○					
	ヒメジョオン	○					
エゾタンポポ	○						
セイヨウタンポポ	○						
オナモミ	○					絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
オモダカ	サジオモダカ	○					
ホロムイソウ	シバナ	○		○		準絶滅危惧(NT)	
	ホソバナシバナ	○				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	
ヒルムシロ	センニンモ	○			○		
	ヒロハノエビモ	○					
	カワツルモ				○	準絶滅危惧(NT)	
アマモ	コアマモ				○		
ユリ	ノビル	○					
	エゾネギ	○					
	ミヤマラッキョウ	○					
	ギョウジャニンニク	○					
	キジカクシ	○					
	スズラン	○					
	ホウチャクソウ		○				
	チゴユリ		○				
	クロユリ	○	○				希少種(R)
	キバナノアマナ	○					
	エゾヒメアマナ	○				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	希少種(R)
	エゾキスゲ	○					
	エゾカンゾウ	○					
	タチギボウシ	○					
	オオウバユリ	○					
	エゾスカシユリ	○					
	クルマユリ	○	○				
	マイヅルソウ	○					
	リュウノヒゲ	○			○		
	クルマバツクバネソウ	○					
	ヒメイズイ	○					
ミヤマナルコユリ		○					
オオアマドコロ	○						
ユキザサ	○						
オオバナノエンレイソウ	○						
アヤメ	ノハナショウブ	○		○			
	ヒオウギアヤメ	○			○		
	シロバナヒオウギアヤメ	○					
イグサ	ヒメコウガイゼキショウ	○					
	イ		○	○			
	ヒメイ	○					
	ドロイ	○					
	ハマイ	○					
	ホソイ	○					
	クサイ			○			
	スズメノヤリ	○	○				
ヤマスズメノヒエ		○					
ツユクサ	ツユクサ	○					
イネ	ハネガヤ	○					
	コヌカグサ	○		○	○		
	ヌカホ			○			

科名	種名	文献 8	文献 9	文献 10	文献 12-1	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック
	コヌカボ	○					
	エゾヌカボ	○					
	スズメノテッポウ	○					
	ハルガヤ		○				
	トダシバ		○				
	カズノコグサ	○					
	ヤマアワ	○		○			
	イワノガリヤス	○		○			
	チシマガリヤス		○	○			
	ノガリヤス属の一種			○			
	カモガヤ	○					
	アキメヒシバ	○					
	イヌビエ	○					
	ケイヌビエ	○					
	タイヌビエ	○					
	ハナムギ	○					
	ハマニンニク	○					
	オニウシノケグサ	○					
	オオウシノケグサ	○					
	ヒロハノドジョウツナギ			○			
	コウボウ		○				
	ホソムギ			○			
	コメガヤ	○					
	ススキ	○					
	オオネズミガヤ	○					
	クサヨシ	○					
	オオアワガエリ	○		○			
	ヨシ	○		○	○		
	ツルヨシ	○					
	スズメノカタビラ	○					
	ナガハグサ	○			○		
	ヒメカラフトイチゴツナギ		○				希少種(R)
	クマイザサ	○					
	ツクバナソブスズ		○				
	ササ属の一種			○			
	アキノエノコログサ	○					
	キンエノコロ	○					
	ムラサキエノコロ	○					
サトイモ	コウライテンナンショウ	○					
	ミスバショウ	○					
ガマ	ガマ	○	○	○			
カヤツリグサ	ショウジョウスゲ	○					
	ヒメカワズスゲ		○				
	ハリガネスゲ		○				
	ジョウロウスゲ	○				絶滅危惧Ⅱ類(VU)	希少種(R)
	チャシバスゲ	○					
	ヒメカンスゲ	○					
	カサスゲ	○					
	オクノカンスゲ	○					
	ネムロスゲ	○				準絶滅危惧(NT)	
	コハリスゲ	○	○				
	コウボウムギ	○					
	ヤラメスゲ	○		○	○		
	エゾノコウボウムギ	○					
	コウボウシバ	○					
	ウシオスゲ		○			絶滅危惧ⅠB類(EN)	絶滅危急種(Vu)
	アスマナルコ			○			
	オオカワズスゲ	○		○			
	アゼスゲ	○			○		
	カワラスガナ	○					
	ヒメハリイ				○		
	クロハリイ	○					
	サギスゲ	○					
	オオイヌノハナヒゲ	○					
	シズイ	○					
	エゾウキヤガラ	○					
	フトイ	○		○			
	アブラガヤ	○		○			
	エゾアブラガヤ	○					
ラン	サイハイラン	○	○				
	オニノヤガラ	○					
	オオミストンボ	○				絶滅危惧ⅠA類(CR)	希少種(R)
	クモキリソウ	○					
	スズムシソウ		○				
	コケイラン	○					
	ミズチドリ	○					
	トキシソウ	○	○			準絶滅危惧(NT)	絶滅危急種(Vu)
	ネジバナ	○					
シオグサ	ジュズモ				○		

※ 文献 8 : とうふつ湖の植物一覧 平成18年

※ 文献 9 : 東京農業大学 網走農場とその周辺の植物－農大植物園網走分園基礎資料として－ 昭和62年4月

※ 文献 10 : 東京農業大学 網走農場とその周辺の植物－東京農大植物園網走分園基礎資料2－ 平成元年6月

※ 文献 12-1 : 濁沸湖畔における植生分布に影響する環境要因について 平成9年

3 鳥類

0 目	科	種 名	文献 1	文献 2	文献 3	文献 4	文献 5	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック	備 考	
カイツブリ	カイツブリ	カイツブリ	○	○		○	○				
		ハジロカイツブリ				○	○				
		ミミカイツブリ	○	○		○	○				
		アカエリカイツブリ					○				
ミズナギドリ	ウミツバメ				○						
ペリカン	ウ	カワウ				○					
		ウミウ	○	○		○	○				
		ヒメウ				○	○	絶滅危惧IB類(EN)			
コウノトリ	サギ	サンカノゴイ				○		絶滅危惧IB類(EN)	絶滅危惧種(En)		
		ヨシゴイ		○		○		準絶滅危惧(NT)			
		アマサギ		○		○	○				
		ダイサギ	○	○		○	○				
		チュウサギ	○	○		○	○	準絶滅危惧(NT)	希少種(R)		
		コサギ				○	○				
		アオサギ	○	○		○	○				
	コウノトリ	コウノトリ		○		○		絶滅危惧IA類(GR)	絶滅危惧種(En)	特別天然記念物・国内希少	
トキ	ヘラサギ		○		○		情報不足(DD)				
カモ	カモ	シジュウカラガン		○		○		絶滅危惧IA類(GR)	絶滅危惧種(Vu)	国内希少	
		マガン	○	○		○	○	準絶滅危惧(NT)	希少種(R)	天然記念物	
		カリガネ				○		準絶滅危惧(NT)			
		ヒシクイ	○	○		○	○	絶滅危惧II類(VU)	希少種(R)	天然記念物	
		オオヒシクイ	○	○		○	○	準絶滅危惧(NT)	希少種(R)		
		ハクガン		○				情報不足(DD)	希少種(R)		
		コブハクチョウ	○	○		○	○				
		オオハクチョウ	○	○		○	○				
		コハクチョウ	○	○		○	○			希少種(R)	
		オシドリ				○	○	情報不足(DD)	希少種(R)		
		マガモ	○	○		○	○				
		カルガモ	○	○		○	○				
		コガモ	○	○		○	○				
		コガモの亜種間交雑個体			○						
		アメリカコガモ	○	○							
		トモエガモ			○	○			絶滅危惧II類(VU)	希少種(R)	
		ヨシガモ	○	○		○	○				
		オカヨシガモ	○	○		○	○				
		ヒドリガモ	○	○		○	○				
		アメリカヒドリ	○	○	○	○	○				
		オナガガモ	○	○		○	○				
		シマアジ	○	○		○	○				
		ハシビロガモ	○	○		○	○				
		ホシハジロ	○	○		○	○				
		キンクロハジロ	○	○		○	○				
		スズガモ	○	○		○	○				
		クロガモ				○	○				
		ビロードキンクロ				○	○				
		シノガモ				○	○	地域個体群(LP)	希少種(R)		
		コオリガモ				○	○				
ホオジロガモ	○	○		○	○						
ミコアイサ	○	○		○	○		絶滅危惧種(Vu)				
ウミアイサ	○	○		○	○						
カワアイサ	○	○		○	○						
タカ	タカ	ミサゴ	○	○		○	○	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧種(Vu)		
		トビ	○	○		○	○				
		オジロワシ	○	○		○	○	絶滅危惧IB類(EN)	絶滅危惧種(En)	天然記念物・国内希少	
		オオワシ	○	○		○	○	絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧種(En)	天然記念物・国内希少	
		オオタカ	○	○		○	○	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧種(Vu)	国内希少	
		ハイタカ				○	○	準絶滅危惧(NT)	絶滅危惧種(Vu)		
		ケアシノスリ		○		○	○		希少種(R)		
		ノスリ	○	○		○	○				
		ハイロチュウヒ	○	○		○			希少種(R)		
		チュウヒ	○	○		○	○	絶滅危惧IB類(EN)	絶滅危惧種(Vu)		
		ハヤブサ	シロハヤブサ				○			希少種(R)	
			ハヤブサ	○	○		○	○	絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧種(Vu)	国内希少
			チゴハヤブサ	○	○		○	○			
			コチョウゲンボウ	○	○		○	○			
チョウゲンボウ					○	○					
キジ	ライチョウ	エゾライチョウ				○		情報不足(DD)	希少種(R)		
	キジ	ウズラ	○	○		○	○	準絶滅危惧(NT)	希少種(R)		
ツル	ツル	クロツル		○		○		情報不足(DD)			
		タンチョウ		○		○	○	絶滅危惧II類(VU)	絶滅危惧種(En)	特別天然記念物・国内希少	
		ナベツル	○	○		○	○	絶滅危惧II類(VU)			
	クイナ	クイナ	○	○		○	○		希少種(R)		
		ヒクイナ				○	○	絶滅危惧II類(VU)	希少種(R)		
		バン	○	○		○	○				
チドリ	ミヤコドリ	ミヤコドリ		○		○	○				
	チドリ	ハジロコチドリ	○	○		○	○				
		コチドリ	○	○		○	○				
		イカルチドリ				○	○				
		シロチドリ				○	○				
		メダイチドリ	○	○		○	○				
		オオメダイチドリ				○	○				

目	科	種名	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック	備考
チドリ	チドリ	ムナグロ	○	○		○	○			
		ダイゼン	○	○		○	○			
		タゲリ				○				
	シギ	キョウジョシギ	○	○		○	○			
		トウネン	○	○		○	○			
		ヒバリシギ	○	○		○	○			
		オジロトウネン	○	○		○	○			
		ヒメウズラシギ				○				
		アメリカウズラシギ	○	○		○				
		ウズラシギ	○	○		○	○			
		チシマシギ					○		情報不足(DD)	希少種(R)
		ハマシギ	○	○		○	○			
		サルハマシギ	○	○		○	○			
		コオバシギ	○	○		○	○			
		オバシギ	○	○		○	○			
		ミユビシギ	○	○		○	○			
		ヘラシギ	○	○		○	○		絶滅危惧IA類(CR)	絶滅危急種(Vu)
		エリマキシギ	○	○		○	○			
		キリアイ	○	○		○	○			
		オオハシシギ				○	○			
		ツルシギ	○	○		○	○			
		アカアシシギ	○	○		○	○		絶滅危惧II類(VU)	絶滅危急種(Vu)
		コアアシシギ	○	○		○	○			
		アオアシシギ	○	○		○	○			
		カラフトアオアシシギ	○	○		○	○		絶滅危惧IA類(CR)	絶滅危急種(Vu)
		クサンシギ	○	○		○	○			
		タカブシギ	○	○		○	○			
		キアシシギ	○	○		○	○			
		イソシギ	○	○		○	○			
		ソリハシシギ	○	○		○	○			
	オグロシギ	○	○		○	○				
	オオソリハシシギ	○	○		○	○				
	ダイシャクシギ				○	○				
	ホウロクシギ	○	○		○	○		絶滅危惧II類(VU)	希少種(R)	
	チュウシャクシギ	○	○		○	○				
	コシャクシギ	○	○		○	○		絶滅危惧IB類(EN)	絶滅危急種(Vu)	
	ヤマシギ				○	○				
	タシギ	○	○		○	○				
	オオジシギ	○	○		○	○		準絶滅危惧(NT)	希少種(R)	
	アオシギ					○				
	セイタカシギ	セイタカシギ	○	○		○	○		絶滅危惧II類(VU)	希少種(R)
		ソリハシセイタカシギ	○	○		○	○			
		ハイロヒレアシギ		○		○				
	ヒレアシギ	アカエリヒレアシギ	○	○		○	○			
		ツバメチドリ		○					絶滅危惧II類(VU)	希少種(R)
	カモメ	ユリカモメ	○	○		○	○			
		セグロカモメ	○	○		○	○			
		オオセグロカモメ	○	○		○	○			
		ワシカモメ	○	○		○	○			
		シロカモメ	○	○		○	○			
		カモメ	○	○		○	○			
		ウミネコ	○	○		○	○			
		ミツユビカモメ	○	○		○	○			
ハジロクロハラアジサシ		○	○		○					
アジサシ		○	○		○	○				
コアジサシ					○			絶滅危惧II類(VU)		
ハト	キジバト	○	○		○	○				
	アオバト	○	○		○	○				
カッコウ	カッコウ	○	○		○	○				
フクロウ	ツツドリ	○	○		○	○				
	シロフクロウ		○		○				希少種(R)	
	トラフズク				○				希少種(R)	
	ヨミミズク	○	○		○					
アマツバメ	フクロウ				○					
	ハリオアマツバメ	○	○		○	○				
	アマツバメ	○	○		○	○				
フツボウソウ	カワセミ	○	○		○	○				
ヤツガシラ	ヤツガシラ		○		○					
	キツツキ	アリスイ	○	○		○	○			
キツツキ	ヤマゲラ	○	○		○	○				
	アカゲラ	○	○		○	○				
	オオアカゲラ				○	○			留意種(N)	
	コアカゲラ	○	○		○	○			希少種(R)	
	コゲラ				○	○				
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	○	○		○	○			
	ツバメ	ショウドウツバメ	○	○		○	○			
		ツバメ	○	○		○				
		イワツバメ				○	○			
	セキレイ	ツメナガセキレイ	○	○		○				希少種(R)
		キセキレイ				○	○			
		ハクセキレイ	○	○		○	○			
セグロセキレイ					○					
ピンズイ				○	○					
タヒバリ	○	○		○	○					
ヒヨドリ	ヒヨドリ	○	○		○	○				

目	科	種名	文献1	文献2	文献3	文献4	文献5	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック	備考
スズメ	モズ	モズ	○	○		○	○			
		アカモズ				○	○	絶滅危惧II類(EN)	希少種(R)	
		オオモズ	○	○		○				
	レンジャク	キレンジャク				○	○			
		ヒレンジャク				○				
	カワガラス	カワガラス				○				
	ミソサザイ	ミソサザイ				○	○			
	ヒタキ	ノゴマ	○	○		○	○			
		コルリ	○	○		○				
		ルリヒタキ				○				
		ジョウビタキ		○		○				
		ノビタキ	○	○		○	○			
		ハシゲロヒタキ		○						
		マミジロ				○				
		トラツグミ				○				
		クロツグミ	○	○		○	○			
		アカハラ	○	○		○	○			
		シロハラ				○				
		マミチャジナイ				○				
		ツグミ	○	○		○	○			
		ヤブサメ	○	○		○	○			
		ウグイス	○	○		○	○			
		エゾセンニュウ				○	○			
		シマセンニュウ	○	○		○	○			
		マキノセンニュウ	○	○		○	○			
		コヨシキリ	○	○		○	○			
		オオヨシキリ	○	○		○	○			
		メボソムシクイ				○				
		エゾムシクイ				○	○			
		センダイムシクイ	○	○		○	○			
	キクイタダキ				○	○				
	キビタキ	○	○		○	○				
	オオルリ				○	○				
	エゾビタキ	○	○		○	○				
	コサメビタキ	○	○		○	○				
	エナガ	エナガ	○	○		○	○			
	シジュウカラ	ハシブトガラ	○	○		○	○			
		コガラ	○	○		○				
		ヒガラ				○	○			
		シジュウカラ	○	○		○	○			
	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ	○	○		○	○			
	キバシリ	キバシリ				○	○			
	メジロ	メジロ	○	○		○	○			
	ホオジロ	シラガホオジロ		○		○				
		ホオジロ				○	○			
		ホオアカ	○	○		○	○			
		カシラダカ				○	○			
		ミヤマホオジロ	○	○		○				
		シマアオジ				○	○	絶滅危惧IA類(CR)	希少種(R)	
		アオジ	○	○		○	○			
		オオジュリン	○	○		○	○			
		ツメナガホオジロ	○	○		○				
	ユキホオジロ	○	○		○	○				
アトリ	アトリ				○	○				
	カワラヒワ	○	○		○	○				
	マヒワ				○	○				
	ベニヒワ	○	○		○					
	ハギマシコ				○					
	アカマシコ		○		○					
	オオマシコ				○	○				
	ギンザンマシコ				○			希少種(R)		
	ベニマシコ	○	○		○	○				
	ウソ				○	○				
	イカル				○	○				
シメ	○	○		○	○					
ハタオリドリ	ニュウナイスズメ	○	○		○	○				
	スズメ	○	○		○	○				
ムクドリ	コムクドリ				○	○				
	ホシムクドリ	○	○		○					
	ムクドリ	○	○		○	○				
カラス	カケス	○	○		○	○				
	ホシガラス				○					
	ミヤマガラス		○		○					
	ハシボソガラス	○	○		○	○				
	ハシブトガラス	○	○		○	○				
ワタリガラス				○						

- ※ 文献1：知床博物館研究報告 第18集 別冊 網走市・小清水町・斜里町におけるオホーツク海沿岸部周辺の鳥類 平成9年
- ※ 文献2：知床博物館研究報告 第22集 別冊 網走支庁管内鳥類目録 -北海道・オホーツク圏で確認された鳥類- 平成13年
- ※ 文献3：知床博物館研究報告 第25集 別冊 網走地方において近年記録された稀少カモ目鳥類 平成16年
- ※ 文献4：瀦沸湖周辺(除く海域)で観察された鳥類一覧 -探鳥ガイド、網走の野鳥277他- 昭和60年
- ※ 文献5：とうふつ湖の野鳥一覧 平成18年
- ※ 特別天然記念物：文化庁 文化財保護法 昭和25年
- ※ 天然記念物：文化庁 文化財保護法 昭和25年
- ※ 国内希少：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律 平成4年 国内希少野生動植物種

4 魚介類

目名	科名	種名	文献6		文献7				環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック		
			濤沸湖 内	浦士別 川	濤沸湖 内	丸万川	オンネ ナイ川	ウカルシュ ベツ川			浦士別 川	
脊索動物門 硬骨魚類												
ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	カワヤツメ			○					絶滅危惧Ⅱ類(VU)		
ニシン	ニシン	ニシン	○		○							
サケ	サケ	イトウ			○					絶滅危惧B類(EN)	絶滅危惧種(Gr)	
		アメマス		○	○	○			○			
		ヒメマス (ベニザケの陸封・湖沼型)		○							絶滅危惧種(Gr)	
		カラフトマス		○								
		サケ		○					○			
		サクラマス(ヤマメ含む)		○			○			○	準絶滅危惧(NT)	留意種(N)
		アマゴ								○		
		ニジマス			○					○		
	キュウリウオ	ワカサギ	○		○				○			
	シラウオ	シラウオ			○					希少種(R)		
コイ	コイ	ウグイ	○		○				○			
		マルタウグイ	○	○						留意種(N)		
		コイ			○							
		ギンブナ	○									
		フナ			○							
	ドジョウ	フクドジョウ				○						
ダツ	サヨリ	サヨリ			○							
トゲウオ	トゲウオ	イトヨ	○		○				○			
		トミヨ	○		○	○	○	○	○			
		ヨウジウオ			○							
ボラ	ボラ	メナダ			○							
スズキ	サバ	サバ			○							
		ハゼ	チチブ							○		
			ヌマチチブ	○	○							
			アシシロハゼ	○		○						
			ウキゴリ	○	○	○		○	○	○		
			イサザ			○						
			ピリンゴ			○				○		
			ジュズカケハゼ	○								
	ヌイメガジ	ヌイメガジ			○							
カサゴ	フサカサゴ	クロソイ	○		○							
		アイナメ	○		○							
		ケムシカジカ	○									
		クサウオ	○									
カレイ	カレイ	クロガシラガレイ			○							
		ヌマガレイ	○		○							
		トウガレイ	○									
タラ	タラ	コマイ	○		○							
節足動物門 軟甲綱												
エビ	テナガエビ	スジエビ			○	○	○	○	○			
		イノスジエビ			○							
		エビジャコ			○							
		イワガニ			○							
軟体動物門 腹足綱												
ニナ	ウミニナ	ホソウミニナ			○							
軟体動物門 二枚貝綱												
マルズダレガイ	マルズダレガイ	アサリ			○							
		ヒメアサリ			○							
		シジミ			○					準絶滅危惧(NT)		

※ 文献6：平成5年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書 平成5年12月

※ 文献7：斜網西部地区 濤沸湖影響調査報告書(濤沸湖)調査資料編 昭和53年2月

※ 過去に採捕された記録がある種について記載

5 底生動物

門・綱	目	科	種名	文献 6	文献 7				文献12-2	文献12-3	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック		
				浦士別川	濤沸湖	浦士別川	丸万川	オンネ ナイ川	濤沸湖	濤沸湖				
節足動物門														
昆虫綱	カゲロウ	フタオカゲロウ	マエグロヒメフタオカゲロウ						○					
		コカゲロウ	シロハラコカゲロウ			○	○	○						
			コカゲロウ属											
			フタバコカゲロウ属											
		チラカゲロウ	チラカゲロウ											
		ヒラタカゲロウ	ミヤマタニガワカゲロウ属				○			○				
			タニガワカゲロウ属						○	○				
			ユミモンヒラタカゲロウ			○								
			エルモンヒラタカゲロウ			○								
			ウエノヒラタカゲロウ					○						
			ヒラタカゲロウ属					○						
			ヒメヒラタカゲロウ					○	○	○				
			ヒメヒラタカゲロウ属			○								
		トビイロカゲロウ	ナミトビイロカゲロウ			○								
			トビイロカゲロウ属					○	○	○				
		モンカゲロウ	フタスジモンカゲロウ			○								
			モンカゲロウ属					○						
		マダラカゲロウ	クロマダラカゲロウ			○		○	○					
			フタマタマダラカゲロウ			○								
			ヨシノマダラカゲロウ			○		○	○	○				
	ミツゲマダラカゲロウ				○		○							
	マダラカゲロウ属				○		○	○	○					
	クシゲマダラカゲロウ				○									
	アカマダラカゲロウ				○		○	○	○					
	トンボ	サナエトンボ	サナエトンボ科			○	○	○						
	カワゲラ	ミジカオカワゲラ	ミジカオカワゲラ科の数種				○							
		オナシカワゲラ	フサオナシカワゲラ属		○		○							
			オナシカワゲラ属											
			ユビオナシカワゲラ属		○		○	○						
			オナシカワゲラ科の一種				○	○						
		アミメカワゲラ	アミメカワゲラモドキ属		○									
			アミメカワゲラ科		○		○	○						
		カワゲラ	コガタフツメカワゲラ属		○									
	トウゴウカワゲラ属			○										
		カワゲラ属				○	○	○						
	ミドリカワゲラ	ミドリカワゲラ科		○		○								
	コウチュウ	ガムシ	ガムシ科の一種		○									
		ヒメドロムシ	ヒメドロムシ科		○									
		ナガドロムシ	ナガドロムシ属				○	○	○					
	ハエ	ガガンボ	Tipula属の一種		○		○							
			ヒメウスバガガンボ属		○		○	○	○					
			Dicranota属		○									
			ダイミョウガガンボ				○							
			オオヒゲナガガガンボ属		○									
			ガガンボ科				○	○						
		アミカ	アミカ科		○		○							
		ブユ	ブユ科の一種		○		○	○	○					
		ヌカカ	ヌカカ科の一種		○		○							
		ユスリカ	オオユスリカ				○					○		
			ユスリカ類 1											
ユスリカ類 2						○								
ユスリカ類 3						○								
ユスリカ類 4						○								
ユスリカ類 5						○								
ユスリカ類 6						○								
		ユスリカ科		○		○	○	○						
ミスアブ		ミスアブ科				○								
シギアブ		シギアブ科の一種				○	○							
ナガレアブ		ナガレアブ科		○										
アブ	アブ科				○	○								
オドリバエ	オドリバエ科		○											
トビケラ	ヤマトビケラ	コヤマトビケラ		○										
		イノブスヤマトビケラ				○	○	○						
		ヤマトビケラ属		○										
	ナガレトビケラ	ヒロアタマナガレトビケラ		○		○								
		ホッカイドウナガレトビケラ		○										
		カワムラナガレトビケラ						○						
		ムナグロナガレトビケラ		○										
		トランスクイラナガレトビケラ					○	○						
		ナガレトビケラ属					○	○						
		ツメナガレトビケラ		○										
	ヒゲナガカワトビケラ	ヒゲナガカワトビケラ		○		○	○	○						
	シマトビケラ	アミメシマトビケラ属 (シロフツヤトビケラ属)		○		○	○							
		シロフツヤトビケラ					○							
		コガタシマトビケラ		○		○	○							
		ウルマーシマトビケラ		○		○	○	○						
シマトビケラ属						○								
ミヤマシマトビケラ属						○	○							

門・網	目	科	種名	文献 6		文献 7				文献12-2		文献12-3		環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック	
				浦士別川	濤沸湖	浦士別川	丸万川	オンネ ナイ川	濤沸湖	濤沸湖	濤沸湖	濤沸湖				
昆虫網	トビケラ	エグリトビケラ	ニンギョウトビケラ	○			○									
			ニンギョウトビケラ属			○	○									
			ジョウザンエグリトビケラ	○												
			コエグリトビケラ属	○				○								
			アツバエグリトビケラ属	○												
			トビモンエグリトビケラ	○		○	○	○								
		カクツツトビケラ	コカクツツトビケラ	○												
			コカクツツトビケラ属	○												
			アメリカカクスイトビケラ	○												
			カクスイトビケラ属			○	○	○								
			マルツツトビケラ属			○	○	○								
		トビケラ目				○	○									
甲殻網	ワラジムシ	コツブムシ	イソコツブムシ		○					○	○					
		ヨコエビ	ユンボソコエビ	ニホンドロソコエビ		○					○					
		キタヨコエビ	トゲオヨコエビ	○						○						
			ヨコエビ類			○	○	○								
袋形動物門																
無針網			無針網		○											
環形動物門																
多毛網			多毛網		○											
	イトゴカイ	ゴカイ	ゴカイ							○						
		イトゴカイ	イトゴカイ								○					
貧毛網			貧毛類	○		○	○	○			○					
扁形動物門																
渦虫網			ウズムシ			○	○									
軟体動物門																
腹足網	ニナ	カワサンショウガイ	カワサンショウガイ			○										
	盤足目	タマキビガイ	タマキビガイ			○										
		ウミニナ	ホソウミニナ			○										
二枚貝網	マルスダレガイ	マルスダレガイ	ヒメアサリ			○										
	イシガイ	カワシンジュガイ	カワシンジュガイ	○									絶滅危惧II類(VU)			
	ハマグリ	マメジミ	マメジミ属	○												

※ 文献 6：平成5年度 濤沸湖漁業影響調査報告書 平成5年12月 社団法人 北海道栽培漁業振興公社
 ※ 文献 7：斜網西部地区 漁業影響調査報告書(濤沸湖) 調査資料編 昭和53年2月 社団法人 北海道水産資源技術開発協会
 ※ 文献12-2：網走市水産振興基本計画(オホーツク・マリン・プロジェクトイン網走) 平成元年
 ※ 文献12-3：網走4湖沼の底生動物(マクロベントス)の分布 網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書 平成12年

6 昆虫類

目	科	検索種名	文献 11	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック	
トンボ	イトトンボ	クロイトトンボ	○			
		セスジイトトンボ	○		希少種 (R)	
		キタイトトンボ	○			
		エゾイトトンボ	○			
		ルリイトトンボ	○			
		ゴトウアカメイトトンボ	○	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危急種 (Vu)	
		エゾルリイトトンボ	○			
	アオイトトンボ	アオイトトンボ	○			
		オツネイトトンボ	○			
	ヤンマ	ルリボシヤンマ	○			
		オオルリボシヤンマ	○			
		ギンヤンマ	○			
	エゾトンボ	キバネモリトンボ	○			
		エゾトンボ	○			
	トンボ	ヨツボシトンボ	○			
		シオカラトンボ	○			
		シオヤトンボ	○			
		ウスバキトンボ	○			
		ムツアカネ	○			
		ナツアカネ	○		希少種 (R)	
		マユタテアカネ	○			
		エゾアカネ	○	準絶滅危惧 (NT)	希少種 (R)	
		アキアカネ	○			
ノシメトンボ		○				
ミヤマアカネ		○				
バッタ		カマドウマ	マダラカマドウマ	○		
	ケラ	ケラ	○			
	カンタン	カンタン	○			
	キリギリス	エゾツユムシ	○			
		ツユムシ	○			
		ハネナガキリギリス	○			
		イブキヒメギス	○			
		ウスイロササキリ	○			
		ヒメクサキリ	○			
		カラフトキリギリス	○		希少種 (R)	
		ヒナバッタ	○			
	バッタ	チシマヒナバッタ	○			
		トノサマバッタ	○			
		フキバッタ	○			
		ミヤマフキバッタ	○			
	ヒシバッタ	○				
	ハサミムシ	クギヌキハサミムシ	コフハサミムシ	○		
クギヌキハサミムシ			○			
カメムシ	セミ	エゾハルゼミ	○			
		コエゾゼミ	○			
	アワフキムシ	マルアワフキ	○			
	アメンボ	アメンボ	○			
		セアカアメンボ	○			
	コオイムシ	オオコオイムシ	○		希少種 (R)	
	タイコウチ	ミズカマキリ	○			
	カスミカメムシ	ハナアカカスミカメ	○			
	ホソヘリカメムシ	キベリヘリカメムシ	○			
	ヘリカメムシ	ヘリカメムシ	○			
	カメムシ	アカスジカメムシ	○			
		ムラサキカメムシ	○			
		ブチヒゲカメムシ	○			
		ナガメ	○			
		オオトゲシラホシカメムシ	○			
		エゾアオカメムシ	○			
		ツノアオカメムシ	○			
ニワハンミョウ		○				
ミヤマハンミョウ		○				
コウチュウ	オサムシ	エゾカタビロオサムシ	○			
		エゾマイマイカブリ	○			
		セスジアカガネオサムシ	○			
		キンナガゴミムシ	○			
		オオキンナガゴミムシ	○			
		エゾキンナガゴミムシ	○			
		セボシヒラタゴミムシ	○			
		マルガタゴミムシ	○			
		ゴミムシ	○			
		コヨツボシゴミムシ	○			
		アオゴミムシ	○			
		コツブゲンゴロウ	コツブゲンゴロウ	○		
		ゲンゴロウ	カラフトシマケシゲンゴロウ	○		
			クロズマメゲンゴロウ	○		
	マメゲンゴロウ		○			
キベリクロヒメゲンゴロウ	○					
	ヨツボシクロヒメゲンゴロウ	○				

目	科	検索種名	文献 11	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック		
コウチュウ	ゲンゴロウ	ヒメゲンゴロウ	○				
		ゲンゴロウモドキ	○				
		マルガタゲンゴロウ	○	準絶滅危惧 (NT)			
		カラフトマルガタゲンゴロウ	○		希少種 (R)		
		シマゲンゴロウ	○		希少種 (R)		
		コシマゲンゴロウ	○				
	ミズスマシ	オオミズスマシ	○				
		ミズスマシ	○			希少種 (R)	
	ガムシ	エンマハバヒロガムシ	○				
		スジヒメガムシ	○				
		エゾガムシ	○	準絶滅危惧 (NT)		留意種 (N)	
		ガムシ	○				
	シテムシ	オオモフトシテムシ	○				
		ヨツボシヒラタシテムシ	○				
		ヒラタシテムシ	○				
	ハネカクシ	シラオビシテムシモドキ	○				
		オオハネカクシ	○				
		アカハネカクシ	○				
	クワガタムシ	ツヤハダクワガタ	○				
		ミヤマクワガタ	○				
		コクワガタ	○				
		スジクワガタ	○				
		アカアシクワガタ	○				
		オニクワガタ	○				
		ノコギリクワガタ	○				
		オオセンチコガネ	○				
	センチコガネ	センチコガネ	○				
		マエカドコエンマコガネ	○				
	コガネムシ	ツノコガネ	○				
		ヨツボシマゴソコガネ	○				
		ツマベニマゴソコガネ	○				
		マゴソコガネ	○				
		シロスジコガネ	○				
		カラフトチャイロコガネ	○				
		ドウガネブイブイ	○				
		ヒメコガネ	○				
		ツヤスジコガネ	○				
		ヒメスジコガネ	○				
		キンスジコガネ	○				
		スジコガネ	○				
		マメコガネ	○				
		トラハナムグリ	○				
		アオハナムグリ	○				
		アオカナブン	○				
		カフトムシ	○				
		タマムシ	フタオタマムシ	○			
		コメツキムシ	サビキコリ	○			
			ベニコメツキ	○			
	エゾヒラタコメツキ		○				
	アイヌアカコメツキ		○				
	カバイロコメツキ		○				
	ベニボタル		キタベニボタル	○			
		ホソベニボタル	○				
	ホタル	ヘイケボタル	○				
	ジョウカイボン	ジョウカイボン	○				
		アオジョウカイ	○				
	テントウムシ	アカホシテントウ	○				
カメノコテントウ		○					
ナナホシテントウ		○					
ナミテントウ		○					
ニジウヤホシテントウ		○					
アカハネムシ	アカハネムシ	○					
ツチハンミョウ	マルクビツチハンミョウ	○					
	カラフトツチハンミョウ	○					
ゴミムシダマシ	カクスナゴミムシダマシ	○					
	ホネゴミムシダマシ	○					
	ホソクビキマワリ	○					
	キマワリ	○					
カミキリムシ	ノコギリカミキリ	○					
	オオクロカミキリ	○					
	アカハナカミキリ	○					
	ブチヒゲハナカミキリ	○					
	ヨツスジハナカミキリ	○					
	エグリトラカミキリ	○					
	エゾカミキリ	○			希少種 (R)		
	センノキカミキリ	○					
	ハンノキカミキリ	○					
	ハンノキカミキリ	○					
	シラホシカミキリ	○					
ハムシ	ハッカハムシ	○					
	ルリハムシ	○					
	ハンノキハムシ	○					
	アザミオオハムシ	○					

目	科	検索種名	文献 11	環境省 レッドリスト	北海道 レッドデータブック
コウチュウ	ハムシ	カタクリハムシ	○		
		ヒメジンガサハムシ	○		
	オトシブミ	オオヒメコブオトシブミ	○		
	ゾウムシ	ハナウドゾウムシ	○		
		シラフヒョウタンゾウムシ	○		
		オオゴボウゾウムシ	○		
		コナラシギゾウムシ	○		
オオゾウムシ	○				
ハチ	アリ	アカヤマアリ	○		
		クロヤマアリ	○		
	スズメバチ	トガリフタモンアシナガバチ	○		
		モンズズメバチ	○		
		オオスズメバチ	○		
		ケブカスズメバチ	○		
	ミツバチ	オオマルハナバチ	○		
		エゾオオマルハナバチ	○		
		セイヨウオオマルハナバチ	○		
		トラマルハナバチ	○		
		ヨウシュウミツバチ	○		
ハエ	ケバエ	メスアカケバエ	○		
	アブ	ゴマフアブ	○		
		アカウシアブ	○		
		ウシアブ	○		
	ハナアブ	ムツモンホソヒラタアブ	○		
		コガタノヒラタアブ	○		
		ヤマトヒゲナガハナアブ	○		
		シロスジベッコウハナアブ	○		
		オオシマハナアブ	○		
		シマハナアブ	○		
		ハナアブ	○		
		アシブトハナアブ	○		
		フタガタハナアブ	○		
		スズキナガハナアブ	○		
チョウ	セセリチョウ	コキマダラセセリ	○		
		オオチャバネセセリ	○		
		コチャバネセセリ	○		
	アゲハチョウ	カラスアゲハ	○		
		ミヤマカラスアゲハ	○		
		キアゲハ	○		
		ナミアゲハ	○		
		ヒメウスバシロチョウ	○		
	シロチョウ	ツマキチョウ	○		
		エゾシロチョウ	○		
		モンキチョウ	○		
		エゾヒメシロチョウ	○		
		スジグロシロチョウ	○		
		エソスジグロシロチョウ	○		
		モンシロチョウ	○		
		オオモンシロチョウ	○		
	シジミチョウ	ルリシジミ	○		
		アイノミドリシジミ	○		
		ツバメシジミ	○		
		カバイロシジミ	○		
		ベニシジミ	○		
		ゴマシジミ	○	絶滅危惧II類 (VU)	
		ミドリシジミ	○		
	ヒメシジミ	○			
	ムモンアカシジミ	○			
	タテハチョウ	コヒオドシ	○		
		コムラサキ	○		
		サカハチチョウ	○		
		アカマダラ	○		
		ミドリヒョウモン	○		
		ウラギンズジヒョウモン	○	準絶滅危惧 (NT)	
		コヒョウモン	○		
		カラフトヒョウモン	○	準絶滅危惧 (NT)	
ウラギンヒョウモン		○			
クジャクチョウ		○			
フタスジチョウ		○			
コムスジ		○			
エルタテハ		○			
シータテハ		○			
ギンボシヒョウモン	○				
ジャノメチョウ	シロオビヒメヒカゲ	○			
	クロヒカゲ	○			
	ジャノメチョウ	○			
	サトキマダラヒカゲ	○			
	オオヒカゲ	○			
ヤママユガ	ヒメウラナミジャノメ	○			
	オオミズアオ	○			
	オナガミズアオ	○			

※ 文献 11 : とうふつ湖の昆虫一覧 平成18年

7 参考文献リスト

文 献 名	発行年	編者・発行元
地質調査所月報 第22巻 第11号 北海道サロマ湖の後氷期の地史	昭和46年11月	経済産業省 地質調査所
土木研究所彙報 第53号 河川の総合負荷量調査実施マニュアル(案)	平成元年	建設省土木研究所
国土数値情報 平成9年 土地利用メッシュ L03-09M	平成9年	国土交通省
湿地と私たちの暮らし	—	環境省自然環境局
釧路から始まる 環境省釧路湿原自然再生事業 資料集	平成15年6月	環境省自然環境局 東北海道地区自然保護事務所
平成16年度 重要生態系監視地域モニタリング推進事業 モニタリングサイト1000 ガンカモ類調査業務報告書	平成17年3月	環境省自然環境局
日本のラムサール条約湿地	平成17年	環境省
第2回ラムサール条約湿地検討会議記録	平成16年9月	環境省HP
ラムサール条約湿地のワイズユース	平成19年	環境省自然環境局
網走川治水史	平成6年	北海道開発局 網走開発建設部
環の道 第6号	平成19年4月	環境省北海道地方環境事務所
昭和61年度 研究成果報告書 寒冷地圏域の海跡湖における環境保全に関する研究	昭和62年	北海道開発局 土木試験所
平成13年度 サロマ湖漁港湖内影響調査解析業務報告書	平成14年	北海道開発局 網走開発建設部
網走管内における総合的な湖沼環境保全推進業務 調査報告書 概要版	平成18年3月	北海道開発局 網走開発建設部
野鳥生息環境実態調査報告書 トウフツ湖	昭和51年3月	北海道
第2回 自然環境保全基礎調査 湖沼調査報告書	昭和54年	北海道
北海道湖沼環境保全基本指針	平成元年10月	北海道
平成4年度 網走・能取地区内陸工業開発環境保全総合事前調査報告書	平成5年	北海道通商産業局
平成5年度 網走・能取地区内陸工業開発環境保全総合事前調査報告書	平成6年	北海道通商産業局
北海道湿原保全マスタープラン	平成6年6月	北海道環境生活部
釧路湿原保全プラン	平成8年3月	北海道保健環境部
サロベツ湿原群保全プラン	平成10年3月	北海道環境生活部
北海道環境基本計画	平成10年7月	北海道環境生活部
クッチャロ湖湿原保全プラン	平成11年4月	北海道環境生活部
雨竜沼湿原保全プラン	平成12年3月	北海道環境生活部
平成17年版 網走の水産	平成19年1月	北海道網走支庁産業振興部
北海道地域環境学習講座 eco-アカデミア 平成19年度	—	北海道環境生活部
北海道内水面漁業振興施設整備事業実施要領(抜粋)	—	北海道
管内河川図	—	北海道網走土木現業所
統計オホーツク圏 人口(住民基本台帳)	—	北海道網走支庁HP
公共用水域の水質測定結果	—	北海道保健環境部
霞ヶ浦に係る湖沼水質保全計画(第3期)策定関係資料集	平成10年	茨城県生活環境部
網走市水産振興基本計画(オホーツク・マリン・プロジェクトイン網走)	平成元年	北海道網走市
能取湖海水交換調査業務報告書	平成4年	北海道網走市
濤沸湖漁業振興対策基礎調査報告書	平成6年	北海道網走市
網走市総合計画 1998-2007	平成10年3月	北海道網走市企画調整部
網走市総合計画 1998-2007 ダイジェスト版	平成10年3月	北海道網走市企画調整部
網走港港湾計画書 改訂	平成10年11月	網走港港湾管理者
網走市都市計画マスタープラン	平成15年3月	北海道網走市建設部
網走市都市計画マスタープラン 概要版	平成15年3月	北海道網走市建設部
網走市環境基本計画	平成16年3月	北海道網走市市民部
網走市環境基本計画 概要版	平成16年3月	北海道網走市市民部
2004 網走市勢要覧 網走再発見	平成16年	北海道網走市企画総務部
網走市大曲湖畔農場利用基本計画	平成17年3月	北海道網走市経済部
小学校社会科副読本 あばしり	平成17年3月	北海道網走市教育委員会
第9期 網走市農業振興計画 2005-2009	平成17年3月	北海道網走市経済部
網走市観光振興計画	平成17年3月	北海道網走市経済部
網走市環境白書 概要(第1編)平成17年度	平成18年3月	北海道網走市市民部
新網走市水産振興計画 06	平成18年3月	北海道網走市
網走市景観と緑の基本計画 概要版	平成18年3月	北海道網走市
網走市環境白書 調査・測定結果(第2編) 平成18年度	平成19年3月	北海道網走市市民部
平成19年度 網走市予算の概要 ことしのまちづくり	平成19年4月	北海道網走市企画総務部
平成19年度版 市民生活便利帳 あばしりがいどぶっく	平成19年4月	北海道網走市企画総務部
平成19年版 あばしりの農業	平成19年8月	北海道網走市経済部
2007 網走市の教育	平成19年11月	北海道網走市教育委員会

文 献 名	発行年	編者・発行元
平成19年度版 商工労働観光概要	—	北海道網走市経済部
網走市勢要覧資料編 2007	—	北海道網走市企画総務部
平成17年度 水産統計	—	北海道網走市水産港湾部
平成19年度 網走市社会教育推進計画書	—	北海道網走市教育委員会
みんなの健康 元気な網走 網走市民健康づくりプランⅡ	—	北海道網走市保健センター
網走市地域福祉計画 概要版 2006年度～2010年度	—	北海道網走市
網走港	—	北海道網走市
網走の都市計画 資料編 2007	—	北海道網走市建設部
網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書	平成12年	北海道網走市・東京農大
どうふつ湖の昆虫一覧	平成18年	網走市立郷土博物館
どうふつ湖の野鳥一覧	平成18年	網走市立郷土博物館
どうふつ湖の植物一覧	平成18年	網走市立郷土博物館
網走港港湾計画書 軽易な変更	平成19年2月	網走港港湾管理者
第4次小清水町総合計画 後期基本計画 平成18年度～22年度	平成18年6月	北海道小清水町
小清水町勢要覧 2007 こしみず 資料編	平成19年10月	北海道小清水町企画財政課
小清水町勢要覧 2008	平成20年	北海道小清水町
平成19年度 農業の概要	—	北海道小清水町
小清水町 観光ガイドブック	—	—
斜網西部地区 漁業影響調査報告書(濤沸湖) 調査資料編	昭和53年2月	社団法人 北海道水産資源技術開発協会
斜網西部地区 漁業影響調査報告書(濤沸湖)	昭和57年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
昭和58年度 藻琴湖漁業影響調査報告書(シジミガイ・魚類)	昭和59年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成5年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成5年12月	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成6年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成7年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成7年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成8年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成8年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成9年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成9年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成10年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成10年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成11年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成11年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成12年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成12年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成13年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成13年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成14年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成14年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成15年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成15年度 斜網西部地区 濤沸湖漁業影響調査報告書	平成16年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成10年度 藻琴湖環境調査報告書	平成11年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成13年度 能取湖水産環境調査報告書	平成14年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成14年度 サロマ湖生態系モデル作成業務報告書	平成15年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成16年度 能取湖漁場環境調査報告書 平成13～16年度の総括	平成17年	社団法人 北海道栽培漁業振興公社
平成8年版 流域別下水道整備総合計画調査 指針と解説	—	社団法人 日本下水道協会
平成11年版 流域別下水道整備総合計画調査 指針と解説	—	社団法人 日本下水道協会
網走湖の流域調査について	—	北海道公害防止研究所
アメダス観測年報	—	財団法人 気象業務支援センター
平成12年 国勢調査に関する地域メッシュ統計	平成12年	財団法人 統計情報研究開発センター
平成13年 事業所・企業統計調査メッシュ統計	平成12年	財団法人 統計情報研究開発センター
北海道市町村勢要覧	—	北海道統計協会
平成17年度 網走管内における総合的な湖沼環境保全推進業務	平成17年	財団法人 河川環境管理財団
一級河川、二級河川及び準用河川調書	平成8年5月	社団法人 北海道土木協会
北海道の湖沼 改訂版	平成17年3月	北海道環境科学研究センター
宮島沼保全活用計画(概要版) 宮島沼ワイズユース	平成14年3月	北海道美瑛市
宮島沼保全活用計画	平成14年3月	北海道美瑛市
東京農業大学 網走農場とその周辺の植物 —農大植物園網走分園基礎資料として—	昭和62年4月	東京農業大学植物園
東京農業大学 統 網走農場とその周辺の植物 —東京農大植物園網走分園基礎資料2—	平成元年6月	東京農業大学植物園
オホーツク100の素顔 もうひとつのガイドブック	平成13年6月	東京農大出版会
大観山 第18号 ワイルド バード 濤沸湖	平成18年12月	東京農大 農友会オホーツク支部
北の大地の生物生産 100の挑戦	—	東京農大出版会
藻琴湖調査報告書(ヤマトシジミ・水質・底質調査)	昭和57年	網走漁業協同組合
ラムサール・スピリットと湿原のワイズユース 日本における湿地の賢い活用事例と評価基準試案	平成18年3月	日本国際湿地保全連合
ラムサール条約 賢明な利用ハンドブック 第2版第8巻 湿地の管理	平成19年3月	日本湿地ネットワーク

文 献 名	発行年	編者・発行元
北海道シーニックバイウェイ宣言	—	シーニックバイウェイ北海道サポーターズクラブ
シーニックバイウェイ北海道	—	シーニックバイウェイ北海道推進協議会事務局
知床・オホーツク観光立圏行動計画の概要	—	知床・オホーツク観光立圏行動計画策定協議会
瀧沸湖畔のアクセシ草群落	—	山田 訓二
Proc.A.S.C.E 98 SA2	昭和47年	Parker,D.SIほか
水産増殖叢書 29 閉鎖性湾の海水交流、水産土木事例と計算法(Ⅰ)	昭和55年	萩野静也
水産工学研究所報告 6号 サロマ湖の海水交流に関する研究	昭和59年	萩野静也
日本海洋学会誌 40 海水交換概念と海水交換率	昭和59年	柏井誠
瀧沸湖周辺(除く海域)で観察された鳥類一覧 一探鳥ガイド、網走の野鳥277他一	昭和60年	斎藤喜一郎
河川汚濁のモデル解析	平成元年	国松孝男・村岡浩爾
ンポイント汚濁源のモデル解析	平成2年	和田安彦
生物と気象とのかかわり	平成3年9月	鈴木淳志
網走における漁業の現状と漁家の経営分析	平成6年1月	菊池哲夫
網走の湖沼 その特徴と役割 平成7年度 北海道ミドルエイジセミナー資料	—	桑原連
知床博物館研究報告 第18集 網走市・小清水町・斜里町におけるオホーツク海沿岸部周辺の鳥類	平成9年	川崎康弘
北海道草地研究会報 第31号 瀧沸湖畔における植生分布に影響する環境要因について	平成9年	中村隆俊・小松輝行
水産海洋研究 59(1) サロマ湖における水塊変動	平成7年	柴沼成一郎ほか
瀧沸湖畔における植生分布に影響する環境要因について	平成9年	中村隆俊・小松輝行
北海道オホーツク海沿岸に連なる海跡湖を訪ねて(続)	平成11年	磯部一洋ほか
網走4湖沼の水質の特徴 網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書	平成12年	安富亮平ほか
環境教育研究 第3巻 第1号 能取湖の塩湿地におけるアッケシソウの分布	平成12年3月	境博成ほか
網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書 網走4湖沼の底生動物(マクロベントス)の分布	平成12年	桑原 連
網走市湖沼環境総合調査成果最終報告書 網走4湖沼の水生植物	平成12年	中山薫
平成12年度 北海道立網走水産試験場事業報告書 能取湖漁場環境調査	平成13年	蔵田護
知床博物館研究報告 第22集 網走支庁管内鳥類目録 ー北海道・オホーツク圏で確認された鳥類ー	平成13年	川崎康弘
環境教育研究 第4巻 第1号 網走湖畔女満別国有林に分布するミズバショウ群落	平成13年3月	境博成ほか
環境教育研究 第4巻 第2号 北海道東部コムケ湖の塩湿地に於けるアッケシソウ群落	平成13年10月	境博成ほか
オホーツク海沿岸の自然環境とその変貌、OKHOTSK北の異界 古代オホーツクと氷民文化(東京大学総合研究博物館春季特別展資料)	平成14年	平井幸弘
日本生態学会誌 17号 窒素過剰な冷温帯湿原における矮小群落の特異的な発達に対する還元土壌の役割	平成14年1月	中村隆俊ほか
釧路国際ウェットランドセンター技術委員会調査研究報告書 渡り性水鳥の生息地保全と修復について	平成16年3月	澁谷辰夫
知床博物館研究報告 第25集 網走地方において近年記録された稀少カモ目鳥類	平成16年	川崎康弘
知床博物館研究報告 第25集 網走地方において近年記録された稀少カモ目鳥類	平成16年	川崎康弘

VII 用語集

(あ)

インタープリター

インタープリターとは、「自然遺産や文化遺産を通訳すること」を表し、自然、文化、歴史（遺産）の価値などを、一方的な解説ではなく、相互のコミュニケーションを通じて、わかりやすく伝える活動を行う人のこと。

NPO (NonProfit Organization)

NPO とは、ボランティア活動などの社会貢献活動を行う、営利を目的としない団体の総称のこと。

(か)

外来種

外来種とは、人間の活動に伴って意図する・しないに関わらず、それまでその生き物が生息していなかった場所に持ち込まれた生物のこと。

国外から持ち込まれ定着した生物のうち、植物を帰化植物、動物を帰化動物という。

環境保全型農業

食料・農業・農村基本法においては、我が国農業の持続的な発展を図るため、農業の「自然循環機能の維持増進」が不可欠であると記されている。農業は、食料供給の機能のほか、国土や環境の保全といった多面的機能を有しており、このような機能を将来にわたって発揮していくことが必要であるが、農業の生産面についてみると、近年、たい肥等の施用量が著しく低下してきている等土づくりがおろそかになる一方で、化学肥料・農薬への過度の依存による環境の悪化がみられるなど、環境と調和のとれた持続的な農業生産が立ち行かない事態も生じてきている。また、農産物の消費面についてみると、有機農産物等化学肥料・農薬の使用を控えた農産物に対する消費者のニーズが高まってきている。

こうした状況に対処するためには、家畜排せつ物等の有効利用によるたい肥等を活用した土づくりと、化学肥料・農薬の使用の低減を行う農業生産方式の浸透を図ることが急務となっている。

また、国際的にも、化学肥料・農薬の使用の低減等を行う持続的な農業を推進することが農業政策として重視されてきている。

汽水湖

地理学上の定義では、塩類の濃度が 500mg/l (0.05%) 以下の場合を淡水湖と呼ぶが、岩塩が広く分布している地域では、塩水の湧出による湖も存在する。汽水湖とは、海水と淡水が入り混じっている湖のことで、日本では浜名湖、宍道湖などがある。

国定公園

国定公園とは、国立公園に準じる景勝地として「自然公園法」（昭和 32 年）に基づいて環境大臣が指定した公園であり、国立公園が国の直接管理なのに対し、国定公園は都道府県が管理する。

(さ)

生物多様性国家戦略

生物多様性国家戦略とは、私たちの子孫の代になっても、生物多様性の恵みを受け取ることが出来るように、生物多様性条約に基づき、生物多様性の保全と持続可能な利用に関わる国の政策の目標と取り組みの方向を定めたものである。政府は、平成 7 年 10 月に「生物多様性国家戦略」を決定し、平成 14 年には全面的な見直しをした第二次となる「新・生物多様性国家戦略」を決定した。

資源管理型漁業

漁業の主役である漁業者が主体となって地域や魚種ごとの資源状態に応じ、資源管理を機動的に行うとともに、漁獲物の付加価値向上や経営コストの低減などを図るこちにより、将来にわたって漁業経営の安定、発展を目指す漁業を言う。

里親運動

網走市では天都山山頂の花壇を、市民やボランティア団体が里親となって育てる「アダプトプログラム天都山」という取り組みを行っている。市民の協力で美しい花園を誕生させ、市民の憩いの場としても、新しい観光スポットとしても人気を博している。

循環型社会

循環型社会とは、人間の社会活動がずっと持続することが可能な、破綻しない社会の概念である。これは、生産→消費→廃棄→再利用→生産といった、資源が循環して活用されることが必要であり、廃棄物の発生を抑制したり、排出された廃棄物等についてはできるだけ資源として適正に利用することが求められる。言い換えれば、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が極力低減された社会のことである。

(た)

鳥獣保護区

野生鳥獣の保護繁殖と生息環境の保全を図るため、「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」（平成 14 年）に基づき指定している区域のこと。具体的には、集団渡来地、森林鳥獣生息地、身近な鳥獣生息地などで重要な区域が指定されている。

地球温暖化

地球の平均気温が上昇することで世界が直面している深刻な地球環境問題のひとつと言われ、年間平均気温の世界平均が上昇するので、それに伴い降雨パターンや気象変化パターンが変化したり異常気象の頻度が上がったという、深刻な気候変動への影響が懸念される問題のことである。

また地球温暖化の原因には、人為的な原因と自然的な原因があると言われている。人為的なものとしては、化石燃料の燃焼による CO₂ の排出、交通乗り物などから排出される CO₂、NO_x 等の増加、工業生産の排ガスによる CO₂ の増加などがあげられる。自然発生的なものには、火山活動、生物呼吸、海水などからの CO₂ の放出等があります。

地産地消

地産地消（ちさんちしょう）とは、地域生産地域消費（ちいせいさん・ちいしょうひ）の略語で、地域で生産された農産物や水産物をその地域で消費すること。

DMV(Dual Mode Vehicle)

列車が走るための軌道と、自動車が走るための道路の双方を走行可能な車両のこと。JR 北海道では平成 16 年 1 月に DMV の開発に成功し、平成 19 年 4 月～11 月に浜小清水駅～藻琴駅間で試験的営業運行が行われた。

(な)

内水面漁業

内水面漁業とは、河川・湖沼・池・用水路などの内水面で行なう漁業のことであり、これに対して、海での漁業を海面漁業という。

ナショナルトラスト運動

ナショナルトラスト運動とは、貴重な自然環境の保護や歴史的建造物などの保存のために、広く一般の方々からの支援を募って、土地や建造物を買取り管理して後世に残していこうという運動のこと。

農村景観整備事業

国民がゆとり、安らぎ、心の豊かさなどの価値観を重視するようになってきている中で、農業の多面的機能が発揮され、豊かな自然環境や美しい景観、伝統文化にふれあうことのできる個性的・特徴的な農村空間に対する国民の理解と期待が高まっている。このような状況を踏まえ、農村地域における景観・自然環境の保全・形成等に向けた地域の取り組みを支援し地域活性化を図るため、棚田や農業用水路、防風林の保全などによる景観形成に対し直接支援を行う農村景観・自然環境保全再生パイロット事業を公募方式により実施している。

野焼き・火入れ

小清水原生花園では、河川改修の影響で砂の供給量が減る一方で、放牧や野火といった人為的な攪乱が強くなり、そのような自然に対する干渉がバランスよく存在していたために、原生花園景観が良好な状態で維持されていたのだろうと言われている。そのため実験等を繰り返しながら市民ボランティアなどの力を借りて、野焼きや火入れが現在も継続的に行われている。

(は)

ピオトープ

ピオトープとは、ドイツ語でピオ（生き物）とトープ（場所）の合成語（合成語）で「それぞれの地域の、野生生物の生息空間」のことである。

ビジターセンター

ビジターセンターは、国立公園(自然公園)などを訪れる方々に、公園の自然をわかりやすく展示・解説し、自然とふれあうきっかけをつくっていただくための施設である。例えばトレッキングや登山、自然観察についてのアドバイスをを行い、自然情報等を訪問者に提供すると共に、観察会や学習なども開催している。

漂砂

漂砂(ひょうさ)は波または海に発生する様々な流れによって生じる土砂の移動、もしくは移動する土砂のことで、海岸浸食や堆積に深く関わるものである。漂砂量は通常、方向別に単位長さあたり $m^3/s/m$ で表すことが多い。漂砂の主な供給源は河川である。それゆえ、河川流域および漂砂の移動する沿岸域をまとめて「漂砂系」と呼称する。また浜や崖の欠潰や沖合、隣接海岸などから到来する海中の石・岩礁片・漂着固形物なども漂砂と言う。

保安林

木材の生産という経済的な機能よりも、災害の防止、他産業の保護その他公共の福祉の増進を目的として、森林法により一定の制限や義務が課せられた森林を言う。保安林においては、立木竹の伐採等一定の行為を行う際には、都道府県知事の許可が必要であり、保安林の整備については、保安林整備臨時措置法により行われる。

(ま)

モニタリング

日常的かつ継続的な点検のことで、調査や分析、解析を行いながら、監視活動等続け、問題などが発生したら、関係各位、機関等で協議を行い対策を施すことである。

木育

平成 18 年 9 月に閣議決定された森林・林業基本計画では『市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、「木育」ともいふべき木材利用に関する教育活動を推進する』とある。

これを受けて「木育」とは、木材や森林との関わり合いから、知育、徳育、体育の3つの側面を効果的に育む取り組みであり、社会的協同によっても効果的に実施・普及させる必要があると考えられており、木づかい運動の一環として木育の活動促進・支援事業が展開されている。

(ら)

ラムサール条約

ラムサール条約とは、1971年にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択された。この条約は開催地の地名にちなみ、一般に「ラムサール条約」と呼ばれている。

本条約では、産業や地域の人々の生活とバランスのとれた保全を進めるために、湿地の「賢明な利用(Wise Use:ワイズユース)を提唱している。賢明な利用とは、湿地の生態系を維持しつつそこから得られる恵みを持続的に活用することである。

レッドデータブック

野生生物の保全のためには、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要があることから、環境省では、レッドリスト(日本の絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)を作成・公表するとともに、これを基にしたレッドデータブック(日本の絶滅のおそれのある野生生物の種についてそれらの生息状況等を取りまとめたもの)を刊行している。

野生生物の生息状況は常に変化しているため、レッドリスト・レッドデータブックにおける評価は、定期的に見直すことが不可欠であり、環境省では、昭和 61 年度より「緊急に保護を要する動植物の種の選定調査」を行い、その結果を踏まえて平成 3 年に、環境省版レッドデータブック「日本の絶滅のおそれのある野生生物一脊椎動物編」および「日本の絶滅のおそれのある野生生物一無脊椎動物編」を作成した。

レッドリスト

平成7年度よりレッドデータブックの第一次見直し作業が開始され、分類群ごとにレッドリストを作成・公表するとともに、これを基にレッドデータブックを編纂している。この見直しにおいては、平成6年にIUCN（国際自然保護連合）が採択した、減少率等の数値による客観的な評価基準に基づく新しいカテゴリーに従うこととしたが、我が国では数値的に評価が可能となるようなデータが得られない種も多いこと等の理由から、定性的要件と定量的要件を組み合わせた新たなカテゴリーを策定した。なお、無脊椎動物、維管束植物以外の植物については、絶滅危惧ⅠA類、絶滅危惧ⅠB類を区別せず、絶滅危惧Ⅰ類としている。平成12年4月までに、動植物全ての分類群についてレッドリストの見直しを完了して公表し、レッドデータブックについても、平成18年8月までに全てを刊行した。

また平成18年12月には、鳥類、爬虫類、両生類およびその他無脊椎動物の4分類群の新たなレッドリストを取りまとめて公表、平成19年8月には、残りの哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物Ⅰおよび植物Ⅱの6分類群について、新たなレッドリストが公表されている。